

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	1学期	1	2	
	PLS110F 休講	1年			
	異文化理解の基礎	1学期	1	2	
	ANT110F 休講	1年			
	ことばの科学	1学期	1	2	1
	LIN110F 漆原 朗子	1年			
	国際学入門	1学期	1	2	2
	IRL100F 伊野 憲治	1年			
	生活世界の哲学	1学期	1	2	3
	PHR110F 伊原木 大祐	1年			
	日本の防衛	1学期	1	2	4
	PLS111F 戸蒔 仁司	1年			
	生命と環境	1学期	1	2	5
	BIO100F 日高 京子 他	1年			
	情報社会への招待	2学期	1	2	6
	INF100F 中尾 泰士	1年			
	環境問題概論	1学期	1	2	7
	ENV100F 廣川 祐司	1年			
可能性としての歴史	2学期	2	2		
HIS200F 休講	2年				
現代社会と文化	2学期	2	2	8	
ANT210F 神原 ゆうこ	2年				
言語と認知	1学期	2	2	9	
LIN210F 漆原 朗子 他	2年				
共生社会論	2学期	2	2	10	
SOW200F 伊野 憲治	2年				
共同体と身体	2学期	2	2	11	
PHR210F 伊原木 大祐	2年				
戦争論	2学期	2	2	12	
PLS210F 戸蒔 仁司	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会	1学期	2	2	13
	BIO200F 日高 京子	2年			
	情報社会を読む	2学期	2	2	14
	INF200F 浅羽 修丈	2年			
	地域資源管理論	2学期	2	2	15
	ENV200F 廣川 祐司	2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	16
	GES101F 徳永 政夫 他	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	17
	GES101F 伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	18
	GES101F 稲月 正	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	19
	GES101F 神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	20
	GES101F 小林 道彦	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	19
	GES101F 戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	20
	GES101F 日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	21
	GES101F 廣川 祐司	1年			
教養基礎演習I	1学期	1	2	22	
GES101F 石川 敬之	1年				
教養基礎演習I (発達障がいセミナー)	1学期	1	2	23	
GES101F 伊野 憲治	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	24	
GES102F 徳永 政夫 他	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	25	
GES102F 眞鍋 和博 他	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	26
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 稲月 正	2学期	1	2	27
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	28
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	集中	1	2	29
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	30
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 石川 敬之	2学期	1	2	32
		1年			
教養基礎演習II (発達障がいセミナー) GES102F 伊野 憲治	2学期	1	2	33	
	1年				
教養演習AI GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	34	
	2年				
教養演習AI GES201F 稲月 正	1学期	2	2	35	
	2年				
教養演習AI GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI GES201F 徳永 政夫、高西 敏正	1学期	2	2		
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	36	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I GES201F 日高 京子	1学期	2	2	37
		2年			
	教養演習 A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	38
		2年			
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	39
		2年			
	教養演習 A II GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2	40
		2年			
	教養演習 A II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	41
		2年			
	教養演習 A II GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	42
		2年			
	教養演習 A II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 A II GES202F 徳永 政夫、高西 敏正	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	43
		2年			
	教養演習 A II GES202F 日高 京子	2学期	2	2	44
		2年			
教養演習 A II GES202F 二宮 正人	2学期	2	2		
	2年				
教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	45	
	2年				
教養演習 A II (発達障がいセミナー) GES202F 伊野 憲治	2学期	2	2	46	
	2年				
教養演習 B I GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	47	
	3年				
教養演習 B I GES301F 稲月 正	1学期	3	2	48	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2	3年	
	教養演習BⅠ GES301F 小林 道彦	1学期	3	2	3年	
	教養演習BⅠ GES301F 徳永 政夫、高西 敏正	1学期	3	2	3年	
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	3年	49
	教養演習BⅠ GES301F 日高 京子	1学期	3	2	3年	50
	教養演習BⅠ GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	3年	51
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) GES301F 伊野 憲治	1学期	3	2	3年	52
	教養演習BⅡ GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	3年	53
	教養演習BⅡ GES302F 稲月 正	2学期	3	2	3年	54
	教養演習BⅡ GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	3年	55
教養演習BⅡ GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	3年		
教養演習BⅡ GES302F 徳永 政夫、高西 敏正	2学期	3	2	3年		
教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 戸蒔 仁司	集中	3	2	3年	56	
教養演習BⅡ GES302F 日高 京子	2学期	3	2	3年	57	
教養演習BⅡ GES302F 二宮 正人	2学期	3	2	3年		

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	58
		3年			
	教養演習BII(発達障がいセミナー) GES302F 伊野 憲治	2学期	3	2	59
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなごし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	60
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	61
		1年			
	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	62
		1年			
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	63
		1年			
	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	64
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 森永 今日子	1学期	1	2	65
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	66
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	67
		1年			
未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	68	
	1年				
私たちと宗教 PHR006F 佐藤 真人	2学期	1	2	69	
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	70	
	1年				
文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	71	
	1年				
言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	72	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	73
	1年				
	文学を読む LIT001F 生住 昌大 他	2学期	1	2	74
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	75
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	76
	1年				
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	77
	1年				
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	78
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	79
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	80
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	81
	1年				
共生の作法 LAW001F 今泉 恵子 他	1学期	1	2	82	
1年					
法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	83	
1年					
社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	84	
1年					
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	85	
1年					
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	86	
1年					
現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	87	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	88
		1年			
	都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期	1	2	89
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	90
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 尹 明憲 他	1学期	1	2	91
		1年			
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	92
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	93
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	94
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期	1	2	95	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	96	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	97	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	98	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 赤司 友徳	1学期	1	2	99	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期	1	2	100	
	1年				
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	101	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	もの与人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	102
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	103
		1年			
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	104
		1年			
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	105
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	106
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	107
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	108
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	109
		1年			
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	110
	1年				
日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期	1	2	111	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	112
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	113
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	114
		1年			
フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	115	
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	116	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	117
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	118
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	119
		1年			
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	120
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	121
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 山崎 将幸	1学期	1	1	122
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	123
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	124
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	125
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	126
		1年			
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	127	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	128	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	129	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	130	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	131	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	132
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	133
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	134
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	135
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	136
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	137
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	138
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	139
	1年				
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	140
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	141
	2年				
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	142
	2年				
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	143
2年					
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	144	
1年					
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	145	
1年					

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習I CAR280F 見館 好隆	1学期	2	2	146
		2年			
	プロジェクト演習II CAR281F 見館 好隆	2学期	2	2	147
		2年			
プロジェクト演習III CAR380F 見館 好隆	1学期	3	2	148	
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 見館 好隆	2学期	3	2	149	
	3年				
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介	2学期	1	2	150
		1年			
	教養特講II (グローバリゼーションと倫理的消費) SPL002F 大平 剛	1学期	1	2	151
		1年			
教養特講III (まなびと講座 A) SPL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講IV (まなびと講座 B) SPL004F 眞鍋 和博	2学期	1	2	152	
	1年				
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	2学期	1	2	153
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	2学期	1	2	154
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	1学期	2	2	155
		2年 (2016年度以降入学生)			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	156
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究I CAR270F 田中 ひろみ	2学期	2	2	157	
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究II CAR370F 未開講		3	2		
	3年 (2016年度以降入学生)				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	1学期	1	2	158
		人1 - 1 . 再履 (人1 - 1 , 英1 - 1 , 英1 - 2 , 中)			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 INF101F 佐々木 実	1学期	1	2	159
		人1-2 . 再履 (人1-2 , 英1-3 , 英1-4)			
	データ処理 INF101F 佐藤 貴之	2学期	1	2	160
		1 学期未修得者再履			
	情報表現 INF230F 休講	1学期	2	2	
		2 年			
	情報表現 INF230F 中尾 泰士	2学期	2	2	161
		2 年			
	情報表現 INF230F 棚次 奎介	2学期	2	2	162
		2 年			
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	163
		2 年			
	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	164
		3 年			
情報メディア演習 INF330F 中尾 泰士	2学期	3	2	165	
	3 年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (人1-A) ENG101F 渡邊 晶子	1学期	1	1	166
		人1 - A			
	英語I (人1-B) ENG101F 相原 信彦	1学期	1	1	167
		人1 - B			
	英語I (人1-C) ENG101F 杉山 智子	1学期	1	1	168
		人1 - C			
	英語II (人1-A) ENG111F 渡邊 晶子	2学期	1	1	169
		人1 - A			
英語II (人1-B) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	170	
	人1 - B				
英語II (人1-C) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	171	
	人1 - C				
英語III (人1-A) ENG102F デール・スタイル	1学期	1	1	172	
	人1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (人 1 - B) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	173
		人 1 - B			
	英語III (人 1 - C) ENG102F デビッド・ アダム・ ストット	1学期	1	1	174
		人 1 - C			
	英語IV (人 1 - A) ENG112F デール・ スティール	2学期	1	1	175
		人 1 - A			
	英語IV (人 1 - B) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	176
		人 1 - B			
	英語IV (人 1 - C) ENG112F マイケル・ バーク	2学期	1	1	177
		人 1 - C			
	英語V (人 2 - A) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	178
		人 2 - A			
	英語V (人 2 - B) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	179
		人 2 - B			
	英語V (人 2 - C) ENG201F 村田 希巳子	1学期	2	1	180
		人 2 - C			
	英語VI (人 2 - A) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	181
		人 2 - A			
英語VI (人 2 - B) ENG211F 大塚 由美子	2学期	2	1	182	
	人 2 - B				
英語VI (人 2 - C) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	183	
	人 2 - C				
英語VII (人 2 - A) ENG202F アルバート・ オスカー・ モウ	1学期	2	1	184	
	人 2 - A				
英語VII (人 2 - B) ENG202F クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	185	
	人 2 - B				
英語VII (人 2 - C) ENG202F ケネス・ ギブソン	1学期	2	1	186	
	人 2 - C				
英語VIII (人 2 - A) ENG212F アルバート・ オスカー・ モウ	2学期	2	1	187	
	人 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII (人2-B) ENG212F クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	188
		人2-B			
	英語VIII (人2-C) ENG212F ケネス・ギブソン	2学期	2	1	189
		人2-C			
	英語IX (比人3年) ENG301F 渡邊 嘉則	1学期	3	1	190
		比人3年			
	英語X (比人3年) ENG311F 渡邊 嘉則	2学期	3	1	191
		比人3年			
	英語XI (比人3年) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	3	1	192
		比人3年			
	英語XII (比人3年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	193
		比人3年			
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	194
		済営人律政群1年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	195
		済営人律政群1年			
	中国語III CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	196
		済営人律政群1年			
	中国語IV CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	197
		済営人律政群1年			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	198
		英済営人律政群2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	199
		英済営人律政群2年			
中国語VII CHN202F 張 瑾	1学期	2	1	200	
	英済営人律政群2年				
中国語VIII CHN212F 張 瑾	2学期	2	1	201	
	英済営人律政群2年				
上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	202	
	英国済営比人3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級中国語II CHN311F 唐 雱	2学期	3	1	203
		英国済営比人3年			
	上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	204
		英国済営比人3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	205
		英国済営比人3年			
	朝鮮語I KRN101F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	206
		人1年			
	朝鮮語II KRN111F チャン ユンヒャン	2学期	1	1	207
		人1年			
	朝鮮語III KRN102F 金 光子	1学期	1	1	208
		人1年			
	朝鮮語IV KRN112F 金 光子	2学期	1	1	209
		人1年			
	朝鮮語V KRN201F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	210
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VI KRN211F チャン ユンヒャン	2学期	2	1	211
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VII KRN202F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	212
		済営比人律政群2年			
朝鮮語VIII KRN212F チャン ユンヒャン	2学期	2	1	213	
	済営比人律政群2年				
上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	214	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	215	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語III KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	216	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語IV KRN312F 金 貞愛	2学期	3	1	217	
	英中国済営比人3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	218
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	219
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	220
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	221
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	222
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	223
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	224
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	225
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	226
		済営人律政 1年			
	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	227
		済営人律政 1年			
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	228	
	済営人律政 1年				
ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	229	
	済営人律政 1年				
ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	230	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	231	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	232	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	233
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	234
		済営人律政 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	235
		済営人律政 1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	236
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	237
		済営人律政 1年			
	フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	238
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	239
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	240
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	241
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	242
		中国済営人律政 1年			
スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	243	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	244	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	245	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	246	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	247	
	英中国済営比人律政 2年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VII	1学期	2	1	248
	SPN202F 辻 博子	英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII	2学期	2	1	249
	SPN212F 辻 博子	英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I	1学期	1	1	250
	JSL101F 清水 順子	留学生1年			
	日本語II	1学期	1	1	251
	JSL102F 則松 智子	留学生1年			
	日本語III	1学期	1	1	252
	JSL103F 徐 暁輝	留学生1年			
	日本語IV	2学期	1	1	253
	JSL111F 清水 順子	留学生1年			
	日本語V	2学期	1	1	254
	JSL112F 則松 智子	留学生1年			
	日本語VI	2学期	1	1	255
	JSL113F 徐 暁輝	留学生1年			
	日本語VII	1学期	2	1	256
	JSL104F 小林 浩明	留学生2年			
	日本語VIII	2学期	2	1	257
	JSL114F 清水 順子	留学生2年			
	日本事情(人文)A	1学期	1	2	258
	JPS101F 清水 順子	留学生1年			
	日本事情(人文)B	2学期	1	2	259
	JPS102F 則松 智子	留学生1年			
日本事情(社会)A	1学期	1	2	260	
JPS103F 小林 浩明	留学生1年				
日本事情(社会)B	2学期	1	2	261	
JPS104F 小林 浩明	留学生1年				
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学	2学期	2	2	262
	PSY242M 近藤 倫明	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	社会心理学 PSY210M 田島 司	2学期	2	2	263
		2年			
	対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	2	2	264
		2年			
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	2	2	265
		2年			
	カウンセリング論 PSY232M 田中 信利	2学期	2	2	266
		2年			
	コミュニケーション論 PSY212M 森永 今日子	1学期	2	2	267
		2年			
	学習心理学 PSY221M 大塚 一徳	2学期	2	2	268
		2年			
	教育心理学 PSY220M 下地 貴樹	2学期	2	2	269
		2年			
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	270
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	271
		2年			
	心理療法論 PSY231M 中島 俊介	2学期	2	2	272
	2年				
心理統計 PSY240M 原口 雅浩	2学期	2	2	273	
	2年				
老年心理学 PSY213M 石塚 優	2学期	2	2	274	
	2年				
生理心理学 PSY241M 麦島 剛	1学期	2	2	275	
	2年				
社会意識論 SOC210M 木下 直子	2学期	2	2	276	
	2年				
社会意識論 (英語) SOC210M 竹内 美帆	2学期	2	2	277	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	文化社会学 SOC211M 木下 直子	1学期	2	2	278
		2年			
	家族社会学 SOC215M 休講	集中	2	2	
		2年			
	理論社会学 SOC212M 鈴木 健之	集中	2	2	279
		2年			
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中	2	2	280
		2年			
	情報社会論 SOC213M 明間 肇	集中	2	2	281
		2年			
	消費社会論 SOC214M 阪井 俊文	2学期	2	2	282
		2年			
	観光社会学 SOC216M 須藤 廣	集中	2	2	283
		2年			
	フィールドワーク論 ANT212M 門馬 一平	1学期	2	2	284
		2年			
	環境社会学 ENV250M 岩松 文代	2学期	2	2	285
		2年			
	人間環境地理学 ENV240M 野井 英明	2学期	2	2	286
		2年			
生態人類学 ANT210M 竹川 大介	1学期	2	2	287	
	2年				
人間性の進化 ANT211M 大津留 香織	2学期	2	2	288	
	2年				
比較表象文化 MCC210M 真鍋 昌賢	1学期	2	2	289	
	2年				
日本の大衆文化 JPS212M 真鍋 昌賢	2学期	2	2	290	
	2年				
人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 小野 二六一	1学期	2	2	291	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	社会調査の基礎 SOW290M 阪井 俊文	1学期	2	2	292
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 坂本 毅啓	1学期	1	2	293
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 深谷 裕	2学期	1	2	294
		1年			
	相談援助の理論と方法 1 SOW262M 河嶋 静代	2学期	2	2	295
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 SOW263M 工藤 歩	2学期	2	2	296
		2年			
	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 藤田 博久	1学期	2	2	297
		2年			
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 深谷 裕	1学期	2	2	298
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 岡本 政孝	1学期	2	2	299
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	3	2	300
		3年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	3	2	301
		3年			
社会保障 SOW240M 坂本 毅啓	1学期	2	2	302	
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	2	2	303	
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	2	2	304	
	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 小賀 久	1学期	2	2	305	
	2年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 河嶋 静代	1学期	2	2	306	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 大西 清文	2学期	2	2	307
	2年				
	保健医療サービス SOW230M 石塚 優	2学期	2	2	308
	2年				
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 小賀 久	1学期	3	2	309
	3年				
	相談援助演習 1 SOW265M 小賀 久	2学期	2	2	310
	2年				
	相談援助演習 2 SOW266M 小賀 久	1学期	3	2	311
	3年				
	相談援助演習 3 SOW360M 小賀 久	1学期	3	2	312
	3年				
	相談援助演習 4 SOW361M 河嶋 静代	2学期	3	2	313
	3年				
	相談援助演習 5 SOW460M 河嶋 静代	1学期	4	2	314
	4年				
	相談援助実習指導 1 SOW380M 小賀 久	1学期 (ペア)	3	2	315
	3年				
	相談援助実習指導 2 SOW381M 河嶋 静代	2学期	3	1	316
	3年				
相談援助実習 SOW382M 小賀 久	集中	3	6	317	
3年					
心理学研究法 PSY243M 原口 雅浩	2学期	3	2	318	
3年					
心理学実験実習II PSY281M 田中 信利 他	1学期 (ペア)	3	2	319	
3年					
環境経済学 ECN340M 休講	2学期	3	2		
3年					
教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	320	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	教育課程論	1学期	3	2	321
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	教育原理	2学期	1	2	322
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	教職論	1学期	1	2	323
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	生涯学習学	1学期	2	2	324
	EDU220M 恒吉 紀寿	2年			
	主体形成論	2学期	2	2	325
	EDU221M 恒吉 紀寿	2年			
	教育相談	1学期	2	2	326
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	327
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	次世代育成論	1学期	2	2	328
	EDU226M 恒吉 紀寿	2年			
	社会教育計画論	2学期	2	2	329
	EDU222M 太田 華奈	2年			
	生涯学習編成論	1学期	2	2	330
	EDU223M 長尾 秀吉	2年			
現代社会と社会教育	1学期	2	2	331	
EDU224M 山口 保夫	2年				
教育工学	2学期	2	2		
EDU265M 休講	2年				
道徳教育指導論	2学期	2	2	332	
EDU262M 田中 友佳子	2年				
教育方法学	1学期	2	2	333	
EDU260M 下地 貴樹	2年				
人権教育論	1学期	2	2	334	
EDU228M 弓野 勝族	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	335
	2年				
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	336
	2年				
	博物館概論 MUS200M 門田 彩	1学期	2	2	337
	2年				
	コミュニティスポーツ論 HSS220M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	スポーツ産業論 HSS222M 内田 満	2学期	2	2	338
	2年				
	健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	2	2	339
	2年				
	スポーツ心理学 HSS221M 山崎 将幸	1学期	2	2	340
	2年				
身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	2	2	341	
2年					
身体スポーツ論 HSS210M 加倉井 美智子	2学期	2	2	342	
2年					
トレーニング論 HSS223M 梨羽 茂	1学期	2	2	343	
2年					
■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 田島 司	1学期	3	2	344
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 田中 信利	1学期	3	2	345
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 野井 英明	1学期	3	2	346
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 濱野 健	1学期	3	2	347	
3年					
演習 A - 1 SEM311M 竹川 大介	1学期	3	2	348	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 小賀 久	1学期	3	2	349
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 楠 凡之	1学期	3	2	350
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 恒吉 紀寿	1学期	3	2	351
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 見玉 弥生	1学期	3	2	352
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 加倉井 美智子	1学期	3	2	353
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 高西 敏正	1学期	3	2	354
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 岩松 文代	1学期	3	2	355
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 税田 慶昭	1学期	3	2	356
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 田島 司	2学期	3	2	357
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 田中 信利	2学期	3	2	358
		3年			
演習 A - 2 SEM312M 野井 英明	2学期	3	2	359	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 濱野 健	1学期	3	2	360	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 竹川 大介	2学期	3	2	361	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 小賀 久	2学期	3	2	362	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 楠 凡之	2学期	3	2	363	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2	2学期	3	2	364
	SEM312M 恒吉 紀寿	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	365
	SEM312M 児玉 弥生	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	366
	SEM312M 加倉井 美智子	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	367
	SEM312M 高西 敏正	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	368
	SEM312M 岩松 文代	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	369
	SEM312M 税田 慶昭	3年			
	演習 B - 1	1学期	4	2	370
	SEM313M 田島 司	4年			
	演習 B - 1	1学期	4	2	371
	SEM313M 田中 信利	4年			
	演習 B - 1	1学期	4	2	372
	SEM313M 松尾 太加志	4年			
	演習 B - 1	1学期	4	2	373
	SEM313M 野井 英明	4年			
演習 B - 1	1学期	4	2	374	
SEM313M 濱野 健	4年				
演習 B - 1	1学期	4	2	375	
SEM313M 竹川 大介	4年				
演習 B - 1	1学期	4	2	376	
SEM313M 河嶋 静代	4年				
演習 B - 1	1学期	4	2	377	
SEM313M 小賀 久	4年				
演習 B - 1	1学期	4	2	378	
SEM313M 楠 凡之	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 B - 1 SEM313M 恒吉 紀寿	1学期	4	2	379
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 児玉 弥生	1学期	4	2	380
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 加倉井 美智子	1学期	4	2	381
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 高西 敏正	1学期	4	2	382
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 岩松 文代	1学期	4	2	383
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 税田 慶昭	1学期	4	2	384
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 田島 司	2学期	4	2	385
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 田中 信利	2学期	4	2	386
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 松尾 太加志	2学期	4	2	387
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 野井 英明	2学期	4	2	388
		4年			
演習 B - 2 SEM314M 濱野 健	1学期	4	2	389	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 竹川 大介	2学期	4	2	390	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 河嶋 静代	2学期	4	2	391	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 小賀 久	2学期	4	2	392	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 楠 凡之	2学期	4	2	393	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-2 SEM314M 恒吉 紀寿	2学期	4	2	394
		4年			
	演習B-2 SEM314M 児玉 弥生	2学期	4	2	395
		4年			
	演習B-2 SEM314M 加倉井 美智子	2学期	4	2	396
		4年			
演習B-2 SEM314M 高西 敏正	2学期	4	2	397	
	4年				
演習B-2 SEM314M 岩松 文代	2学期	4	2	398	
	4年				
演習B-2 SEM314M 税田 慶昭	2学期	4	2	399	
	4年				
■基礎演習科目	人間関係学基礎演習I SEM111M 濱野 健 他	1学期	1	2	400
		1年			
	人間関係学基礎演習II SEM112M 野井 英明 他	2学期(ペア)	1	2	401
		1年			
■概論科目	心理学概論 PSY100M 田中 信利 他	2学期	1	2	402
		1年			
	基礎心理学 PSY101M 中溝 幸夫	1学期	1	2	403
		1年			
	社会学概論 SOC100M 濱野 健	1学期	1	2	404
		1年			
	現代社会と福祉 1 SOW100M 河嶋 静代	1学期	1	2	405
		1年			
現代社会と福祉 2 SOW101M 小賀 久	2学期	1	2	406	
	1年				
人間環境概論 ENV100M 野井 英明 他	1学期	1	2	407	
	1年				
人類学概論 ANT100M 竹川 大介	2学期	1	2	408	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■概論科目	教育学概論 EDU100M 恒吉 紀寿 他	1学期	1	2	409
		1年			
	生涯スポーツ学概論 HSS100M 加倉井 美智子 他	2学期	1	2	410
		1年			
■実験実習科目	心理学実験実習I PSY280M 税田 慶昭 他	2学期(ペア)	2	2	411
		2年			
	社会調査実習(フィールドワーク) ANT280M 竹川 大介 他	1学期(ペア)	2	2	412
		2年			
	社会調査実習(サーベイ) SOC280M 阪井 俊文	2学期(ペア)	2	2	413
		2年			
人間環境実験・実習 ENV280M 野井 英明 他	1学期(ペア)	2	2	414	
	2年				
	生涯教育・生涯スポーツ実習 EDU280M 加倉井 美智子 他	1学期(ペア)	2	2	415
		2年			
■自由科目	国際関係の理論 IRL200M 阿部 容子	1学期	2	2	416
		2年			
	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	417
		1年			
	経済地理学I ECN242M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期	2	2	418
		2年			
	博物館経営論 MUS210M 永尾 正剛	2学期	2	2	419
	2年				
博物館資料論 MUS211M 未定	1学期	2	2	420	
	2年				
博物館資料保存論 MUS214M 渡抜 由季	2学期	2	2	421	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	博物館展示論 MUS213M 門田・北九州市立文学館・北九州市漫画ミュージアム	2学期	2	2	422
		2年			
	博物館教育論 MUS215M 未定	1学期	2	2	423
		2年			
	博物館情報・メディア論 MUS212M 那須 孝幸	2学期	2	2	424
		2年			
	博物館実習I MUS280M 野井・門田 他	2学期(ペア)	3	2	425
		3年			
	博物館実習II MUS380M 野井・門田 他	1学期(ペア)	4	1	426
		4年			
法学総論 LAW100M 山口 亮介	1学期	1	2	427	
	1年				
国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	428	
	2年				
国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	429	
	2年				
政治学 PLS100M 秦 正樹	1学期	1	2	430	
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法A EDU240C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法B EDU241C 休講	2学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法C EDU242C 下地 貴樹	1学期	3	2	431
		3年			
	社会科教育法D EDU243C 吉村 義則	2学期	3	2	432
		3年			
	公民科教育法A EDU244C 下地 貴樹	1学期	3	2	433
		3年			
公民科教育法B EDU245C 吉村 義則	2学期	3	2	434	
	3年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1	2学期	3	2	435
	EDU380C 楠 凡之 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	436
	EDU480C 恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	437
	EDU481C 恒吉 紀寿 他	4年			
	教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	
	EDU490C 休講	4年			

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	438
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	439
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	440
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	441	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	442	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	443	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	444	
1年					
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	445
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	446	
1年					
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	447
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	448
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	449
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	450
		1年			
	障がい学 SOW001F 休講	2学期	1	2	451
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	452
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	453
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	454
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	455
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 尹 明憲 他	1学期	1	2	456
		1年			
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	457	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	458	
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	459	
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	460	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 赤司 友徳	1学期	1	2	461	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期	1	2	457
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期	1	2	458
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	459	
	1年				
	ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	460
		1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	461
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	462
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	463
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期	1	2	464
	1年				
■情報教育科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	465
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1	466
		1年			
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	467
		1学期未修得者再履			
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	468
		2年			
■専門教育科目 ■選択科目	対人心理学 PSY211M 休講	1学期	2	2	469
		2年			
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	2	2	470
	2年				
	コミュニケーション論 PSY212M 休講	1学期	2	2	471
		2年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	465
	PSY220M 田島 司	2年			
	発達心理学	1学期	2	2	466
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	社会意識論	2学期	2	2	
	SOC210M 休講	2年			
	文化社会学	1学期	2	2	
	SOC211M 休講	2年			
	文化社会学 (英語)	1学期	2	2	467
	SOC211M 濱野 健	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	EDU225M 休講	2年			
	観光社会学	2学期	2	2	
	SOC216M 休講	2年			
	人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	468
	SOW231M 島 京子	2年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	469
	SOW290M 阪井 俊文	2年			
相談援助の理論と方法 1	2学期	2	2	470	
SOW262M 高崎 陽子	2年				
相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	471	
SOW263M 工藤 歩	2年				
相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2		
SOW264M 休講	2年				
地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2	472	
SOW210M 深谷 裕	2年				
地域福祉の理論と方法 2	2学期	2	2		
SOW211M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	3	2	473
		3年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	3	2	474
		3年			
	社会保障 SOW240M 坂本 毅啓	2学期	2	2	475
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 高崎 陽子	1学期	2	2	476
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 柴田 滋	2学期	2	2	477
		2年			
	保健医療サービス SOW230M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	環境経済学 ECN340M 牛房 義明	2学期	3	2	478
		3年			
教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	479	
	3年				
教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	1学期	3	2	480	
	3年				
教育原理 EDU110M 見玉 弥生	2学期	1	2	481	
	1年				
教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	482	
	1年				
生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	教育相談	1学期	2	2	483
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	484
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育工学	2学期	2	2	485
	EDU265M 大塚 一徳	2年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	486
	EDU262M 田中 友佳子	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	487
	EDU260M 下地 貴樹	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	488
	EDU228M 弓野 勝族	2年			
	特別活動論	1学期	2	2	489
	EDU263M 楠 凡之	2年			
コミュニテイスports論	2学期	2	2	490	
HSS220M 山本 浩二	2年				
スポーツ産業論	2学期	2	2		
HSS222M 休講	2年				
健康科学	2学期	2	2		
HSS230M 休講	2年				
身体適応論	1学期	2	2	491	
HSS231M 高西 敏正	2年				
身体スポーツ論	2学期	2	2		
HSS210M 休講	2年				
トレーニング論	1学期	2	2	492	
HSS223M 梨羽 茂	2年				
■概論科目	心理学概論	2学期	1	2	
	PSY100M 休講	1年			
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	493
	SOW100M 河嶋 静代	1年			

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■概論科目	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	494
	SOW101M 坂本 毅啓	1年			
■自由科目	経済地理学I	1学期	2	2	495
	ECN242M 近江 貴治	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	496
	ECN243M 柳井 雅人	2年			
	法学総論	1学期	1	2	497
	LAW100M 山口 亮介	1年			
	国際法I	1学期	2	2	
	LAW250M 休講	2年			
	国際法II	2学期	2	2	
	LAW251M 休講	2年			
	政治学		1	2	
	PLS100M 休講	1年			
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A	1学期	3	2	498
	EDU240C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	499
	EDU241C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 休講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 休講	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU244C 休講	3年			
	公民科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU245C 休講	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	500
	EDU380C 楠 凡之 他	3年			
教育実習 2	1学期	4	2	501	
EDU480C 恒吉 紀寿 他	4年				

文学部 人間関係学科 (2016年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 3	1学期	4	2	502
	EDU481C 恒吉 紀寿 他	4年			
	教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	503
	EDU490C 楠 凡之 他	4年			

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。	
	コミュニケーション力			
			国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 7回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障と防衛(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障と防衛(2)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題40%、期末テスト60%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。しかし、授業中に指示した資料に目を通し、以下の参考文献を含め関連する文献は、図書館などを活用して、各人の興味にあわせて読んでおくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第1部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種
- 第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々
- 第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 中間テストの解説
- 第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体
- 第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者（または代替課題の未提出者）、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。ただし、自分で情報を集め、吟味する能力は問われます。講義で自分が学んだことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとする意識が大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生、および「異文化理解の基礎」（昨年度開講、本年度開講なし）を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	

共生社会論

SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 5回 古代ギリシャの身体観2【ソポクレス】
- 6回 古代ギリシャの身体観3【通時的概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 9回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会3【シユレーパー症例】
- 12回 身体・家族・社会4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 (外部講師) 【確率的影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) モデル生物 (外部講師) 【動物愛護】
- 12回 生命の倫理 (2) ES細胞とiPS細胞 【再生医療】
- 13回 生命の倫理 (3) ゲノム編集 【遺伝子操作】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 40%
期末テスト 60%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleにより提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知 【SNS】【ミニブログ】
- 5回 ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル 【ソーシャルコマース】
- 6回 演習2：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
- 7回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 8回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 9回 演習3：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 10回 カメラは何を認識できるか 【画像処理】【画像認識】
- 11回 個人を特定できるコンピュータとその危険性 【顔画像認証】
- 12回 画像認識はどこまで人間に近づけるか【画像認識】【機械学習】
- 13回 演習4：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 14回 人間の社会生活に入ってきた自律型ロボット【人工知能】【技術的特異点】
- 15回 自律型ロボットが人間社会に及ぼす影響について【雇用問題】【道徳】【法整備】

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、授業内容を反復すること。

事前課題を北方Moodleで提供することがあるので、参照して学んでおくこと。

授業時間外では、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと、課題に取り組みやすくなる。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。

また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
		地域資源管理論 ENV200F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
 本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
 ①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
 ②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
 ③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -
 上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。
 法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也、富野暉一郎編著（2006）『コモンズ論再考』晃洋書房
 角谷 嘉則著（2009）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
 神谷由紀子編著（2014）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について -
- 第7回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム -
- 第8回 地域資源の過剰利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、最終試験の一発で決定する。

また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。

平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1) 安全性と有効性
- 10回 キャンプ実習についての講義(2) 野外炊飯
- 11回 キャンプ実習についての講義(3) テント設営
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
- 中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% レポート...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。
本基礎演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的社会調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的社会調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。
レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認 (3) テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえて、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス (オリエンテーション)
- 第2回：北九州市の観光について
- 第3回：北九州市の歴史・文化1 門司
- 第4回：北九州市の歴史・文化2 小倉
- 第5回：北九州市の歴史・文化3 若戸
- 第6回：北九州市の歴史・文化4 八幡
- 第7回：北九州市と文学
- 第8回：北九州の観光素材1 世界遺産・近代化遺産
- 第9回：北九州の観光素材2 産業観光・工場夜景
- 第10回：北九州の観光素材3 北九州フィルムコミッション
- 第11回：企業と観光
- 第12回：観光案内ボランティア1
- 第13回：観光案内ボランティア2
- 第14回：観光案内ボランティア3
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に各回の詳細テーマを提示しますので、事前にテーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光資源や制度、取組みについて復習し、考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 II	GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

レポートの書き方と入門：
本演習では、「調べ物をしてレポートの書く」ということがよくわからない学生（主として1年生）向けに、レポートの書き方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、比較的最近出版されたとなった文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、論点の見つけ方、関連資料の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

演習で用いるテキストは第1回目の出席者の興味関心にあわせて、第1回目の演習で決定します。候補は次の2冊です。
『風評被害』（関谷直也・光文社新書）
『民族とネイション』（塩川伸明・岩波新書）
たとえば、欧州難民問題やヨーロッパ社会の右傾化は、日本でも報道されます。これらについて知りたいと思ったとき、単に情報を調べるだけという段階から一歩進むため、問題を理解するための土台として、報道によって作られるイメージの問題（前者）やそもそも民族やナショナリズムとは何か（後者）という議論を扱いたいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか（編）2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会（編）2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは？今学期のテキストについての相談
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本をどう活用するのか？
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 レポート最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部 of 学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・毎年この演習は1学期に開講していましたが、今年度は2学期開講で、レポートの書き方に特化したものとします。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード /Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ行き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+現地での研修（5時間）

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
現地での研修（5時間）

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+現地での研修（5時間）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々とは協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておく必要があります。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
- 中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。

なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える (方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー (テキスト批評) 1
- 第9回 文献レビュー (テキスト批評) 2
- 第10回 文献レビュー (テキスト批評) 3
- 第11回 文献レビュー (テキスト批評) 4
- 第12回 文献レビュー (テキスト批評) 5
- 第13回 文献レビュー (テキスト批評) 6
- 第14回 文献レビュー (テキスト批評) 7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 A1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意 /Remarks

伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIを履修済みであることが望ましい。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。

(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421 Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421 Lab. が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する可能性があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
- 中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。

なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

BI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【酵素】 【代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子】 【DNA】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BII
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

国籍・国境について考える：

本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べるのが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれませんが、どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『<群島>の歴史社会学』石原俊著・弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第3回 映像からわかること、専門書からわかること(講義と議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 最終レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成・ 関連文献の読書・ レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業でテキストなどを決定するので第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に与えられた課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BⅡ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) A I、A II、B I履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード /Keywords

動物園

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地球の生いたち
			GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に關係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき關係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石） 【絶滅危惧】【多様性の保全】
- 6回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 9回 化石が語る魚類の進化（藪本） 【魚類化石】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義（下村） 【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（菱島） 【分類】【学名】
- 12回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 13回 タイトル未定
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1回目の博物館見学は10月15日(日)、2回目は11月以降各自で自由に行う。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質（無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生物物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書 /Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講 -
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8%） / 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2 C3043

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著（丸善）¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
- 2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
- 3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
- 4) 3章補足 プリント(+14章一部) 界面とコロイド・ゲル(分子とマクロ物質の境界領域で)。
- 5) 5章 元素の80%は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足: 無機化合物、ガラス、コンクリート
- 6) 4章、12章: 酸・塩基、酸化・還元 - 電池
- 7) 4章、12章: 44章 炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章 電気ってなんだろう? - 発光と化学エネルギー -
- 8) 6章 有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
- 9) 11章 プラスチックってなんだろう? - 高分子の化学 -
- 10) 7章 生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
- 11) 9章、10章: 9章 私たちの食べているもの - 食品の化学 -
10章 毒と薬は同じもの? - 医薬品と毒物の化学 -
- 12) 8章 シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
- 13) 13章 原子力と電力の関係って? - 原子力と放射線の化学 -
- 14) 15章 環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。授業で出たり、一般に見られる化学的現象とその理解を結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など)20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基
電池、化学反応、アミノ酸、糖、資質、拡散、温暖化物質、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、グループ分け
2. 心理学とは NHK大心理学実験 研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有 GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】

※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作上げるものです。詳細は講義中に説明します。

※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合(講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等)による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グループ課題(レポートおよびポスター)作成のために必要。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。

主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。

主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 | 【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【胚】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)細胞の増殖 | 【細胞周期】【細胞死】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)シグナル伝達 | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【染色体】【テロメア】 |
| 12回 | 体を守るしくみ(2)細菌とウイルス | 【ウイルス】【細菌】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(3)免疫 | 【自然免疫】【抗体】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 40%
期末テスト 60%

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
			環境都市としての北九州
			ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2016年改訂版 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 7回 環境首都検定に向けて (外部講師)
- 8回 施設見学・環境ミュージアム
- 9回 小テスト (日高)
- 10回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 11回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 12回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 13回 施設見学・エコタウン
- 14回 環境問題に関するシンポジウム (外部講師)
- 15回 環境問題と学生の取り組み (421Lab・村江)

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績 (40%)、小テストおよび授業中の課題 (60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。

- ・環境ミュージアム見学は11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月3日（日）
- ・エコタウン（バスツアー）は12月27日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。

* 授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有二 /Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 伊藤 洋 /Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~), 黎 曉紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 宮里 義昭 / Yoshiaki MIYAZATO / 機械システム工学科 (19~)
吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~), 松田 鶴夫 / Tsuruo MATSUDA / 環境技術研究所
高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)
高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 保木 和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科 (19~)
二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 望月 慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科 (19~)
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：身近にある土壌汚染のリスクと対策
- 第3回：ナノレベルの材料設計とその応用：環境問題の解決を目指して
- 第4回：廃棄物の発酵ガスから水素および液体燃料の合成
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・消防戦術）
- 第7回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その3・エンジン）
- 第8回：環境モニタリングシステムの開発について
- 第9回：生活環境を向上させる最適化手法
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第12回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第13回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み
- 第14回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第15回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
- 末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 6回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 7回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 8回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拝・本覚思想）
- 9回 神道について1（日本の神と祭り）
- 10回 神道について2（神道の成立）
- 11回 神道について3（神仏習合の教説）
- 12回 神道について3（神仏習合の諸相）
- 13回 日本宗教の特色1（神道と仏教の共存）
- 14回 日本宗教の特色2（神仏隔離と近代の神仏分離）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 30%

私たちと宗教【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を自分で読んでいくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトルの哲学】
- 6回 実存の思想(5)【サルトルの文学】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 実存の思想(7)【補足】
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リップ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(漆原)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(漆原)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 (予定)外部講師による特別講義
- 第11回 認知発達とコミュニケーション(松田)
- 第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス(松田)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(漆原)

言語とコミュニケーション【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司 劇的想像力について
4. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
5. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎 不在を追いかけて
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. ウォールター・デ・マリア わたしに電話をください
9. アネット・メッサジェ 聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. ソフィー・カル フィクションとしての写真
12. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
13. 山口圭介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 60%
レポート(学期末) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む
			LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第3回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第4回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第5回 イギリス文学への誘い(木原謙一)
- 第6回 イギリス文学のメッセージ性・まとめ(木原謙一)
- 第7回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第8回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第9回 まとめ(藤崎祐二)
- 第10回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第11回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ7 - フロム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。
本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去や現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献や講義中に紹介した資料は各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。また授業では配布資料を配るが、口頭での説明もしっかりメモすること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 価値観と文化
- 第7回 資本主義への対抗
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における文化と公共性
- 第12回 中間テストの解説
- 第13回 地域通貨の可能性とコミュニティの現在
- 第14回 「求められる市民参加」の時代
- 第15回 公共性と文化

政治のなかの文化【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者(または代替提出課題の未提出者)、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 人々はどうやって意思決定をしてきた(いる)か、どうやって経済活動をしてきた(いる)かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
- ・ ビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生、およびビジョン科目I「異文化理解の基礎」(本年度非開講、昨年度開講)を受講済み学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入り替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ボトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学 SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 法と道徳について
- 第 3 回 殺人する自由はあるか？一人権保障の限界
- 第 4 回 行政活動と法治主義
- 第 5 回 国際社会と法-国際行政の観点から
- 第 6 回 犯罪とは何か
- 第 7 回 刑罰とは何か
- 第 8 回 性差別と暴力~セクシャル・ ハラスメントとドメスティック・ バイオレンス
- 第 9 回 家族とは何か
- 第10回 担保とは何か
- 第11回 契約とは何か
- 第12回 商取引における不正競争と法
- 第13回 企業形態と法
- 第14回 民事訴訟とは何か
- 第15回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がますます深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'17』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1)意味のある「問い」をたてること、(2)その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3)論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4)データを統計的に処理すること、(5)データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 問題事例の検討（1）【優生学】
- 10回 問題事例の検討（2）【殺人行為】
- 11回 問題事例の検討（3）【まとめ】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【貧困問題】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
		現代社会と新聞ジャーナリズム	
		SOC001F	

授業の概要 /Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやSNSが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う (社会部記者)
- 【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材 (社会部デスク)
- 【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 【第6回】デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (メディアラボ部員)
- 【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える (報道センター記者)
- 【第14回】働く現場とは / (生活特報部デスク)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」(メディアを読み解く力)ならびに現代社会を解説する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域
			RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【地域】 適宜文献や資料を紹介する。
- 【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域 1 : 地域の概念：世界と日本の事例
- 3回 地域 2 : 地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域間という考え方
- 5回 地域 4 : グループ討論：あなたの地域は？その地域との関わりは？
- 6回 地域 5 : 地域事例紹介 1 (国内事例予定)
- 7回 地域 6 : 地域事例紹介 2 (海外事例予定)
- 8回 地域 7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市 1 : 都市の概念
- 10回 都市 2 : 都市へ人や産業が集まる理由
- 11回 都市 3 : 都市問題、都市の衰退
- 12回 都市 4 : 人口減少社会における都市 (1) 【コンパクト化】
- 13回 都市 5 : 人口減少社会における都市 (2) 【地方創生】
- 14回 都市 6 : 事例研究：「かんもん (関門) 海峡都市」の活性化
- 15回 都市 7 : 都市と「市民」「大学生」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50% : クイズ... 15% 授業内貢献... 10% レポート... 25%
- 【都市】 全体の50% : レポート... 35% 日常の授業への取り組み... 15%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【地域】日頃から「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

【都市】各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。また、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、地域の博物館等を見学したりして理解を深めること。授業資料を授業後にMoodleに掲載するので、事後学習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」の部の間に数回、クイズ(小テスト)を行う(当日発表)。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】レポート提出方法等については授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い/悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市問題、都市政策

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19 ~)
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19 ~) , 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年 (2015年度 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中邨章、市川宏雄編著 (2014) : 危機管理学～社会運営とガバナンスのこれから、第一法規
岡田恒男、土岐憲三(2006) : 地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011) : 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006) : 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012) : 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 危機管理と地域防災の基本概念 (北九大・南)
- 2 気象と地震 (北九州市危機管理室又は福岡管区気象台)
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み (北九州市危機管理室)
- 4 避難所運営訓練HUG (北九州市危機管理室)
- 5 防災と河川：降雨を安全に流すために (北九州市建設局)
- 6 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状 (北九州市消防局)
- 7 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み (北九州市教育委員会)
- 8 産官学連携による消防技術の革新 (北九大・上江洲)
- 9 組織の防災能力見える化：図上シミュレーション訓練 (北九大・加藤)
- 10 都市防災：建物の耐震性とは何か (北九大・城戸)
- 11 ジェンダーと防災：地域での実践 (北九大・二宮)
- 12 災害時のこころのケア (北九州市保健福祉局)
- 13 大学生にもできる防災：災害ボランティア活動 (地域共生教育センター)
- 14 地域協働によるまちづくり (外部講師)
- 15 防災が地域を変える、社会を変える (外部講師)

なお、最後の2時間分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施予定。
(7月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について、予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
講義の一部でグループ活動を行うため、履修者数を60人までとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウェイ / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイ The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス、世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第12回 李 日韓関係の展開(1) 【脱植民地化】【脱帝国化】【残された問題】
- 第13回 李 日韓関係の展開(2) 【安全保障】【(脱)冷戦】【朝鮮半島問題】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回)100%

現代の国際情勢【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発券・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるとにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第8回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第11回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回	グループワーク(アクティビティ作り) を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【貿易保護政策】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【アベノミクス】【金融市場】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(1)【大企業と財務報告】
- 11回 ビジネスと会計ルールのグローバル化(2)【国際会計基準IFRS】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは学習支援フォルダにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国についてもっと知ろう
- 4 韓国の歴史①【三国時代～朝鮮王朝】
- 5 韓国の歴史②【19世紀末～】
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 歴代大統領から見る韓国社会と文化
- 8 韓国人の名字と名前
- 9 日韓の食文化について考える①【VTR視聴】
- 10 日韓の食文化について考える②
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国の若者たちの世界
- 13 日韓の住居文化について考える①【VTR視聴】
- 14 日韓の住居文化について考える②
- 15 まとめ

* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、出張などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) 40%
期末レポート 60%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意 /Remarks

- 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。(チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻3回をもって1回の欠席とカウントする)
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		エスニシティと多文化社会	
		IRL001F	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやもの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）
- 門脇禎二『吉備の古代史』（NHKブックス）
- 鳥越信『桃太郎の運命』（ミネルヴァ書房）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 前近代東アジアの伝統世界
- 3回 日本の近代と国民国家の問題点
- 4回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 5回 新渡戸稲造の『武士道』
- 6回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 7回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 8回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 9回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 10回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 11回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す
- 12回 「国語」とは何か
- 13回 網野善彦と日本史の多様性
- 14回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、またボーイスカウト、NHK設立にも貢献した、多彩な経歴を持つ人物である。後藤の卓抜した先見性と行動力、リーダーシップは戦前から現代に至るまで人気があり、高く評価されてきた。本講義では、後藤新平というその卓抜した人物の評伝を通して、日本の近代史についてより深く理解し、歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。また小説に描かれた後藤新平もあわせて読むことで、歴史小説と歴史研究との違いも考察するきっかけとしたい。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年〔復刻版〕
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』学陽書房、2013年
- この他は講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 修業時代
- 第3回 愛知県病院長兼医学校長時代
- 第4回 衛生局時代(1)
- 第5回 衛生局時代(2)
- 第6回 台湾民政長官時代
- 第7回 南満州鉄道総裁時代
- 第8回 第2次桂内閣時代
- 第9回 第3次桂内閣時代
- 第10回 寺内正毅内閣時代
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米歴訪
- 第12回 東京市長時代
- 第13回 対ヨッフエ交渉
- 第14回 関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)と平常点(授業への参加態度、コメント等で20%)で総合的に評価する。

歴史の読み方II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義の前までに、参考文献に挙げた郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』（学陽書房、2013年）の指定された範囲を読んで来るのが望ましい。また授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー。
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみることに（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
		戦後の日本経済	
		ECN002 F	

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえて本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 歴史を学ぶ意義 -
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長期」と文化形成
- 第5回 2. 「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
 - 1. 戦後の人口問題
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口集中 - 農村から都市へ -
- 第9回 4. 「高度経済成長」と北九州
- 第10回 IV. 「幸せ」のモデル化とキャリア形成
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第11回 2. モデルのモデル - テレビを通じた文化の伝播 -
- 第12回 3. 「理想的」家族像の形成
- 第13回 4. 「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第14回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

戦後の日本経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
○中村彰彦『保科正之』(中公新書)
『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャ人の道徳【徳について】
- 3回 古代ギリシャ人の道徳【国について】
- 4回 ルネサンスの道徳観(1)【マキャヴェリ】
- 5回 ルネサンスの道徳観(2)【シェイクスピア】
- 6回 ルネサンスの道徳観(3)【まとめ】
- 7回 革命前夜の道徳観(1)【アンシャン・レジームの崩壊】
- 8回 革命前夜の道徳観(2)【『フィガロの結婚』解説前半】
- 9回 革命前夜の道徳観(3)【『フィガロの結婚』解説後半】
- 10回 理性の道徳(1)【啓蒙思想】
- 11回 理性の道徳(2)【近代道徳哲学の基本形】
- 12回 事例検討(1)【功利性について】
- 13回 事例検討(2)【厳格主義について】
- 14回 道徳の黄昏(1)【道徳の破壊】
- 15回 道徳の黄昏(2)【革命と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回で「レシ」ユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が「必要に応じ」て紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？
 - 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方
 - 第3回：「日本」とは何か？
 - 第4回：古代国家と天皇
 - 第5回：中世人の世界 -その法と社会-
 - 第6回：越境するヒトとモノ
 - 第7回：世界史のなかの「近世」
 - 第8回：歴史人口学の世界
 - 第9回：結婚と離婚 -江戸時代の夫婦のあり方-
 - 第10回：貨幣からみる近世社会
 - 第11回：日本の近代 -明治国家の建設-
 - 第12回：帝国主義の時代
 - 第13回：「日本人」と戦争
 - 第14回：戦後日本とわたしたちの時代
 - 第15回：まとめ -「歴史」を学ぶということ-
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（40%、小レポートなどを含む）、期末試験（60%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書を積極的に読むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝制度

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
高校世界史の教科書・資料集は有益です。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 農業立地論
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 日本農村の構造的変化
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 中心地理論
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 都市システム
- 第10回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 工業立地論
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 産業集積の実態
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 産業集積の実態
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く 1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く 2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる 1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる 2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、欧米諸国の経済地誌をテーマとする。特に、世界都市や鉱工業地域など産業構造の変動が大きな地域を中心に取り上げる。欧米諸国の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 イギリス地誌: 連合王国としてのイギリス、戦後イギリスの展開など
- 第5回 ドイツ地誌: 石炭産地と工業地域の形成、グローバル化とドイツの諸都市など
- 第6回 スペイン地誌: スペインにおける民族主義、ビルバオの産業発展と地域再生など
- 第7回 フランス地誌: 首都パリと郊外、ライシテと移民問題など
- 第8回 イタリア地誌: イタリアの産業と南北問題、自動車工業都市トリノなど
- 第9回 北欧地誌: 福祉国家と国民負担、鉄鉱山都市キルナなど
- 第10回 ベネルクス地誌: ベルギーの言語と産業、環境意識とオランダの都市政策
- 第11回 スイス・ポーランド地誌: スイスの時計産業とジュラ地域、ポーランドの空間構造と経済
- 第12回 アメリカ合衆国地誌(1): アメリカ合衆国の産業発展、鉄鋼都市ピッツバーグ
- 第13回 アメリカ合衆国地誌(2): 自動車工業都市フランクフルト
- 第14回 アメリカ合衆国地誌(3): アメリカの西部開拓、シリコンバレーの発展と展開
- 第15回 カナダ地誌: カナダ発展の歩み、カナダ経済・社会の諸特徴

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』(日本評論社、2016年)
- 芦部信喜『憲法 第6版』(岩波書店、2015年)
- 長谷部恭男『憲法 第6版』(新世社、2014年)
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』(有斐閣、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
 この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks
 授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション
 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
 4回 (講義)ストレッチの理論
 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
 この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 スキル獲得テスト①
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 8回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
 - 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第1位、「主体性」が7年連続で第2位となり、以下、第3位「協調性」、第4位「チャレンジ精神」であり、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

1. コミュニケーション能力
2. 幅広い視野・柔軟性
3. 失敗を恐れない志向性

<進め方と目標>

3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性

- 1回 全体ガイダンス【1】【2】【3】
- 2回 社会で求められる力【1】【2】【3】
- 3回 インターンシップや地域活動(先輩登壇)【1】【2】【3】
- 4回 傾聴【1】
- 5回 アサーション・トレーニング【1】
- 6回 アイデンティティ【1】【2】【3】
- 7回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】
- 8回 クリエイティブシンキング【1】【2】【3】
- 9回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】
- 10回 企業団体研究1【1】【2】
- 11回 企業団体研究2【1】【2】
- 12回 計画された偶発性【1】【2】【3】
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】
- 15回 本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。	
			コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2016年度> 株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス(一風堂) / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社(瀬祭)

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会(NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構(JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社(JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ(山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

<進め方> 以下のスキームで地元企業団体（5団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1. 地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～4回 各企業団体による課題提示
第5回 課題解決の方法についての講義
第6～10回 中間発表
第11～15回 最終発表

※参考

<2016年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

NHKの「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■北九州市役所

「ウーマンワークカフェ北九州」のPR戦略を考える

■株式会社力の源ホールディングス（一風堂）

訪日外国人旅行者の福岡の店舗と、帰国後の母国の店舗への来店促進

■株式会社タカギ

若者が浄水器を使う文化を育むにはどうすればいいのか？

■株式会社大創産業（DAISO）

アルバイトの採用と定着の戦略を考える

<2015年度の企業団体>

株式会社インテリジェンス / 北九州市役所 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社タカギ / 株式会社スターフライヤー

<2015年度の企業団体>

株式会社名門大洋フェリー / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社井筒屋 / 株式会社タカギ / 北九州市役所

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…50%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…45%
最終レポート…5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で挑戦する課題とグループを決めますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の半分を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域の達人【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するとき乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【2015年度登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まじづくりプロデューサー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2016年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「サービス・ラーニング」への実際の参加を前提としています。したがって、「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動をしてもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は必須とします。受講にあたっては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って望むことを求めます。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II
			CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加したサービスラーニングの活動内容とそこの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 (50点) + 活動報告書 (50点) = 100点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため、講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していなければ履修登録を認めないというわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、そのための課題を別途課すことになります。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門II」の課題の両方を提出して初めて単位を認めるかたちとします。当然、この授業で「サービス・ラーニング入門I」の課題を提出したからといって、「サービス・ラーニング入門I」の単位を得ることはできません。以上の点を十分に留意し登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 演習 演習
クラス /Class クラス 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅲ	
		CAR380F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。	
	コミュニケーション力			
			プロジェクト演習Ⅳ	CAR381F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度 (80%)、最終レポート (20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(聞く)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を楽しく読みながら、仲間と力を合わせたグループワークを行います。授業を通じて、「前へ踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も身につけられるようアシストします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊(講義開催週の水、木、金発行分、全15回分で税込み計1800円)を授業資料として活用します。1回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～8回 文章の読み方、書き方、取材方法などを学ぶ
- 第9～13回 深く考える力を身につける
- 第14～15回 まとめ(発表や講評)

通常のグループワークのほか、「まわしよみ新聞」や、「新聞でハテナソン」という新たな手法(論点や疑問点を整理して質問力を鍛える手法)を取り入れます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況や課題などを通じて総合的に判断します(100%)。[詳しくは1回目の授業で説明する予定です。]

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。読んで興味があることを見つけることが事前・事後学習になります。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II (グローバリゼーションと倫理的消費) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
教養特講II				
SPL002 F				

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「倫理的消費」について
- 第2回 フェアトレードの誕生と展開
- 第3回 フェアトレードの役割と課題
- 第4回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『もっと！フェアトレード』 (DVD) の上映とディスカッション
- 第5回 本田正之氏による講演：「フェアトレード試食会の取り組み」 (仮)
- 第6回 ファスト・ファッションとエシカル・ファッション
- 第7回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) の上映 (一部のみ) とディスカッション
- 第8回 宮下緑氏による講演：「フェアトレード・ショップの経営からみえてくるもの」 (仮)
- 第9回 紛争問題と私たちの暮らし
- 第10回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『スマホの真実』 (DVD) の上映とディスカッション
- 第11回 ペットボトルが生み出す環境破壊
- 第12回 「100円ショップ」の舞台裏
- 第13回 アジア太平洋資料センター (PARC) 編『徹底解剖！100円ショップ』の上映とディスカッション
- 第14回 八田麻理子氏による講演：「環境保全、貧困撲滅、フェアトレードをリンクさせる実践」 (仮)
- 第15回 全講義内容を踏まえてのまとめとディスカッション

教養特講II (グローバリゼーションと倫理的消費) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 (5回×20%) ・ ・ ・ 100%
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します (A4一枚程度) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

講義の後はDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード /Keywords

倫理的消費、フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度 : 60%
- ・ 授業における成果物 : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30~16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
	コミュニケーション力		
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における文学を始めとする様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。
授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても学生生活やその後の諸活動に際しての学びとなるお話しをいただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回: 古代の地域
- 第 3 回: 平安～鎌倉時代の地域
- 第 4 回: 室町～江戸時代の地域
- 第 5 回: 幕末期の地域
- 第 6 回: 明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回: 戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 8 回: 地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 9 回: 地域の文学① 【近代】
- 第 10 回: 地域の文学② 【現代】
- 第 11 回: 地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回: 地域の美術、現代アート
- 第 13 回: 地域の映画文化
- 第 14 回: 地域の生活文化
- 第 15 回: 小倉織の過去・現在・未来

※ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※ゲストスピーカーは、地域で御活躍の文化人、北九州市・下関市の博物館・文学館等のミュージアムの専門職員、および市役所の担当部局の職員の方々等である。

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み： 30%
中間レポート： 30%
期末レポート： 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の博物館、文学館、各種ミュージアム等を見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また趣味の活動等にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域(関門地域)、歴史、文学、芸術

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			地域の社会と経済	ECN170F

授業の概要 /Course Description

日本および世界における北九州・下関地域の社会的・経済的特性について学び、理解を深める。そのことを通じて、北九州市等の地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。
本授業においては、各トピックに関する第一人者をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州・下関地域出身者、地域外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 北九州・下関地域の社会的・経済的特徴
- 第3回 北九州の産業・社会
- 第4回 北九州市政と市民
- 第5回 地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第6回 下関の産業・社会 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第7回 下関の都市戦略 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第8回 地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回 北九州・下関を取り巻く世界情勢 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第10回 地域と国際社会 【北九州市アジア低炭素化センターによる説明】
- 第11回 地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第12回 地域資源のブランド化 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第13回 地域経済社会における日本銀行の役割 【日本銀行北九州支店担当者による説明】
- 第14回 地方分権と地域社会
- 第15回 本講義のまとめと期末試験の説明

※上記は平成28年度に実施した内容です。講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

地域の社会と経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 北九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して基礎的理解があり、その説明ができ、表現力が伴っていること。
- ・ 毎回の授業レポート：30%
 - ・ 中間レポート：30%
 - ・ 期末試験：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日頃から新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・ 授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。

キーワード /Keywords

シビックプライド、グローカル化、地方分権

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
											○	○

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域において、観光振興や各種イベント開催などを通じて地域を訪れる人々(交流人口)の増加等を図り、地域活性化につながる方策について学ぶ。また、地域活性化実現に向けた現状と課題を把握し、それを踏まえたにぎわいづくりプランを自ら立案する基礎的な力を得ることを目指す。

2017年度授業においては、2017年から供用開始された北九州スタジアム(小倉駅から徒歩約7分)を主たる題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「北九州スタジアム集客プラン(仮称)」をグループワークで作成する。作成に際し、ゲストスピーカーによる講義や、フィールドワーク等も実施する。授業はJリーグクラブ:ギラヴァンツ北九州および関係機関等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回: ガイダンス ~講義の目的、履修上の注意など
- 第 2回: にぎわいづくり政策(観光、MICE推進等)の意義
- 第 3回: 北九州市および下関市のにぎわいづくり政策
- 第 4回: 北九州スタジアム(ミニワールドスタジアム北九州)の概要
- 第 5回: Jリーグクラブ:ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義等
- 第 6回: 課題設定:北九州スタジアム集客プラン(仮称)作成について
- 第 7回: フィールドワーク① ~北九州スタジアム試合観戦
【試合前の各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 8回: フィールドワーク② ~北九州スタジアム試合観戦
【試合中の観客の盛り上がり等の状況視察】
- 第 9回: フィールドワーク③ ~北九州スタジアム試合観戦
【試合後の観客の小倉駅周辺回遊動向等の状況視察】
※第7~9回は同一日(土曜または日曜)に連続開催
- 第10回: プラン作成① 【現状分析、課題抽出等】
- 第11回: プラン作成② 【アイデア検討】
- 第12回: プラン作成③ 【プランとりまとめ】
- 第13回: プラン報告会①(前半のグループ)
- 第14回: プラン報告会②(後半のグループ)および審査結果発表
※第13、14回は同一日に連続開催。審査は学外の方にも依頼
- 第15回: 各プランに対する詳細評価と実現に向けた課題検討

※履修者数や、北九州スタジアムでの試合開催日程等を踏まえ、授業計画を変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(課題への取り組み姿勢等): 70%
期末レポート: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題への取り組み(プラン作成)に向けては、講義時間以外において各自による情報収集・考察や、必要に応じグループワークを行うこととなるため、メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むことが必要となる。
また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一環となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。具体的日程は第1回授業において提示する(土曜または日曜に実施することを想定)。
フィールドワークにおいて、ギラヴァンツ北九州の試合観戦料(2,000円程度)および小倉駅までの交通費が必要となり、履修者の自己負担となる。

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州・下関地域のにぎわいづくりプラン(2017年度においては、北九州スタジアム集客プランを予定。)をグループワークで検討することにより、皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができ、また、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、課題解決、ギラヴァンツ北九州、北九州スタジアム

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
											○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 都心・副都心のまちづくり【紫川マイタウンマイリバー事業、再開発事業】
- 第6回 大規模未利用地を活かしたまちづくり【土地区画整理事業、城野ゼロカーボン地区、エリアマネジメント】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 北九州市の環境政策【公害克服、OECDグリーン成長都市、環境未来都市、東田スマートシティ】
- 第12回 資源循環型のまちづくり【ごみ分別・リサイクル、減量化、エコタウン】
- 第13回 環境教育【生涯学習、持続可能な開発のための教育(ESD)、まなびとESDステーション】
- 第14回 北九州市の国際協力【姉妹都市、JICA、水ビジネス】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

キーワード /Keywords

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 ひろみ / Hiromi Tanaka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
											○	○

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深め、地域企業や地域定着への関心を高めることがねらいです。
身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、自己のキャリア、幅広い観点で社会動向を考える契機になることを期待します。
授業は、本地域の企業・組織で働く社会人の講話に対する質問、対話を交えた進行、アクティブラーニングによる調査学習、グループ討議、課題の発表を実施するため、主体的に参加することが求められます。

教科書 /Textbooks

適宜、パワーポイント投影、ワークシートおよび資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前課題に基づき、必要な資料、図書、ホームページにて予習をしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業研究の意義と方法
- 第3回 企業研究の実践【「北九州・下関業界マップ」の活用】
- 第4回 地域企業の理解(1)【地域企業による講話、自己認識・考察】
- 第5回 地域企業の理解(1)【グループ討議、発表】テーマ：企業講話に基づき提示
- 第6回 地域企業の理解(2)【地域企業による講話、自己認識・考察】
- 第7回 地域企業の理解(2)【グループ討議、発表】テーマ：企業講話に基づき提示
- 第8回 フィードバック(リフレクション)
- 第9回 課題解決の手法
- 第10回 地域企業の理解(3)【地域企業による講話(企業の課題提起)、自己認識・考察】
- 第11回 地域企業の理解(3)【グループ討議】テーマ：企業が提起する企業の抱える課題
- 第12回 地域企業の理解(3)【発表】
- 第13回 フィードバック(リフレクション)
- 第14回 地域企業の魅力発見【都市圏の企業比較、魅力的な働き方】
- 第15回 総括

※セルフワーク、グループワークを伴う「参加型授業」です
※本地域の企業・組織で働く社会人による講話の予定回以外にもゲストスピーカーを招聘することがあります
※講話の予定業種【製造、サービス(含情報、人材)、金融、機構等】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加姿勢(質問、討議、発表、課題レポート)...90%
最終レポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習；事前課題の予習
事後学習；事後課題の考察、発表準備、レポート作成

履修上の注意 /Remarks

- ・次年度開講「まなびと企業研究II」(PBL型/インターンシップ)の履修希望者は、必ず本授業を履修しておいてください。
- ・原則、遅刻や授業途中の退室はできません。
- ・事前課題や事後課題については、授業内で提示します。
- ・グループワークを含むため、積極的に相互理解、協働学習に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会人の準備段階である大学生活において、広い視野で物事を捉え、考え、行動することを習慣化し、地域社会の活性化を担う人材に成長してください。

キーワード /Keywords

地域企業、地域人材、課題解決、主体的行動、地域志向

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 人1 - 1 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class (人1 - 1 , 英
1 - 1 , 英
1 - 2 , 中)

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 人1 - 2 . 再履 (人1 - 2 , 英1 - 3 , 英1 - 4)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報メディア演習	
		INF330F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくるのが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 様々な情報メディアの特性に関する知識
- 情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
- 効果的な情報発信の方法（情報発信）
- 情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
- 様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：情報メディアと人間の心理【情報発信】【情報受信】
- 3回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居と理解【知的発達】【情緒的発達】
- 4回目：情報メディアとしてのマンガと理解【文字と絵】【記号】【コマ割り】
- 5回目：映像の理解と心理【映像技法】
- 6回目：取扱い説明書の理解と学習【ヒューマン・インタフェース】【デザイン】【ユーザ・サポート】
- 7回目：メディアとしてのインターネット【CMC】【フレーミング現象】【データベース】【思い出のメディア】
- 8回目：電話・テレビ電話によるコミュニケーション【情報伝達】【認知過程】
- 9回目：ゲームの心理的影響と学習【心的過程】【心理的影響】【実験ツール】【利用資源】
- 10回目：テレビ・ビデオの心理的影響【コミュニケーション手段】【教育】
- 11回目：文書・Webデザイン【内部設計】【外部設計】【レイアウト】【図と地】
- 12回目：映像・ビジュアルデザイン【つくるリテラシー】【映像表現】
- 13回目：製品・インタフェース・デザイン【ユーザビリティ】【認知工学】【感性工学】【人間工学】
- 14回目：ワークプレイスのデザイン【エスノグラフィ】【エリアの生態系】【ディスプレイシステム】
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業に対する積極的な取り組み・・・50%、レポート・・・40%、授業中に実施する課題・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。

授業終了後には、授業内容を反復すること。

チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。

「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容がある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、情報メディアの送受信、情報メディアの活用、メディアデザイン

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

授業の概要 /Course Description

この授業では、プログラミング初心者でもコンピュータを能動的に使いこなし、プログラミングの基礎能力を獲得することを目指す。具体的には以下のような項目を身につける：

- 同じ処理を何度もくり返さなくても済むように、処理を自動化するテクニック
- 状況に応じて異なる処理をおこなう条件分岐テクニック
- グラフィックスを思い通りに制御するテクニック

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータのしくみの理解【ガイダンス】
- 2回 プログラムを書いてみる【エディタ】【エラーとバグ】
- 3回 プログラムで図形を描く【キャンパス】【点と線】【円】
- 4回 プログラムで色を制御する【RGB】【HSB】【アルファチャンネル】
- 5回 計算と変数【データ型】
- 6回 くり返し処理【ループ】【乱数】
- 7回 座標の概念
- 8回 条件分岐
- 9回 作品制作1
- 10回 作品中間発表
- 11回 プログラミングにおける関数
- 12回 変数についてより詳しく【ローカル変数】【グローバル変数】【配列】
- 13回 インタラクティブな操作性【イベント処理】
- 14回 作品制作2
- 15回 作品発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題提出... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

情報メディア演習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考情報をはじめ，授業の資料等はe-Learningサイト「北方Moodle」に掲載する予定である。事前学習・事後学習に利用してもらいたい。また，プログラミング作品制作は授業外での作業が中心になる。

履修上の注意 /Remarks

プログラミングに関する知識は一切前提としないが，コンピュータ操作にある程度慣れておくと受講しやすいだろう。また，授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

授業の性格上，受講者数に制限を設けるため，受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業で，プログラミングに関する一通りの知識を習得すれば，さまざまなプログラミング言語への応用も可能になるだろう。

キーワード /Keywords

プログラミング，マルチメディア

英語I (人1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるように、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEIC(R) Listening and Reading Testでスコア400点を目指します。授業では、TOEIC(R) Listening and Reading Testの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子、砂川典子 他
『Seize the Core of the TOEIC(R) TEST : TOEICテスト コアをつかんで完全攻略』（金星堂、2015年）
ISBN978-4-7647-4004-4 （1900円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEIC(R)の紹介
- 2 回 文構造と品詞(1)【動詞の働き】
- 3 回 基本5文型
- 4 回 文構造と品詞(2)【名詞の働き】
- 5 回 品詞の働き
- 6 回 文構造と品詞(3)【形容詞の働き】
- 7 回 名詞・主語と動詞の一致
- 8 回 文構造と品詞(4)【副詞の働き】
- 9 回 形容詞・副詞
- 10 回 動詞の活用(1)【現在形、過去形、原形】
- 11 回 時制(基本3時制)
- 12 回 動詞の活用(2)【現在分詞、過去分詞】
- 13 回 時制(進行形、完了形)
- 14 回 TOEIC(R) Listening and Reading Test形式で練習
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、課題20%と期末試験60%に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。
(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。)
尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (人 1 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定個所を予習する。疑問個所を明確にする。

事後学習：授業中の疑問が解消できたかを振り返る。それに関しては、類似問題で反復練習をする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単元毎に復習テストを実施するので、復習にも力を入れてください。

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくと役立ちます。

キーワード /Keywords

TOEIC(R) Listening and Reading Test

英語I (人1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

英文記事を利用し、社会・スポーツ・文化・環境・教育など幅広い分野のニュースを読むことで、英語力を向上させるとともに、目まぐるしく移り変わっている社会を理解する力を養う。

教科書 /Textbooks

Insights 2017 (KINSEIDO,2017)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし (適宜指定する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回目 授業内容の説明
- 2 回目 Traveling with Your Dog
- 3 回目 Please Take Just a Nibble
- 4 回目 Let's Go to the Museum
- 5 回目 Japan Todayから
- 6 回目 A Fork in the Road
- 7 回目 Products by Women for Women
- 8 回目 Japan Todayから
- 9 回目 Japan's Tokusatsu Hero Gone Global
- 10 回目 Manzai for Education
- 11 回目 Japan Todayから
- 12 回目 Your Car Might Be Hacked
- 13 回目 How Much Is This Autograph
- 14 回目 Japan Todayから
- 15 回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30 %
定期試験 70 %
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずしてくること

履修上の注意 /Remarks

予習をしたうえで、「間違う」ことを恐れず、授業に「参加」すること

英語I (人 1-B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (人1-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人1-C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語I (人1-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

英語の基本的な読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を把握できるように、ある状況下で用いられる表現や語彙をできる限り覚えていきます。読解力の度合いを測るためにTOEIC(R) Listening and Reading Testでスコア500点を目指します。授業では、TOEIC(R) Listening and Reading Testの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子、砂川典子、他
『Seize the Core of the TOEIC(R) TEST : TOEICテスト コアをつかんで完全攻略』（金星堂、2015年）
ISBN978-4-7647-4004-4 （1900円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEIC(R) Listening and Reading Test 全般の対策
- 2 回 TOEIC(R) Listening and Reading Test リスニング対策
- 3 回 TOEIC(R) Listening and Reading Test リーディング対策
- 4 回 節と句
- 5 回 接続詞と前置詞
- 6 回 助動詞(1) 【canとbe able to】
- 7 回 助動詞(2) 【canとcould】
- 8 回 態(1) 【能動態】
- 9 回 態(2) 【受動態】
- 10 回 分詞の形容詞的用法
- 11 回 分詞構文
- 12 回 不定詞
- 13 回 関係詞
- 14 回 比較
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、課題20%と期末試験60%に、出席状況・学習態度の結果を加味して総合的に評価します。
(正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。)
尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定個所を予習する。疑問個所を明確にする。

事後学習：授業中の疑問が解消できたかを振り返る。それに関しては、類似問題で反復練習をする。

履修上の注意 /Remarks

予習段階、授業中、復習段階で疑問に感じたことは積極的に質問したり、自ら調べてください。そのために、高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておく役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC(R) Listening and Reading Test

英語II (人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

前期と同様、英文記事を利用し、社会の様々な分野のニュースを読むことで、英語と社会を理解する力の向上を目指す

教科書 /Textbooks

Insights 2017 (KINSEIDO,2017)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回目 授業内容の説明
- 2 回目 Math Drills for Cambodian Pupils
- 3 回目 Flying Causes Problems
- 4 回目 Japan Todayから
- 5 回目 A Romantic Bridge between
- 6 回目 Microbes Decide Your Health
- 7 回目 Japan Today から
- 8 回目 Light for a Buddhist Temple
- 9 回目 Advanced Health Checker
- 1 0 回目 Japan Todayから
- 1 1 回目 Do You Know Where Santa Lives?
- 1 2 回目 Is It Fair or Unfair?
- 1 3 回目 The Warmest Race in the Coldest Land
- 1 4 回目 Solar Cells for the Near Future
- 1 5 回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 3 0 %
定期試験 7 0 %
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習をして授業に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (人1-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

英語II (人 1-C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and public speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic public speaking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Course Introduction
- 2 Reading Pass 1, Unit 1: Explain reading passage and do questions.
- 3 Reading Pass 1, Unit 1: Questions and Answers Present topic for 1st speech.
- 4 Group work to develop speeches.
- 5 Presentation of speeches.
- 6 Reading Pass 1, Unit 2: Explain reading passage and do questions.
- 7 Reading Pass 1, Unit 2: Questions and Answers Present topic for 2nd speech.
- 8 Group work to develop speeches.
- 9 Presentation of speeches.
- 10 Reading Pass 1, Unit 3: Explain reading passage and do questions.
- 11 Reading Pass 1, Unit 3: Test. Present topic for 3rd speech.
- 12 Group work to develop speeches.
- 13 Presentation of speeches. Present topic for 4th speech.
- 14 Group work to develop speeches.
- 15 Presentation of speeches.

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom work and participation as well as the quality of speeches. A mid-term test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

履修上の注意 /Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード /Keywords

composition, public speaking, competent answers, complete sentences

英語Ⅲ (人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2〜3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (人 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will be taught the four skills while studying about different cultures. The emphasis in this course will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Discussion & outlining about Vacation Activities
2. Writing story from last week's outline
3. Sports - Must, Must not, have to, etc.
4. Health - Food & Drink, Should & Shouldn't
5. Entertainment - oscars, present perfect tense
6. Grammar Review Quiz & Conversation Test
7. Speech activity - speeches from outlines done in first class
8. Food - verb+ gerund or Infinitive
9. Communication - conditional if - if...will
10. Fashion - passive voice simple present & past
11. Grammar Review Quiz & Conversation Test
12. Outlining about "Food I Like and don't like"
13. Writing composition about last week's outline
14. Speeches from outlines about Food I Like and Don't like
15. Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Marks will be based on an average of speech and writing assignments and tests.
Writing assignments and tests will be averaged to make 70% of the final mark, The other 30% will be from the final examination.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Various kinds of homework such as making outlines and compositions.

履修上の注意 /Remarks

Students will be told on a weekly basis
Everyone is required to do all of the assignments and tests. Absence is not an excuse for not doing all of the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation between you and the teacher and other students will make your study fun. Never be afraid to ask the teacher questions.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic speaking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Course Introduction
- 2 Explain reading passage and do questions
- 3 Complete reading assignment
- 4 Explain reading passage and do questions
- 5 Complete reading assignment
- 6 Explain reading passage and do questions
- 7 Complete reading assignment
- 8 Explain reading passage and do questions
- 9 Complete reading assignment
- 10 Explain reading passage and do questions
- 11 Complete reading assignment
- 12 Explain reading passage and do questions
- 13 Complete reading assignment
- 14 Explain reading passage and do questions
- 15 Complete reading assignment

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom work. A mid-term and final test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

英語IV (人 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード /Keywords

composition, competent answers, complete sentences

英語Ⅳ (人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
 Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語V (人2-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST”
(石井隆之共著) 成美堂 ¥2,200 + 税
単語等はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Airport : Listening Section、小テスト : Day 1
- 3回 Unit 1 Airport : Reading Section文法 : 動詞、小テスト : Day 2
- 4回 Unit 2 Train Station : Listening Section、小テスト : Day 3
- 5回 Unit 2 Train Station : Reading Section文法 : 準動詞、小テスト : Day 4
- 6回 Unit 3 Department Store : Listening Section、小テスト : Day 5
- 7回 Unit 3 Department Store : Reading Section文法 : 5文型、小テスト : Day 6
- 8回 Unit 4 Restaurant : Listening Section、小テスト : Day 7
- 9回 Unit 4 Restaurant : Reading Section文法 : 関係詞と接続詞、小テスト : Day 8
- 10回 Unit 5 Hotel : Listening Section、小テスト : Day 9
- 11回 Unit 5 Hotel : Reading Section文法 : 助動詞と仮定法、小テスト : Day10
- 12回 Unit 6 Hospital : Listening Section、小テストまとめ : Day1~10
- 13回 Unit 6 Hospital : Reading Section文法 : 前置詞と冠詞
- 14回 Unit 7 Bank : Listening Section
- 15回 Unit 7 Bank : Reading Section文法 : 否定と比較

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 : 70%、日常の授業への取り組み (小テスト、宿題) : 30%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (人2-A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくる。また、配布したプリントを覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (人2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

新形式TOEIC®問題対策のテキストを使用して、頻出テーマである旅行、オフィス、季節・天気、健康、会議などに関する場面の英語に取り組みTOEICに対応した英語力の養成を図ります。
Part 1からPart 7まで解答のポイント、頻出語句を確認しながら学習を進めていき、基本的な語彙と構文、文法事項を身に付けることを目指します。特に頻出語彙の演習は繰り返し音声を聞くことで、リスニングパートへの対応力アップにもつながります。
リスニングに関しては、アメリカ英語のみならず、イギリス、カナダ、オーストラリアで話されている英語を発音するスピーカーの英語を聞き、多様な英語の発音に慣れるようにします。
各章のPart 1 からPart 7 までの問題は、毎回の宿題になりますので、必ず取り組むようにしましょう。

教科書 /Textbooks

The TOEIC® Listening & Reading Test CIRCUIT < Updated Edition > / 『語彙から始めるTOEIC®L & R 総合演習〈新形式問題対応版〉』
(著者) 鶴岡公幸 / Matthew Wilson
ISBN978-4-88198-729-2
松柏社 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』

英語V (人2-B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Unit 1 旅行①
- 2 回 Unit 2 オフィス①
- 3 回 Unit 3 レストラン
- 4 回 Unit 4 季節・天気
- 5 回 Unit 5 健康
(いろいろな英語の発音に慣れよう(1))
- 6 回 Unit 6 旅行②
- 7 回 Unit 7 休暇
- 8 回 Unit 8 オフィス②
- 9 回 Unit 9 ショッピング
- 10 回 Unit 10 就職活動
(いろいろな英語の発音に慣れよう(2))
- 11 回 Unit 11 娯楽
- 12 回 Unit 12 旅行③
- 13 回 Unit 13 オフィス③
- 14 回 Unit 14 会議
- 15 回 Unit 15 スポーツ、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

【成績評価の方法】

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各ユニットの演習問題に必ず取り組みましょう。
また間違った箇所は復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を必ず持参すること。

キーワード /Keywords

英語V (人2-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞くの3技能を総合的に鍛える必要がある。この授業では、T o e i cにおける、高得点の獲得を目標に実践的な訓練を行う。後半は、エッセイを読んで、映画作品を深く味わう。

教科書 /Textbooks

"The Toeic Circuit" by Tomoyuki Tsuruoka, Matthew Wilson Shohakusya
"Our Time, Our Lives, Our Movies" by Joseph Tabot Koji Morinaga 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listeningの問題の答え合わせ。
3. 読解文も訳の答え合わせ。
4. 読みを流暢になるまで練習する。
5. 後半は、映画作品を深く味わう。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 The Toeic Circuit 旅行
- 3回 Unit 2 オフィス
- 4回 Unit 3 レストラン
- 5回 Unit 4 季節・天気
- 6回 Unit 5 健康
- 7回 Review テスト
- 8回 Review テスト解説
- 9回 Our Time, Our Lives, Our Movies Unit 1 Star Wars
- 10回 Unit 2 Frozn
- 11回 Unit 3 Toy Story
- 12回 Unit 4 Harry Potter
- 13回 Unit 5 The Lord of the Rings
- 14回 Unit 6 Titanic
- 15回 総復習

英語V (人2-C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題10パーセント 試験65%
4回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いて予習を必ずしてくる。長文は単語を調べておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VI (人2-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST”
(石井隆之共著) 成美堂 ¥2,200 + 税
単語プリントは配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 8 Workplace : Listening Section、小テスト : Day 11
- 3回 Unit 8 Workplace : Reading Section語彙 : 接頭辞、小テスト : Day 12
- 4回 Unit 9 Fitness Club : Listening Section、小テスト : Day 13
- 5回 Unit 9 Fitness Club : Reading Section語彙 : 接尾辞、小テスト : Day 14
- 6回 Unit 10 Sightseeing : Listening Section、小テスト : Day 15
- 7回 Unit 10 Sightseeing : Reading Section語彙 : 派生語、小テスト : Day 16
- 8回 Unit 11 International Conference : Listening Section、小テスト : Day 17
- 9回 Unit 11 International Conference : Reading Section語彙 : 派生語、小テスト : Day 18
- 10回 Unit 12 Computers Society : Listening Section、小テスト : Day 19
- 11回 Unit 12 Computers Society : Reading Section語彙 : 類似語、小テスト : Day 20
- 12回 Unit 13 Employment : Listening Section、小テストまとめ : Day 11~20
- 13回 Unit 13 Employment : Reading Section語彙 : 同音異義語
- 14回 Unit 14 Job Training : Listening Section
- 15回 Unit 14 Job Training : Reading Section語彙 : 綴りが似ている語

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 : 70%、日常の授業への取り組み (小テスト、宿題) : 30%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (人 2 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくる。また、配布したプリントを覚えてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (人2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

映画“The Devil Wears Prada”を題材に、映画に出てくる重要表現や語句の意味、文法事項を確認し、映画の場面を基にした英作文に挑戦します。また映画の「生の英語」を聞きとるため、脱落、連結、同化、弱化といった音声変化を学び、リスニング力の向上を目指します。さらに各章の、「依頼」「称賛」といったテーマにしたがって、映画で使用された表現を確認することで、コミュニケーション能力を高めていきます。

教科書 /Textbooks

Communicate in English with The Devil Wears Prada
Aline Brosh MvKenna著 角山照彦 / Simon Capper 編著
松柏社 2016年
ISBN978-4-88198-712-4 2200円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Chapter 1 過去完了 : Job Interview (別れ際の挨拶)
- 3回 Chapter 2 助動詞 1 : First Day on the Job (依頼する)
- 4回 Chapter 3 関係代名詞 1 : Hurricane on the Weekend (反論する)
- 5回 Chapter 4 現在進行形 : Andy's Makeover (困惑を示す)
- 6回 Chapter 5 助動詞 2 : Andy Meets Christian (聞き返す)
- 7回 Chapter 6 分詞 : Miranda's Request (希望を伝える)
- 8回 Review (1)
- 9回 Chapter 7 仮定法 : Nate's Birthday (驚きを示す)
- 10回 Chapter 8 現在完了形 : Andy's Decision (確認する)
- 11回 Chapter 9 動名詞 : Breakup with Nate (提案する)
- 12回 Chapter 10 受動態 : The Dream Job (意思・予定を述べる)
- 13回 Chapter 11 関係代名詞 2 : Announcement at the Party (称賛する)
- 14回 Chapter 12 使役動詞 : Andy's Final Choice (丁寧に依頼する)
- 15回 Review (2)、まとめ

英語VI (人2-B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外でもできるだけ多く英語を聞き、読むように心がけましょう。

履修上の注意 /Remarks

各チャプターの演習問題は毎回、宿題となりますので必ず取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を必ず持参すること。

キーワード /Keywords

英語VI (人2-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞くの3技能を総合的に鍛える必要がある。この授業では、T o e i cにおける、高得点の獲得を目標に実践的な訓練を行う。後半は、エッセイを読んで、映画作品を深く味わう。

教科書 /Textbooks

"The Toeic Circuit" by Tomoyuki Tsuruoka, Matthew Wilson Shohakusya
"Our Time, Our Lives, Our Movies" by Joseph Tabot Koji Morinaga 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listeningの問題の答え合わせ。
3. 読解文も訳の答え合わせ。
4. 読みを流暢になるまで練習する。
5. 後半は、映画作品を深く味わう。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 "The Toeic Circuit" Unit 6 旅行
- 3回 Unit 7 休暇
- 4回 Unit 8 オフィス
- 5回 Unit 9 ショッピング
- 6回 Unit 10 就職活動
- 7回 Review テスト
- 8回 Review テスト解説
- 9回 "Our Time, Our Lives, Our Movies" Unit 6 Titanic
- 10回 Unit 7 Stand by Me
- 11回 Unit 8 Pirates of the Caribbean
- 12回 Unit 14 Good Will Hunting
- 13回 Unit 15 The Devil Weas Prada
- 14回 Unit 6 Titanic
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題10パーセント 試験65%
4回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いて予習を必ずしてくる。長文は単語を調べておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VII (人2-A) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations majors in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Instructor will furnish class materials. The student will need a memory stick.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: (bilingual is preferable).

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message - Looking Them in the Eye
- 第3回 Delivering Your Message - Effective Use of Notes
- 第4回 Putting Your Speech Together
- 第5回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第6回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience Speech
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object Speech
- 第10回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object Speech
- 第11回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第12回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 1
- 第13回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 1
- 第14回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 2
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Work 60% and Final Exam 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

The students will write, practice, and memorize each of their speeches.
No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (人2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 人2 - B / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書 /Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Introduction: Explanation of the course aims, grading, expectations, and general advice about how to study effectively.
- 第2回 : Unit 1 - Title: All about me. Lesson A
- 第3回 : Unit 1, Lesson B
- 第4回 : Unit 2 - Title: Let's eat! Lesson A
- 第5回 : Unit 2, Lesson B
- 第6回 : Unit 3 - Title: Unsolved Mysteries. Lesson A
- 第7回 : Unit 3, Lesson B
- 第8回 : Unit 4 - Title: Today's Trends. Lesson A
- 第9回 : Unit 4, Lesson B
- 第10回 : Unit 5 - Title: Out and About. Lesson A
- 第11回 : Unit 5, Lesson B
- 第12回 : Unit 6 - Title: Student Life. Lesson A
- 第13回 : Unit 6, Lesson B
- 第14回 : All outstanding work to be completed, exam explanation.
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意 /Remarks

英語VII (人 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Sleep well and keep regular hours.
Don't use phones in the class.

キーワード /Keywords

Education is the key to a better future.

英語VII (人2-C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人2-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed each week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VIII (人 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Human Relations majors in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Instructor will furnish class materials. The student will need a USB flash drive.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: (bilingual is preferable).

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Preparing for the Persuasive Speech
- 第3回 Determining Your Specific Purpose - Analyzing Your Audience
- 第4回 Gathering Information - Preparing Visual Aids
- 第5回 Organizing Your Speech
- 第6回 Outlining and Writing Your Persuasive Speech
- 第7回 Persuasive Speeches by Group 1 (The Japanese Government Should...)
- 第8回 Persuasive Speeches by Group 2 (The Japanese Government Should...)
- 第9回 Persuasive Speeches by Group 1 (Modern Slavery)
- 第10回 Persuasive Speeches by Group 2 (Modern Slavery)
- 第11回 Persuasive Speeches by Group 1 (Surviving in the New World)
- 第12回 Persuasive Speeches by Group 2 (Surviving in the New World)
- 第13回 Persuasive Speeches by Group 1 (Human Rights)
- 第14回 Persuasive Speeches by Group 2 (Racial Equality)
- 第15回 Review for the Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Work 60% and Final Exam 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

The students will write, practice and memorize their speeches.
No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (人 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 人 2 - B / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書 /Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Welcome back! Let's talk about the summer vacation.
- 第 2 回 : Unit 7 - Title: Let's Celebrate! Lesson A.
- 第 3 回 : Unit 7, Lesson B.
- 第 4 回 : Unit 8 - Title: Storytelling. Lesson A.
- 第 5 回 : Unit 8, Lesson B.
- 第 6 回 : Unit 9 - Title: The World of Work. Lesson A.
- 第 7 回 : Unit 9, Lesson B.
- 第 8 回 : Unit 10 - Title: Telecommunications. Lesson A.
- 第 9 回 : Unit 10, Lesson B.
- 第 10 回 : Unit 11 - Title: Technology Today. Lesson A.
- 第 11 回 : Unit 11, Lesson B.
- 第 12 回 : Unit 12 - Title: Let's Go Somewhere! Lesson A.
- 第 13 回 : Unit 12, Lesson B.
- 第 14 回 : Christmas quiz.
- 第 15 回 : All outstanding work to be completed, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Don't use phones in the class.

キーワード /Keywords

Education is the key to a better future.

英語VIII (人2-C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 人2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次 単位 /Credits 1単位 1単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 比人 3 年 比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 毎週配布するプリントの英文をニュース映像も参考にし、予習する
事後： 重要語句・表現を再確認する

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 比人 3 年 比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。		
			英語 X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 毎週配布するプリントの英文を二週ス映像も参考にし、予習する
事後： 重要語句・表現を再確認する

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Every week, students will be asked to write about one or two events in their daily lives. Students should be prepared to read or share details of their diary with other class members or as a primer for a topic of class discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 比人 3 年 比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X II	ENG312F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: English as an International Language I
- 第 3 回: English as an International Language II
- 第 4 回: Demographic Change I
- 第 5 回: Demographic Change II
- 第 6 回: Class Presentations I
- 第 7 回: Ethics in Sport I
- 第 8 回: Ethics in Sport II
- 第 9 回: Global Warming I
- 第 10 回: Global Warming II
- 第 11 回: Class Presentations II
- 第 12 回: Beauty and Self Image I
- 第 13 回: Beauty and Self Image II
- 第 14 回: Animals as Food I
- 第 15 回: Class Presentations III

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

Please check Moodle resource

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun discussing in English together

キーワード /Keywords

Communicate / make friends / have fun

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 張 瑾 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 張 瑾 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 単語練習、聴解練習
 - 第2回 会話、作文練習
 - 第3回 場面の体験
 - 第4回 単語練習、聴解練習
 - 第5回 会話、作文練習
 - 第6回 場面の体験
 - 第7回 単語練習、聴解練習
 - 第8回 会話、作文練習
 - 第9回 場面の体験
 - 第10回 単語練習、聴解練習
 - 第11回 会話、作文練習
 - 第12回 場面の体験
 - 第13回 単語練習、聴解練習
 - 第14回 会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 単語、聴解練習
 - 第2回 会話、作文練習
 - 第3回 場面の体験
 - 第4回 単語、聴解練習
 - 第5回 会話、作文練習
 - 第6回 場面の体験
 - 第7回 単語、聴解練習
 - 第8回 会話、作文練習
 - 第9回 場面の体験
 - 第10回 単語、聴解練習
 - 第11回 会話、作文練習
 - 第12回 場面の体験
 - 第13回 単語、聴解練習
 - 第14回 会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価
平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』 巖基珠、金三順ほか（白水社）ISBN978-4-560-01784-5
、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】
- 14回 かしこまった丁寧形1
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』 巖基珠、金三順ほか(白水社) ISBN978-4-560-01784-5、
担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの学習内容確認、丁寧形1
- 2回 否定形2
- 3回 漢数字【1～、分数・小数】【電話番号】【年月日】【誕生日】
- 4回 固有数字【年齢】【時刻】
- 5回 助詞
- 6回 丁寧形2【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 敬語1
- 9回 敬語2
- 10回 敬語3
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】【日記】
- 12回 過去形の及びドリル
- 13回 好み
- 14回 注文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。こうした文字の構成と仕組みなどを発音の練習とともに理解しつつ、一言会話を取り入れてハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『暮らしの単語集 韓国語』 野間秀樹（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 【基本母音】
2. 【基本子音】
3. 【激音と濃音】
4. 【合成母音字】
5. 【終声①】 【終声②】
6. 発音のルール【連音化】 【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】 【鼻音化】
8. その他の発音法則
9. 【指定詞の丁寧形】
10. 【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現（～といいます）
12. 【存在詞のうちけた丁寧形】 【場所を表す単語および助詞】
13. 【存在詞のうちけた丁寧形・疑問】 【時を表す単語および助詞】
14. 【存在詞のうちけた丁寧形・否定】 【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・20%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・30%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出される課題をこなすこと。
韓国語の単語の意味を調べて発音できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。また、初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。自己紹介だけでなく、韓国人を相手にした様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成する。講義では、短い文を覚えペアを組んだ会話練習を取り入れながら、会話をするうえで最も重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『暮らしの単語集 韓国語』 野間秀樹（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【指定詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
4. 【動詞のうちとけた丁寧形】【数詞①】
5. 【数詞②】
6. 【一週間の予定】
7. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【目的表現】
9. 【動詞・形容詞の変則活用】【尊敬表現】
10. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
 11. 【願望表現】
 12. 【接続表現】【確認表現】
 13. 【意思表現】【推測表現】
 14. 【進行や状態の継続表現】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・20%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・30%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出される課題をこなすこと。
韓国語文を和訳して発音できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回 体の具合を言う
- 10回 体の具合を言う
- 11回 体の具合を言う
- 12回 勉強の仕方を話す
- 13回 勉強の仕方を話す
- 14回 勉強の仕方を話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 40% 定期試験 40% 会話試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通じて、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 韓国到着!【スキットを作ってみよう】
- 第4回目 第1課 韓国到着!【文法、練習問題】
- 第5回目 第2課 両替【スキットを作ってみよう】
- 第6回目 第2課 両替【文法、練習問題】
- 第7回目 第3課 道を尋ねる【スキットを作ってみよう】
- 第8回目 第3課 道を尋ねる【文法、練習問題】
- 第9回目 第4課 ホテルチェックイン【スキットを作ってみよう】
- 第10回目 第4課 ホテルチェックイン【文法、練習問題】
- 第11回目 第5課 フロントへの問い合わせ【スキットを作ってみよう】
- 第12回目 第5課 フロントへの問い合わせ【文法、練習問題】
- 第13回目 第6課 約束【スキットを作ってみよう】
- 第14回目 第6課 約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII (長谷川由起子・張ユンヒャン著、白帝社、978-4-86398-210-9 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第7課 紹介【スキットを作ってみよう】
- 第4回目 第7課 紹介【文法、練習問題】
- 第5回目 第8課 食事の誘い【スキットを作ってみよう】
- 第6回目 第8課 食事の誘い【文法、練習問題】
- 第7回目 第9課 食堂で【スキットを作ってみよう】
- 第8回目 第9課 食堂で【文法、練習問題】
- 第9回目 第10課 カラオケ【スキットを作ってみよう】
- 第10回目 第10課 カラオケ【文法、練習問題】
- 第11回目 第11課 買い物【スキットを作ってみよう】
- 第12回目 第11課 買い物【文法、練習問題】
- 第13回目 第12課 見通し【スキットを作ってみよう】
- 第14回目 第12課 見通し【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲 ナウカ出版 2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音1: 母音(1)(2)、子音(1)(2)、アクセント、母音の発音規則(1)
- 3回 文字と発音2: 子音(3)(4)、硬子音と軟子音、母音の発音規則(2)、硬音記号と軟音記号
- 4回 文字と発音3: 有声子音と無声子音、子音の発音規則、正書法の規則
- 5回 文字と発音4: 数詞・月名などの発音練習、筆記体の書き方、かな音の転写法
- 6回 一課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 7回 一課後半 存在表現、場所の尋ね方、ロシア人の人名について、名前の尋ね方、練習問題
- 8回 二課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 9回 二課後半 人称代名詞、動詞の現在変化(1)、否定文、疑問文、名と愛称、練習問題
- 10回 三課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 11回 三課後半 名詞の性、所有代名詞、形容詞の変化(1)、指示代名詞、練習問題
- 12回 四課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 13回 四課後半 名詞の複数形、形容詞の変化(2)、名詞類の格変化、前置格、場所表現、練習問題
- 14回 五課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 15回 五課後半 動詞の現在変化(2)、対格、形容詞の変化(3)、不規則変化動詞、語順、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題 ... 20% 授業参加の積極性 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後、授業前に、これまで学習した重要な文法事項、語彙などの復習をすること。
小テスト、課題も課すので準備を怠らぬこと。

ロシア語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、このスタート時期の欠席は好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲 ナウカ出版 2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習
- 2回 六課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 3回 六課後半 生格、所有表現、疑問文、定代名詞、形容詞の名詞化、練習問題
- 4回 七課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 5回 七課後半 再帰動詞、動詞過去形、形容詞短語尾形、特殊変化動詞、練習問題
- 6回 八課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 7回 八課後半 与格、不定代名詞、可能性・必要性表現、第二前置格、不規則変化動詞、練習問題
- 8回 九課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 9回 九課後半 動詞の未来形、無人称文、不定法構文、複文、数量生格、不規則変化動詞、練習問題
- 10回 十課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 11回 十課後半 命令形、「・・が痛む」表現、否定生格、「何も・・ない」表現、練習問題
- 12回 十一課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 13回 十一課後半 造格、無変化名詞、行く先・起点を表す前置詞句、定動詞・不定動詞、練習問題
- 14回 十二課前半 テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後、および授業前に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
小テスト、課題も課すのでその準備も怠らぬこと。

ロシア語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 < ГИПНОЗ > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業参加の積極性 ... 50 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅵ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅵ	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	ロシアのことわざ「自己抑制について」
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	ロシアの白樺
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴(1)
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴(2)
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	フィンランドへの旅
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻(1)
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻(2)
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	パブロフ「若者への書簡」
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	若いジャーナリストとの出会い
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	「花束」
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	「イワン・ベトロフとピッチとの対話」
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	チェーホフ短編「別荘で」
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / Credits: 1単位 / Semester: 2学期 / Class Format: 授業形態 講義 / Class: クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修してください。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「テレビでドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞かるとき
- 8回 綴りを聞かるとき、英語の分る人を探さるとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞かるとき、道順・方向を聞かるとき、距離を聞かるとき
- 11回 時刻を聞かるとき、時間を聞かるとき、曜日を聞かるとき、日付を聞かるとき
- 12回 値段を聞かるとき、数量を聞かるとき、方法を聞かるとき、理由を聞かるとき
- 13回 目的を聞かるとき、住所を聞かるとき、出身地を聞かるとき、生年月日を聞かるとき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞かるとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞かるとき、相手の感想を聞かるとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞かるとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞かるとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞かるとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ボンジュール・フランス 一言語と文化で学ぶフランス語基礎文法― 森 繁 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 年齢、趣味
- 5回 質問する(1)
- 6回 質問する(2)
- 7回 ものや人物の説明(1)
- 8回 ものや人物の説明(2)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 10回 予定
- 11回 過去のことを言う(1)
- 12回 過去のことを言う(2)
- 13回 時間と天候
- 14回 依頼する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

フランス語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようにしてほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ボンジュール・フランス 一言語と文化で学ぶ新フランス語基礎文法一、粟国 孝 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 贈り物をする(1)
- 2回 贈り物をする(2)
- 3回 日常の行動(1)
- 4回 日常の行動(2)
- 5回 旅行する
- 6回 過去のことを言う(3)
- 7回 過去のことを言う(4)
- 8回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 9回 未来の計画(1)
- 10回 未来の計画(2)
- 11回 未来の計画(3)
- 12回 街を歩く
- 13回 夢を語る
- 14回 感情を表現する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食文化を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 受動態
- 2回目 なぜ?—なぜなら、の表現 (1課終了)
- 3回目 形容詞の最上級
- 4回目 関係代名詞1 (2課終了)
- 5回目 関係代名詞2
- 6回目 勧誘と応答の表現 (3課終了)
- 7回目 疑問代名詞
- 8回目 不定代名詞 on (4課終了)
- 9回目 条件法現在
- 10回目 条件法過去 (5課終了)
- 11回目 代名動詞の複合過去
- 12回目 複合過去復習 過去分詞の性数一致 (6課終了)
- 13回目 半過去
- 14回目 指示代名詞 ce (7課終了)
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にはテキスト準拠ホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

辞書(紙でも電子でもよい)を必携すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版社 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 接続法現在
- 2回目 「~のように見える」の表現（8課終了）
- 3回目 位置を表す前置詞
- 4回目 勧誘・提案の表現3（9課終了）
- 5回目 現在分詞
- 6回目 ジェロンディフ（10課終了）
- 7回目 副詞について
- 8回目 時と場所の副詞（11課終了）
- 9回目 所有代名詞
- 10回目 お礼の表現（12課終了）
- 11回目 間接話法
- 12回目 時制の一致（13課終了）
- 13回目 強調構文
- 14回目 時を表す前置詞句（14課終了）
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を必携すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)、読解
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)、聞き取り
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的プリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
- 2) unité 6 : 誰 (後半)
- 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
- 4) unité 7 : 何 (前半)
- 5) unité 7 : 何 (後半)
- 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
- 7) unité 8 : どのように (前半)
- 8) unité 8 : どのように (後半)
- 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
- 10) unité 9 : 過去について (前半)
- 11) unité 9 : 過去について (後半)
- 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
- 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
- 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
- 15) 後期の復習、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト・・・ 40%
プレゼンテーション、レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞典が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

辞書は必須です。必ず授業の前に、単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、問題文(スペイン語)を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

スペイン語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 再帰動詞、無人称文など
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 6 同上
- 7 ここまでの復習
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 同上

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パーティの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと思っています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習しておく。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努める。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見いきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ：トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】	
3回	大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】	読み(1)輪読
4回	大学生生活(3)【キャンパスツアー】	読み(2)輪読
5回	大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】	読み(3)輪読
6回	大学生生活(5)【図書館ツアー】	読み(4)輪読
7回	大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】	読み(5)輪読
8回	大学生生活(7)【講義の上手な受け方】	読み(6)輪読
9回	大学生生活(8)【演習に参加するコツ】	読み(7)輪読
10回	大学生生活(9)【大学の定期試験】	読み(8)輪読
11回	チュートリアル(1)【学習計画】	
12回	チュートリアル(2)【振り返り】	
13回	チュートリアル(3)【修正】	
14回	チュートリアル(4)【評価】	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 精読 チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメントシート】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようにすることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 セルフチェックしよう【発表・評価】
- 3回 国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
- 4回 レシートのコンテンツを発表しよう【マトリクス思考】
- 5回 国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
- 6回 レジューメを作ろう【要点】
- 7回 パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
- 8回 発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
- 9回 発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
- 10回 同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

デジタル・プレゼンテーション Contents(内容) Techniques(技術) Tools(道具)

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探す	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン①	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン②	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン③	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ピジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 留学生 2年 /2 Years of School Entrance

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『協働で学ぶクリティカル・リーディング』(館岡洋子他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ: 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私と外国語学習(1)【日本語が上手になるには】
- 3回 私と外国語学習(2)【外国語上達法】
- 4回 私と外国語学習(3)【外国語学】
- 5回 私と国(1)【さまよえる老婆】
- 6回 私と国(2)【越えてきた者の記録】
- 7回 私と異文化(1)【文化と理解I】
- 8回 私と異文化(2)【文化と理解II】
- 9回 私と異文化(3)【世界中がハンバーガー】
- 10回 私と学校【なぜ子どもは学校に行かねばならないのか】
- 11回 私と他者(1)【情けは人のためならず】
- 12回 私と他者(2)-1【自分だけのつぶやきを人に話してもいいの】
- 13回 私と他者(2)-2【「他人に嫌われること」をきにしてはいけないの】
- 14回 私と他者(3)【あなたなしでは生きてゆけない】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各ユニットの予習シートを事前学習として行います。また、同様に各ユニットのまとめ提出シートを事後学習として行います。

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

クリティカル・リーディングは、あらゆる分野において、大学における勉学の基本になります。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 対話による思考のサイクル

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 レポートの作成(2)修正する
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(3)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% テスト...30% 授業への取り組み(発表や課題を含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

ビジネスケースメソッドを用いて、実在する企業のビジネスケースを題材とするグローバルイノベーションやローカライゼーションを考えて生きます。具体的には、ディスカッションを通して分析能力や批判力を養うと同時にコミュニケーションスキルも伸ばして生きます。つまり、内容と言語を統合した学習を行うことにより、より高度な日本語能力の育成も図っているのです。

実在する企業を題材とすることで学習内容がテキストに限定されずに、具体的かつリアリティのあるものになり、また最新の情報を授業の中に取り入れることも可能になります。そして、多国に展開するグローバル企業の日本における戦略を考察することで、日本の社会や文化に対する理解を新たにすることが期待されます。

教科書 /Textbooks

『ビジネスケースで学ぶ日本語』(筒井通雄監修・高見智子著、TheJapanTimes)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ケース・スタディ 日本企業事例集』(ハーバード・ビジネス・スクール著、ダイヤモンド社)
- 『日本型企業文化論-水平的集団主義の理論と実証』(佐藤和著、慶應義塾大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「1.日本コカ・コーラ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 3回 「1.日本コカ・コーラ」②読み物：内容理解
- 4回 「1.日本コカ・コーラ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 5回 「2.任天堂」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 6回 「2.任天堂」②読み物：内容理解
- 7回 「2.任天堂」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 8回 「3.コーチ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 9回 「3.コーチ」②読み物：内容理解
- 10回 「3.コーチ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 11回 「4.ウォルマート」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 12回 「4.ウォルマート」②読み物：内容理解
- 13回 「4.ウォルマート」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
- 14回 「5.トヨタ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
- 15回 「5.トヨタ」②読み物：内容理解

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% ポートフォリオ評価...70%(自己評価30% ピア評価20% 教員評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業では、予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。各企業に対する理解を深めた後で、学びの統合を行います。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。

この授業ではポートフォリオを作成します。必ず、この授業専用のファイルを1つ用意してください。

(ポートフォリオの内容については1回目の授業オリエンテーションで詳しく説明します。)

日本語の文法・語彙などは、チューター学生とともに予習・復習をしてください。

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスについて専門的に学ぶ授業ではありませんが、誰もが知っている実際の企業について、情報を収集し、日本語で読み、日本語で考え、日本語で話す合うことによって、知識(内容)と言語の両方を伸ばすことのできる授業です。皆さんの、主体的かつ協同的な学習姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

内容言語統合学習 ケースメソッド 日本語運用能力 インプットからアウトプットへ グローバル企業

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

認知心理学【昼】

担当者名 近藤 倫明
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の認知過程における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の視点から分析・検討ができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の観点から主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

認知心理学

PSY242M

授業の概要 /Course Description

われわれが生きていくためには、外界から情報を取り入れる必要がある。

われわれは情報を取捨選択して脳内に取り入れ、それらの情報をいつでも取り出せるように手がかりを用意して保存し必要な情報だけを取り出して、目の前の問題を解決する必要がある。
こういった一連の情報処理過程を認知過程と言う。

認知心理学では、情報の処理に関わる「注意」、「記憶」、「情動」などについて話していく。その際、認知過程の仕組みを明らかにする「再生率・再認率」、「反応時間」といった方法論や、「脳波」、「眼球運動」、「瞳孔」、「瞬目」などの生理的指標について話していく。このようなことを通して、われわれがどのように情報を処理しているのかについて体験的に理解を深めることを目指す。

認知過程に関する不思議なメカニズムが、自分の中で意識することなく精巧に働いていることに感動するであろう。

このように認知機能という側面からヒトの心の機能に迫ることは、注意や情動など人間のさまざまな側面からの理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となると予想される。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 新・生理心理学 2巻 宮田洋 (監修) 柿木昇治・山崎勝男藤澤清 (編) (1997) 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 心理学と「認知心理学」
2. 認知心理学の歴史
3. 注意の仕組み
4. 注意についての理論
5. 注意障害を持った人々 1
6. 注意障害を持った人々 2
7. 記憶 (短期記憶)
8. 記憶 (ワーキングメモリー)
9. 記憶 (長期記憶と検索)
10. 眼球運動と認知過程
11. 瞳孔運動と認知過程
12. 瞬目活動と認知過程 1
13. 瞬目活動と認知過程 2
14. 脳波と覚醒水準
15. 事象関連電位と認知過程

* 変更の可能性あります。

認知心理学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
授業内レポート 20%
授業外レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

最初の授業時間に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用する。

キーワード /Keywords

「認知過程」, 「注意」, 「記憶」, 「再生率・再認率」, 「反応時間」, 「脳波」, 「眼球運動」, 「瞳孔」, 「瞬目」

社会心理学【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 社会心理学の観点から諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 社会の諸問題を社会心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会心理学

PSY210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会心理学における幅広い分野の研究を紹介していく予定である。基礎的な知識を学んでもらうと同時に、より深い社会心理学的な問題に興味をもってもらいたい。

到達目標は、社会におけるさまざまな問題が社会心理学的な問題と関わっていることを理解できること、また、社会心理学の基礎的な理論と用語を説明できること、さらに、講義内容をさらに深める発展的学習が自主的に行えるようになることである。

教科書 /Textbooks

「社会心理学のストーリー」ナカニシヤ出版 1600円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的推論
- 第3回 対人距離と他者の存在意義
- 第4回 対人葛藤と共感
- 第5回 自己意識，自己概念
- 第6回 自己評価，自尊心
- 第7回 集団の定義，集団力学
- 第8回 自己と集団の関わり
- 第9回 集団間関係
- 第10回 個人的アイデンティティと社会的アイデンティティ
- 第11回 偏見，同調，服従
- 第12回 自己に関する矛盾と統合
- 第13回 現代社会における自己，大衆社会化，都市化
- 第14回 社会心理学の方法論
- 第15回 社会心理学のまとめ、小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況（小テスト4回程度）... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会心理学 【昼】

キーワード /Keywords

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版 1600円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	カウンセリングについての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	カウンセリングに関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

カウンセリング論

PSY232M

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理アセスメントと心理療法に関する基礎的知識の習得を目指す。心理アセスメントでは、初回面接のあり方や心理アセスメントの諸技法について概観する。心理療法では、三大心理療法の精神分析、行動療法、クライエント中心療法について概観する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理療法とは何か
- 第2回 心理アセスメント(1)：初回面接と見立て【初回面接】
- 第3回 心理アセスメント(2)：精神医学的診断【病理水準】
- 第4回 心理アセスメント(3)：テストバッテリー【構造化面接法】
- 第5回 精神分析の理論と実践(1)【無意識】
- 第6回 精神分析の理論と実践(2)【メタ心理学】
- 第7回 精神分析の理論と実践(3)【自由連想法】
- 第8回 クライエント中心療法の理論と実践【受容】【共感】
- 第9回 認知行動療法の理論と実践(1)【行動療法】
- 第10回 認知行動療法の理論と実践(2)【認知療法】
- 第11回 認知行動療法の理論と実践【第三世代の認知行動療法】
- 第12回 三大心理療法の共通点と相違点【洞察】【自己一致】【学習】
- 第13回 学校カウンセリングの実際【スクールカウンセリング】
- 第14回 心理療法の実際（ビデオ学習等）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（4回） ... 40% 試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、前もって配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、心理療法の各技法の要点を整理しておく。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講されることを薦めます。

カウンセリング論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コミュニケーションにおける心理学の基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学におけるコミュニケーションの視点から社会の諸問題を分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	心理学におけるコミュニケーションの観点から諸問題について主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニケーション論

PSY212M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

○松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 比留間 太白・山本 博樹(編集)『説明の心理学-説明社会への理論・実践のアプローチ』ナカニシヤ出版
- 海保 博之(編)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学(朝倉実践心理学講座)』朝倉書店
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習を必要とします。

コミュニケーション論【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
 評価は、試験の結果のみで行います。
 試験は、全て持ち込み可とします。
 講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
 欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
 その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
 単位が欲しいだけの人、空きコマ潰しに何でもよいから履修しようとする人は絶対にやめよう。
 シラバスをしっかりと読んで、自分に合うかを見極めてから受講した方がよい。正直、教科書は難解で、理解するには時間がかかる。この教科書を勉強するためにある程度時間をかけられる人に勧める。
 グループワークなどで実際にコミュニケーションを行うわけではないので注意。
 講義内容は難しく、考えることが不可欠だが、毎回のミニレポートで具体性を求められることもあり、考えることが習慣化できる。
 コミュニケーションがどう成り立っているのか、人間の思考回路の仕組みを理論や実験を基に知ることができる。知っていて損することは絶対にない内容。
 勘違いが起きる原因など、興味深い事が学べる。日常生活でも「これがコミュ論で学んだことが！」という発見ができて面白い。
 実験のグラフや表の読み方を学べる。
 わかりやすい文章の書き方を心理学的な概念から学べる。(単なるハウツーではなく基礎理論に基づく説明なので、その基礎理論の理解は必須)
 しっかりと筋の通った仮説を立てられるようになるから卒論を書く際に役立つ。
 心理学に関連した動画や映画や本、勉強するのに役立つサイトなどを知ることができる。
 毎回「私は今学んでいる！」と実感させられる授業。大学に来てまで学んでいる意味を改めて感じさせられる。
 とにかく予習と復習。少しでもいいから毎回行うこと。
 他の心理学系の科目とは違う内容なので新鮮。
 これまでの人生で聞いたこともない専門用語や概念が飛び出してくるので、予習復習して、講義中はしっかりメモを取ること。「絶対に理解してやる！」というくらいの意気込みが必要。
 二年生で受講すれば心理学に不可欠な図表の読み方を学べ、ゼミ選択の参考にできる。三年生や四年生にとっては紹介される実験がゼミ研究や卒論の参考になる。
 二年生からも受講可能だが、認知心理学や社会心理学の基礎をある程度修めた三年生での受講をお勧めする。ゼミや卒論で使えるネタがたくさんあり、研究に発展できる。
 わからないことはミニレポートで質問すれば丁寧に説明してもらえるので質問すべし。
 シラバスを読んで受講をためらう人も多いと思うけど、授業は面白いしわかりやすい。しかし、評価はテスト100%(しかもなかなか大変)なので、楽な科目でないことは確か。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、人間工学、コミュニケーション、スキーマ、スクリプト、メンタルモデル、実験、調査、表やグラフの読み方

学習心理学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	学習心理学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学における学習の視点から社会の諸問題を捉え分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	心理学における学習の観点から社会の諸問題について主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

学習心理学

PSY221M

授業の概要 /Course Description

学習(learning)に関する心理学的アプローチについて概説する。特に、学習意欲、学習行動の基礎理論、知識と問題解決、教育との関連、学習の評価といった問題について、具体例を交えながら講義する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 授業のすすめ方について、意欲の問題 【意欲】
- 2回 内発的動機づけと外発的動機づけ 【動機づけ】
- 3回 行動主義における学習の定義 【行動】
- 4回 認知主義における学習の定義 【認知】
- 5回 状況主義における学習の定義 【状況】
- 6回 学習における知識と表象 【知識】
- 7回 問題解決と学習 【問題解決】
- 8回 教育における教授と学習の問題 【教育】
- 9回 学習における個人差 【個人差】
- 10回 記憶と学習 【記憶】
- 11回 知能と学習 【知能】
- 12回 発見学習と仮説実験授業 【仮説】
- 13回 学習と評価 【評価】
- 14回 自己学習 【セルフ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席及び課題提出... 50% テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習心理学の実験を体験し実験データの処理を通して心理学における学習について学びを深めます。

学習心理学 【昼】

キーワード /Keywords

行動 学習 行動科学 心理学

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。

とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習を通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を育てること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書 /Textbooks

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：なぜ教育心理学を学ぶのか 教育を心理学で考える
 - 第3回：記憶に関する理論 認知心理学の理論
 - 第4回：学習とは何か 教えて考えさせるということ
 - 第5回：学習の理論 学習心理学・発達心理学の理論
 - 第6回：子どもの発達を考える 発達心理学の理論
 - 第7回：学習意欲とは何か 学習意欲の構造論から
 - 第8回：子どもをいかに評価するか 学習意欲の観点から
 - 第9回：「学力」について考える 学習意欲と態度
 - 第10回：教育測定・評価（1） 評価の尺度について
 - 第11回：教育測定・評価（2） 教師の視点と生徒の視点
 - 第12回：学校カウンセリング スクールカウンセラーの役割
 - 第13回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
 - 第14回：学習の方法と意欲 学習方略の理論
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 20%
講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 50%

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簡易レポート・授業で扱うプリントについて、その都度指示をする。

事後学習：講義内で学んだ心理学的手法について学校現場の課題や実践と関連して考えるよう、都度指示を出す。

教育心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわかりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

発達心理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害特性と障害者支援についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 障害者支援に関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理学の観点から障害に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害について適切に理解し、他者を尊重した関わりができる。
	生涯学習力	● 障害に関わる諸問題について心理学的観点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害児の心理と指導

PSY223M

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉症スペクトラムについて
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

障害児の心理と指導 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」（霜山徳爾）といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト・ユング・アドラー】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 アドラー心理学について 【ライフスタイル】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理的な負荷を感じて追い詰められている人が増えている。精神疾患を発症した労働災害の請求が1515人と初めて1500人を超え過去最高になった(厚生労働省発表2015年度のまとめ)。認定の原因は「心理的な負荷が極度に高い出来事」が最多である。日頃から自分の周りに観られる心理的な負荷に関する事案を意識して生活してほしい。さらに学習した内容や心構えを生活の中で実践して方法や考え方を体得するよう望みたい。

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」「アドラー心理学」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

心理療法論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

森田療法 認知行動療法

心理統計【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の実験や調査等から得られたデータの統計的分析に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	統計学的な視点から諸問題を的確に分析・解決していくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	統計的手法によって所与の問題についての検討を主体的に学習する。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理統計

PSY240M

授業の概要 /Course Description

心理学では、実験や検査を行ったら、その結果をレポート（論文）にまとめて報告することになる。このレポートは、問題と目的、方法、結果、考察という章立てとなる。本講義は、結果の段階に関連するものである。

そこで本講義では、心理学の実験や検査（調査）等から得られたデータの特徴を記述し（記述統計）、そのデータに基づいて行う母集団に関する一般的な推論の仕方（推測統計）について理解すること、および結果の記述の仕方（文章化）についても理解することを目標とする。あわせて、表計算ソフト（EXCEL）と統計ソフト（javascript star）の使い方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 田中敏・山際勇一郎 教育出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理統計とは【母集団】【標本】
- 2回 代表値【平均】
- 3回 散布度【標準偏差】
- 4回 区間推定【不偏推定値】
- 5回 相関【相関係数】
- 6回 回帰直線【決定係数】
- 7回 検定のしくみ【有意水準】
- 8回 t検定【自由度】
- 9回 t検定【t検定】
- 10回 カイ二乗検定【期待度数】
- 11回 一要因分散分析【主効果】【平方和】
- 12回 多重比較【LSD】【HSD】
- 13回 二要因分散分析【交互作用】
- 14回 交互作用【単純主効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に行う小課題：60%
学期末に行うレポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：指示されたページ（あるいは配付プリント）データの入力
事後：課題の校正に書いてある指示に従って、提出課題の間違いを直す

履修上の注意 /Remarks

USBメモリーを必ず準備しておいてください。
心理学実験、心理学研究法、心理学実習とあわせて受講すると理解しやすい。

心理統計【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方や認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する学説
- 第4回 老年期の認知機能の変化を見る枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 知能の測定方法【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 知能の二つの側面【結晶性能力、流動性能力】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【再認と再生、固有名詞と一般名詞、初頭効果と新近効果】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応 1【社会適応・時代背景・社会環境】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応 2【成熟したパーソナリティとパーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期のパーソナリティと適応 3【OldestOldと社会関係】
- 第14回 老年期の心理的問題【うつ、認知症など】
- 第15回 まとめとして - 適応と要求水準【個人と社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

老年心理学 【昼】

キーワード /Keywords

生理心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 麦島 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生理心理学における基礎的専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	生理心理学の視点から諸問題を捉え、分析できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生理心理学的観点から人間の諸問題に問題意識をもち、主体的な学習ができる。	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生理心理学

PSY241M

授業の概要 /Course Description

心理学が研究対象とする知覚・認知・学習・情動・こころの不調などを理解するには、脳を中心とする身体のはたらきとの関係を検討することも意義が大きい。とくに近年、こころに関する神経科学が進展し、心理学が育んできた諸理論がサイエンスの前線として注目されるようになった。この授業ではまず神経科学の基本的知識を講義し、次にこころと脳（身体）との関係を解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。印刷資料を適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

例えば良書としては
○カールソン, N.R. (泰羅雅登 他 監訳) (2013) 神経科学テキスト 脳と行動 丸善出版
○岡田隆 他 (2015) 生理心理学・第2版 サイエンス社
など。
適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生理心理学とは。
- 第2回～第4回 神経細胞の構造と機能。【活動電位・シナプス・神経伝達物質】
- 第5回～第8回 脳の構造と機能。【脳幹・間脳・大脳基底核・大脳辺縁系・大脳新皮質】
- 第9回 感覚・知覚。
- 第10回 意識・覚醒・睡眠。【脳波・事象関連電位】
- 第11回 学習・記憶。
- 第12回 情動・動機。
- 第13～14回 こころの不調。【統合失調症・抑うつ・ADHD・臨床神経心理学】
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後にノートと配付資料を再読して概要を再確認した上で、次回の授業に臨むことが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

高校や教養教育科目などでの生物学・化学の履修状況にかかわらず、分かりやすく解説します。
脳とこころの関係について知りたい人は臆せず受講してください。

生理心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生理心理学を含む神経科学は進展が目覚ましい。授業期間中に重要な発見があれば適宜紹介する。
また、この分野は「総合知」の側面も持っているので、幅広い知識と興味を養っていただきたい。

キーワード /Keywords

脳とこころ

社会意識論 【昼】

担当者名 木下 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

私たちの行動は、現在の状況を整理し、将来を予測する中で目的を自由に設定し、合理的に達成しようとする個人によって行われているように語られ、あるいは逆に、人間は与えられた状況の単なる関数であるかのように語られることもある。しかし、周囲を見渡してみれば、人間はどこまでも自由に行動しているわけでもなく、かといって、個々の属性に従って単に現在のみ生きるわけでもない。行動するその人の生活史や将来への期待、社会的な慣習や歴史といったものとの葛藤とともに内面化された「意識」に基づいて行動しているとも言える。このとき、私たちは個人的なものや捉えられがちな記憶や言語を再度、捉え直さなければならなくなる。同時に、歴史やマス・コミュニケーションといったどこから、誰かから送られてくるだけに見えるものも検討していく必要があるだろう。本講義では、前半で社会意識に関する諸議論について検討し、後半では戦後日本を事例としつつ社会意識の変動を解説していく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.【意識】についていかに語るか
- 2.【記憶】、【歴史】と意識
- 3.【言語】と意識
- 4.【まなざし】と意識
- 5.規範・法・モノ
- 6.【近代化】と意識
- 7.【マス・コミュニケーション】と意識
- 8.【情報社会化】と意識
- 9.【消費社会化】と意識
- 10.生産・消費・環境
- 11.日本における社会意識の歴史（戦後～60年代）
- 12.日本における社会意識の歴史（60年代～70年代）
- 13.日本における社会意識の歴史（70年代半ば～90年代）
- 14.日本における社会意識の歴史（90年代以降）
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験のみ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後課題を共有フォルダに挙げるので、講義の前に課題文をよく読み、講義の後に要約すること。
学習の進め方、学習時間の取り方に関して分からない点がある場合、講義の後に質問を受け付ける。

履修上の注意 /Remarks

社会意識論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会意識論 (英語) 【昼】

担当者名 竹内 美帆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

この授業では、日常生活における幅広いトピックについて考えることを通して、私たちの社会意識（社会生活を考えるための方法）を理解することを目的とする。社会学に関する概念やキーワードを学び、身近な問題や具体的な事象をもとに考えるなかで、私たちの社会がどのように変わったか、どんな問題が残されているかについて考え、話し合い、当たり前だと思っていた事柄を別の角度から見る意識を高め、現代社会を分析するための批判的思考力を身に着ける。授業内では、講義だけではなく、グループディスカッションや学生によるプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングを取り入れながら進めていく。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、授業内でレジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: orientation
Week02: globalization- key ideas and concepts
Week03: history of globalization
Week04: Japan and globalization
Week05: re-organization of contemporary notion-state
Week06: cultural integration
Week07: cultural differentiation or 'globalization'
Week08: global city
Week09: environment
Week10: consumer culture
Week11: international migration
Week12: new inequalities
Week13: new social movements
Week14: individual presentation
Week15: recapitulation

成績評価の方法 /Assessment Method

(講義の70%以上への) 出席・配布資料の読書など準備した上での積極的参加 40%
授業内プレゼンテーション 20%
最終レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、配布資料を読んで、予習とディスカッションのための準備をしておくこと。

社会意識論 (英語) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内の英語の使用については、集まった学生の英語能力などに合わせて対応していく。主に、英語の記事や論文を取り上げるほか、英語でのディスカッションや学生によるプレゼンテーションも行う場合があるが、英語が苦手でも気兼ねせずに受講してもらいたい。授業に関する質問があれば、竹内 (miho_ngs@yahoo.co.jp) まで。

キーワード /Keywords

文化社会学【昼】

担当者名 /Instructor 木下 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化事象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 文化社会学	SOC211M
(比文) 比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉が何を指すか、それ自体がそもそも問題とされるべき事柄である。他から独立して対象とされるべきものであるのか、それとも他に従属的なものとして捉えるべきものなのか。人格を涵養する高級なものと思なされることもあれば、生活様式という広範なものを指すこともある。本講義では、文化がどのように語られてきたのかを解説しつつ、現代文化の分析、現代文化についての諸理論を用いた地域社会や福祉、観光といった領域への応用を相上に載せる。なお、本講義ではサブカルチャーを対象として議論が進められることがある。極力解説を加えるが、馴染みがない対象については積極的に質問することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.【文化】についてどのように語るか
- 2.近代と文化
- 3.【フランクフルト学派】と文化1
- 4.【フランクフルト学派】と文化2
- 5.【文化資本】と【再生産】
- 6.労働者階級の文化
- 7.物語、テキスト、読者
- 8.【ポストモダニティ】と文化
- 9.【カルチュラル・スタディーズ】と現代文化
- 10.【現代文化】 絵画・写真
- 11.【現代文化】 音楽
- 12.【現代文化】 映像
- 13.地域社会、都市と文化
- 14.福祉と文化
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験のみ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後課題を共有フォルダに挙げるので、講義の前に課題文をよく読み、講義の後に要約すること。学習の進め方、学習時間の取り方に関して分からない点がある場合、講義の後に質問を受け付ける。

履修上の注意 /Remarks

文化社会学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論社会学【昼】

担当者名 鈴木 健之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会学における理論史の基礎を学ぶ。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代社会における適切な理論的枠組を用いて、現代事象を分析できるようになる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 常に変動する現代社会を多面的かつ客観的に見るための理論的視野を身につける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

理論社会学

SOC212M

授業の概要 /Course Description

概要：アメリカの主要な社会学理論を取り上げ、講義する。第1部「パーソンズ以前の社会学理論」、第2部「パーソンズ派の社会学理論」、第3部「アンチ・パーソンズ派の社会学理論」、第4部「ポスト・パーソンズ派の社会学理論」という構成で、下記の理論を取り上げていく。

目的・目標：アメリカ社会学の使命は、アメリカにおける<自由で平等な市民の連帯>の「可能性」（同時にその困難さ）を解き明かすことにある。アメリカの社会学理論は、自由で平等な市民の連帯について、原理的な考察を行ってきた。授業では、アメリカの諸社会学理論に学びつつ、21世紀における市民の連帯について、皆さんと一緒に考えていきたい。

教科書 /Textbooks

鈴木健之『社会学者のアメリカ—機能主義からネオ機能主義へ—』恒星社厚生閣1997年（○）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジェフリー・C・アレクサンダー『ネオ機能主義と市民社会』（鈴木健之編訳）恒星社厚生閣1996年（○）

新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣2006年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：アメリカ社会学理論の構造
- 第1部：パーソンズ以前の社会学理論
- 第2回 シカゴ社会学の成立と展開(1) 【シカゴ第一世代】
- 第3回 シカゴ社会学の成立と展開(2) 【シカゴ第二世代】
- 第4回 シカゴ社会学の成立と展開(3) 【シカゴ第三世代】
- 第2部：パーソンズ派の社会学理論
- 第5回 ハーバード社会学の成立と展開(1) 【パーソンズ派】
- 第6回 ハーバード社会学の成立と展開(2) 【マートン・ユーズー】
- 第7回 ハーバード社会学の成立と展開(3) 【パーソンズ・マートン・ダイアログ】
- 第3部：アンチ・パーソンズ派の社会学理論
- 第8回 シカゴ社会学ルネッサンス 【アメリカ社会学の中心】
- 第9回 コロンビア社会学の成立と展開 【マートン派】
- 第10回 バークレー社会学の成立と展開 【スメルサーとベラー】
- 第4部：ポスト・パーソンズ派の社会学理論
- 第11回 歴史・比較社会学の成立と展開 【スコッチポル】
- 第12回 ネオ機能主義社会学の成立と展開 【アレクサンダー】
- 第13回 ミクロ-マクロ・リンク 【ガーフィンケル】
- 第14回 「ポストモダン」以後の社会学理論 【サイドマン】
- 第15回 社会学理論の未来

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・30%、レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義は集中講義で行われる。事前に教科書（拙著『社会学者のアメリカ』）を読んでおくこと。レポート作成に当たっては、事後の文献購読が肝要である。指定された文献を精読すること。

理論社会学【昼】

履修上の注意 /Remarks

適宜、課題を出すので、課題を終えてから、授業に臨むこと。
集中講義であるので、毎回の出席は言うまでもない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

シカゴ社会学、シカゴ第一世代、シカゴ第二世代、シカゴ第三世代、ハーバード社会学、タルコット・パーソンズ、エスノメソドロジー、ハロルド・ガーフィンケル

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育社会学の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育と社会に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育に関する社会事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育社会学

EDU225M

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
 P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
 P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：教育社会学の対象と方法
 - 第3回：子どもの社会化と家族・学校
 - 第4回：学校という組織
 - 第5回：学校社会と生徒文化
 - 第6回：学校社会と教師文化
 - 第7回：文化的再生産論にみる学校社会
 - 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
 - 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
 - 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
 - 第11回：いじめ現象の構造とその特徴
 - 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
 - 第13回：グローバル化と教育
 - 第14回：情報化社会と教育
 - 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

教育社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

情報社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会におけるメディアの重要性について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代に固有のメディアが、社会や個人意識の変化にもたらす影響を、具体的な事例を使いながら分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	メディアと社会の関わりについて、批判的な視点を持つことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報社会論

SOC213M

授業の概要 /Course Description

アメリカ大統領選挙でトランプ氏の勝利を可能にしたのは社会の中心的なメディアがマスメディアからネットワークメディアへと移行したことが最大の要因であるように思われます。トランプ氏の勝利は情報社会の変容の波頭であり、大きな変化の予兆でもあるのではないのでしょうか。そこで、ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。近代化と近代的主体の構築過程を追いながら、現代における主体の変容の必然とその先に予想される新たな連帯の可能性について考えてみたいと思います。また、メディアとしての身体がいかに環境-社会に埋め込まれ、それによって変容を蒙るのか、さらにはそのような状況における能動性の起点としての意味（sense：感覚）についても考えてみたいと思います。また、グローバル化により引き起こされた諸問題について、ジョン・アーリのoffshoringという視角から検討してみようと考えています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）、宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎（2011年7月）、丸山圭三郎『ソーシャルの思想』岩波書店（1981年7月）、大黒岳彦「情報社会の<哲学>」勁草書房（2016年8月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【メディア】について：【身体-主体】の変容をもたらすものとしての【メディア】
- 7回 【身体-主体】の基本的構制：【近代的主体】と【メディア】との関係性
- 8回 【メディア】からみた現代：社会意識の変容
- 9回 【ポスト近代】について：【多様化】する【身体】と【メディア】
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 グローバル化とoffshoring
- 13回 現代社会の諸相を考える+補足：新たな【連帯】のエートスへ向けて
- 14回 補足・討論
- 15回 まとめ

上記予定は、講義日程や講義の理解度に応じて適宜順序を変更する可能性があります。また、補足として映画等を観て、あるいは一定の課題のもとでレポートを書いていただく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...20% 試験...40%

出欠は毎回確認しますので、出欠状況も評価の対象となります。

情報社会論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ビッグデータや人工知能など現代に特徴的な現象についての記事や報道などに関心を向けておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に質問する姿勢で講義に臨んでください。

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の消費行動と社会の関わりについて理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	消費行動を、経済行動に加え社会的な行動として捉え、具体的な事例をもとに分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	消費行動について、批判的な視点を獲得し、行動できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

消費社会論

SOC214M

授業の概要 /Course Description

現代社会における個人と消費行動についての社会学的な理論や分析視点を解説する。そこから、近代社会の共通の問題と、現代社会の特徴について理解するための視点を獲得する。消費行動を多面的な視点からとらえ、現在進行形の社会事象に対して批判的な思考ができるようになる。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じて適時資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会の変遷：「生産」と「消費」
- 2回 生産様式の変容：「フォーディズム」から「ポスト・フォーディズム」へ
- 3回 記号消費：使用価値と交換価値
- 4回 消費文化とアイデンティティ：消費実践と自己再帰性
- 5回 流行現象に関する諸理論
- 6回 「マクドナルド化」論：消費社会の象徴
- 7回 消費社会と「感情労働」
- 8回 消費社会とグローバリゼーション
- 9回 消費社会と「健康」
- 10回 消費社会における「リスク」
- 11回 消費社会における人間関係
- 12回 消費社会と「恋愛」
- 13回 消費社会と「ジェンダー」
- 14回 消費社会と「格差」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の中で行う小レポート20%。期末レポート80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光社会学【昼】

担当者名 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 地域課題の本質を見抜き、観光社会学の視点から分析かつ解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

観光社会学

SOC216M

授業の概要 /Course Description

日本を訪れる外国人の数が約2000万人を超えるまで増加し、観光は日本の重要な産業の一つとなろうとしている。しかしながら現在、観光が注目されているのは産業としてだけではない。観光は私たちのプライドの問題とも大きく関わっている。世界的なグローバル化の進展は、ローカルの価値を活性化させる役割も果たしてきた。現在、観光はグローバルなまなざしによってローカルの価値を再発見する「メディア」になろうとしている。人間は、他者に見られることによって自分とは何かを確認する。観光者に見られることによって、私たちは社会的アイデンティティを獲得している。

このように産業の問題、プライドの問題が関わる日本の観光化は全てが順調なわけではない。観光化による自然破壊、文化破壊、社会的分裂等、観光は社会に矛盾ももたらす。この授業では観光を社会科学の一分野として客観的に捉え、観光を文化創造や社会創造につなげてゆくにはどのようにしたらよいかを考える。

本年は特に、観光客、地元住民等が「参加」する観光について焦点を当て、現代社会における文化消費（特に「リアルの消費」）のあり方、その問題点、そして可能性について考える。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会—観光社会学の理論と応用』（ナカニシヤ出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』（明石書店）
その他、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 観光とは何か（オリエンテーション）
- 2回目 消費社会と観光1—観光と非日常消費
- 3回目 消費社会と観光2—観光と参加、自己承認、コミックマーケットから地下アイドル、音楽フェスまで、体験参加型観光の意味
- 4回目 テーマパーク化する観光地と都市、そしてその変容—ディズニールランド（の変容）、ショッピングモール
- 5回目 観光の歴史—前近代（巡礼、湯治）
- 6回目 観光の歴史—前期近代（大衆観光、産業労働と観光、ナショナリズム）
- 8回目 観光の歴史—後期近代（特化する観光、オタク観光）
- 9回目 北九州市の観光の歴史
- 10回目 観光化と観光の理論—ブーアスティン、マキアーネル、リッツァー
- 11回目 観光地と社会分裂—観光者と観光地住民
- 12回目 映画『ザ・ビーチ』からみる観光者と観光地住民
- 13回目 温泉観光地、由布院について考える—NHKの番組（プロジェクトX）を批判する
- 14回目 観光消費と「虚構」/「現実」—「リアル」へと向かう観光（ダークツーリズム、アートツーリズム、まんが・アニメツーリズム）
- 15回目 参加する観光客及び観光地と共同性の再編成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度20%、レポート80%

観光社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを熟読しておくこと、学習した内容を現実の観光地に当てはめよく考えること

履修上の注意 /Remarks

観光（旅が好きでもよい）、観光文化（ディズニーランド、オタク、アイドルツーリズム等も含む）、観光まちづくりに興味があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

おおいに議論し、語り合おう。

キーワード /Keywords

観光、観光地、観光客、自己承認、ポストモダニズム、メディア、イメージの政治

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 門馬 一平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論

ANT212M

授業の概要 /Course Description

本講義では、さまざまなフィールドからの具体的な報告を紹介しながら、フィールドワークについてのエッセンスを学びます。また、講義の中で受講生と議論しながら「フィールドワークとは何か」についてともに考えたいと思っています。講義をできるだけ双方向性のあるものにするため、常識にとらわれない積極的な発言を推奨します。また、受講生の意見を授業に反映させるため、成績評価に関係しない質問用紙やレポート用紙を配布します。

インターネットであらゆる情報が手にはいる現代において、自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の耳で聞く、その意味とは何か。実際、フィールドワークをおこなうと、インターネットや本とは違い五感で生きた情報に触れることができます。講義では、フィールドワークにおいて得られるこうしたデータの質的な特徴についても考察します。また、内と外、自己と他者、他者と異者、自然と文化など、その「間に立って考える」、ということの可能性を模索します。

フィールドワークを通じて自分自身の身体感覚や身体技能、社会技能が変化するという点にも注目します。ひととの関わりは、社会的な実践とつながり、翻って調査者の暮らし方や生き方を変えます。大学でおこなう調査・研究と社会的な実践・連帯との関連性を、フィールドワークという手法の応用として考えることを達成目標とします。

教科書 /Textbooks

適宜講義中に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』2015 篠原徹
- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝○
- 『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地○
- 『ヤシガラ椀の外へ』2009 ベネディクト・アンダーソン○
- 『右利きのヘビ仮説』2012 細将貴○

その他講義中に適宜紹介します。

フィールドワーク論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN~フィールドワークとは
- 第2講 人はなぜフィールドワークするのか(前編)
- 第3講 人はなぜフィールドワークするのか(後編)
- 第4講 フィールドワークに手法はあるのか(前編)
- 第5講 フィールドワークに手法はあるのか(後編)
- 第6講 さまざまなフィールド-自然・どうぶつ
- 第7講 さまざまなフィールド-ひと
- 第8講 さまざまなフィールド-文化と普遍特性
- 第9講 未知のフィールドに行く
- 第10講 他者を知ること-調査・参与観察
- 第11講 他者を知ること-身体感覚・技法
- 第12講 他者を知ること-分析・比較
- 第13講 フィールドワークの可能性-社会的な実践
- 第14講 フィールドワークの可能性-暮らし方・生き方
- 第15講 まとめ

題目や内容は、理解度にあわせて変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義で紹介する社会活動に参加、本を読んで考える・・・50%
- 講義と実践をふまえてレポートを書く・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
- 授業中に紹介する本を読むことを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学 フィールドワーク 他者理解

環境社会学【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会と環境の相互作用について、人文社会学および自然科学的に専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会と環境の相互作用に関する法則や問題を発見し、理論や解決策を考察する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	健全な環境を支える社会のあり方について主体的に考え、学習していく基盤をつくる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境社会学

ENV250M

授業の概要 /Course Description

自然と人間社会との複雑で深い相互関係について、歴史や民俗、産業や地域コミュニティ、国際文化や文明といった視点から、具体的な事例を用いながら考えていく。各回で出された問いについて、自分なりの考察を行うとともに、自然と人間の関係について重要な課題を発見し、それらを今後とも追求していける力を備えることが目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回で、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマに応じて、そのつど紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 本講義の枠組み
- 2回 農山村社会 1【村落と生業】
- 3回 農山村社会 2【村落の組織】
- 4回 農山村社会 3【村落の観光化】
- 5回 農山村社会 4【文化的景観】
- 6回 資源採取と民俗・産業【松】
- 7回 資源採取と民俗・産業【竹】
- 8回 東アジアの自然・農林業・食 1【中国】
- 9回 東アジアの自然・農林業・食 2【台湾】
- 10回 日本の自然文化の国際化 1【食】
- 11回 日本の自然文化の国際化 2【工芸】
- 12回 森林と文化論・文明論
- 13回 東西の植物伝播史
- 14回 自然を表す日本語 1【語彙】
- 15回 自然を表す日本語 2【和歌】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート...50% 日常の授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布する資料を予習し、また学期を通して、各回で紹介する文献を読み進めること。

環境社会学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然との関係に問題意識を持ち主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境地理学

ENV240M

授業の概要 /Course Description

人間は自然との関わりの中で生きています。「環境」ということばは、普通、人間が関わっている自然を指しており、「環境問題」は人間の自然への関わり方の問題ということができます。したがって、環境問題の正しい理解のためには、人間と自然の関わりについて理解することが必要です。この授業では、人間と自然の関わりについて、「自然の猛威」を通じて考えます。同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。

人間は、豊かで穏やかな自然を安息と感じ、荒れ狂う自然を猛威と感じます。穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みであり、私たちはそのような自然の営みの中で生活していることに思い至ることができればと考えています。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。

人間と自然との関係の基礎的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。

人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。

人間と自然との関係に問題意識を持ち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

ありません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「自然災害を読む」(小島圭二著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の中の私たち 【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている】
- 2回 自然の猛威とはなにか 【私たちは自然の中で生活している】
- 3回 自然の猛威の分類 【自然の猛威にはどのようなものがあるか】
- 4回 地球上の自然の猛威の分布 1 【変動帯】【安定帯】
- 5回 地球上の自然の猛威の分布 2 【地震】【火山噴火】
- 6回 地球上の自然の猛威の分布 3 【熱帯低気圧】【竜巻】
- 7回 疫病 【疫病は激しい恐怖と社会の混乱をもたらした】
- 8回 干ばつと砂漠化 【地球上で最も被害が大きい災害は干ばつである】
- 9回 日本は災害の国 【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやってくる】
- 10回 島原大変 【噴火・地震・崩壊・津波が複合した日本列島の宿命のような災害】
- 11回 火山の巨大噴火 【日本では有史以前には多くの巨大噴火が発生している】
- 12回 火山の噴火と気候変動 【火山噴火と気候変動は文明に大きな影響を与えた】
- 13回 集中豪雨と河川の防災 【近年の治水の方針は以前とは大きく異なっている】
- 14回 巨大地震と津波 【巨大地震は繰り返し発生する】
- 15回 まとめ【自然を正しく理解し、うまく付き合っていく必要がある】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポートまたは小テスト... 20%

人間環境地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付されたプリントをよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然の猛威、災害、防災と減災、自然との共生

生態人類学【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	さまざまな事例をもとに人間の本質についての理解を深める。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の普遍的な特性から諸社会問題を考察する。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体と自然という内と外の環境の相互行為を理解し、人間の社会や文化を考える。	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生態人類学

ANT210M

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は、人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。ほかの人と考えを交換する討論も楽しみましょう。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像

「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャルほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

以下はほんの一部である

- 「生態人類学を学ぶ人のために」 秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎 (編) 世界思想社
- 「イブの7人の娘たち」 ブライアン・サイクス (ヴィレッジブックス)
- 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャル取材班
- 「人間らしさとはなにか？ 人間のユニークさを明かす科学の最前線」 マイケル・S. ガザニガ：インターシフト
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」 フランス・ドゥ・ヴァール：紀伊國屋書店

生態人類学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてきてください。毎回講義の前後にイメージトレーニングし、自分なりに議論の進め方を改善してみましょう。

履修上の注意 /Remarks

ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を意見を発言できること。それは思考をすすめるとてもよい経験になります。難しい事はありません新しい考えが生まれてくる現場を楽しみながら参加して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、多様な他者の価値観を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 進化論的な視点から人間性の獲得に至るプロセスを理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 進化論的な視点から現代社会との相関を考える。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 生物学的な特性に視野をひろげ、人間とはなにかを探究する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間性の進化

ANT211M

授業の概要 /Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について進化人類学の視点から学習し、進化論的な視点から現代社会の出来事について考察する能力を身に付けることを目指します。

人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまに変化します。しかし、ヒトという種を多様な生物のバリエーションのひとつとして見たとき、長い進化の過程で身に着けた、共通する「人間性」があることがわかります。文化や教育を超えた共通する「人間性」を客観的に明らかにすることは簡単なことではありませんが、他の動物との比較、特に類人猿と呼ばれる遺伝的にヒトと近いサルたちの観察によって、これまで大きな発見がもたらされてきました。

授業の前半では、進化論の概論と、類人猿たちを中心とする動物行動学のデータを取り上げ、進化論からみた「人間性」について概論を講義します。後半では進化論を背景として、社会学や人類学における協力や葛藤、正義についてのデータを取り上げ、人間が持つ普遍的な正義や道徳について講義します。

教科書 /Textbooks

指定の教科書はありません。当日に使用するレジュメを配布します。
必要に応じて、理解を深めるために動物行動学や進化に関する映像を用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル.S.ガザニカ(著) 2010『人間らしさとはなにか?』インターシフト
・西田正規(他編) 2003『人間性の起源と進化』昭和堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: インタロダクション
- 2: 人間の脳
- 3: 人間とチンパンジー
- 4: 人間と社会
- 5: 人間の道徳1
- 6: 人間の道徳2
- 7: 人間の情動
- 8: 人間の芸術
- 9: 人間の意識
- 10: 人間の肉体
- 11: 人間と動物
- 12: 人間の男女
- 13: 人間と葛藤
- 14: 人間と葛藤解決
- 15: 学期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート(20%)
学期末試験(80%)

人間性の進化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間性、道徳、協力、心の理論、普遍性

比較表象文化 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	表象を論じるための専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	表象を比較して論じるための専門的な方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	表象の比較を通して文化を見つめなおそうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較表象文化

MCC210M

授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 働きかける声①【言語行為】【語りかける歌】【演説】
- 第3回 働きかける声②【ニュース】
- 第4回 働きかける声③【深夜ラジオ】
- 第5回 発語の重層性①【カタル】【落語】
- 第6回 発語の重層性②【声の身振り】【身体の一部としての声】
- 第7回 発語の重層性③【まくら】
- 第8回 発語の重層性④【ウタウ】【声と人格】
- 第9回 発語の重層性⑤【語り物】
- 第10回 発語の重層性⑥【浪曲】
- 第11回 発語の歴史性①【浪曲(明治・大正)】
- 第12回 発語の歴史性③【浪曲(昭和戦前・戦中)】
- 第13回 発語の歴史性③【浪曲(戦後)】
- 第14回 発語の歴史性③【漫才】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題、授業態度など)…約25% 学期末レポート約75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく
事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。とりあげられた比較の視点がどのように応用できるか考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。

比較表象文化 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の大衆文化についての専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の大衆文化についての専門的な研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の大衆文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の大衆文化について知識を得て考察しようとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の大衆文化

JPS212M

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的現象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして現象の紹介をしていく。本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの現象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 問題発見の焦点①物語論への招待
- 第3回 物語へのアプローチ【ヒットドラマ】
- 第4回 物語へのアプローチ【異人】【構造】
- 第5回 物語へのアプローチ【共同体】
- 第6回 受容へのアプローチ【意味の生産】
- 第7回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第8回 問題発見の焦点②上演空間への招待
- 第9回 上演空間へのアプローチ【祝祭性】
- 第10回 上演空間へのアプローチ【演者/客の関係性】
- 第11回 上演空間へのアプローチ【歌舞伎】
- 第12回 受容へのアプローチ【客という役割】【仮設小屋】【寄席】【劇場】
- 第13回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第14回 特別講義
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...約25%
学期末レポート...約75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知された内容については各自調べておく
事後：コメントシート記述のために講義内容を復習しておく

日本の大衆文化【昼】

履修上の注意 /Remarks

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。見直す中でコメントカードへの記述内容の工夫を繰り返し、意識してほしい。本講義の主眼は、歴史的な事象をとりあげるなかで現在を捉え返すことにある。したがって現代的な事象が中心的にとりあげられるわけではないので、受講者はそれを理解したうえで受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさない、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード /Keywords

メディア、物語、芸、歴史

人体の構造と機能及び疾病【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

医学一般を理解するため、人体の基礎的な解剖、生理を学び臨床医学へと講義を進めてゆく。最後に超高齢化社会に伴い医療と介護、福祉の連携や医事法制や保健医療などを理解してもらう。

教科書 /Textbooks

黒田研二、住居広士著 人体の構造と機能及び疾病、ミネルバ書房 ￥2600

プリントも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長、発達と加齢、老化
2. 器官と臓器：呼吸と循環、身体の仕組み、人体構造
3. 消化器
4. 肝臓、胆嚢、膵臓
5. 皮膚、泌尿器、骨筋肉、内分泌など
6. 生活習慣病：悪性腫瘍、癌など
7. 循環器疾患
8. 脳血管疾患
9. 糖尿病、高脂血症、痛風、メタボリック
10. 感染症
11. 精神障害
12. 神経疾患
13. 骨関節、結合組織
14. 先天性疾患
15. 医療と介護

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 出席があること。全欠席での試験のみは認めない。
2. 期末試験に持ち込みはなし。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

【事前・事後学習の内容】

事前学習：教科書や配付プリント、雑誌など病気・医療に関する理解を深めておくこと。
事後学習：講義中にメモをとるなどし、講義で取り扱う視聴覚教材について復習すること。

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ねテキストに則して進めるので、テキストの該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

社会調査の基礎【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉に関する理論と現場理解を基盤に、地域と対象者の抱える問題の本質を分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 1

SOW260M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域と対象者の抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に主体的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 2

SOW261M

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。また、授業ごとに配布されるレジュメを見直すこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人と環境の相互作用に関する専門知識に加え、相談援助の対象と実践モデルについて理解する。
技能	専門分野のスキル	● 地域で相談援助活動を行っていく上で必要とされる、具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から状況を判断し、個々人が抱える問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 1

SOW262M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士が行う相談援助に関する理論や技術を学ぶ。「人」と「環境」の交互作用という観点から対象を把握し、援助をおこなうソーシャルワークの方法について学ぶ。ソーシャルワークで重視する人と環境との関係性やソーシャルワークが捉えるニーズについて理解する。相談援助のプロセスや、さまざまな実践モデル・アプローチについて学ぶ。また、クライアントとケースワーカーとの援助関係や原則、相談援助で用いる面接技法について、事例やロールプレイなどを用いながら、その技法について理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし。
適宜資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法I』中央法規(最新版を使用する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 相談援助とは何か
- 3回 相談援助技術体系 【ジェネリックソーシャルワーク】【システム理論】
- 4回 相談援助におけるニーズ 【人と環境との交互作用】
- 5回 相談援助の対象 【生活問題】【ミクロ、メゾ、マクロの視点】
- 6回 相談援助の過程 【アセスメント】【プランニング】【インターベンション】【モニタリング】【エバリュエーション】
- 7回 実践モデルとアプローチ 【伝統的モデル】【社会心理的アプローチ】【機能的アプローチ】
- 8回 実践モデルとアプローチ 【問題解決アプローチ】【課題中心アプローチ】【行動変容アプローチ】
- 9回 実践モデルとアプローチ 【生活モデル】【エンパワメント】【ストレングス】
- 10回 相談援助のための援助関係 【バイステックの原則】
- 11回 相談援助のための援助関係 【ラポール】
- 12回 相談援助のための面接技術 【援助者の基本的態度・ロジャーズ】
- 13回 相談援助のための面接技術 【生活場面面接】
- 14回 相談援助のための面接技術 【傾聴】【受容】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験、レポート等の提出物、授業の参加状況等を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習は授業で学んだことの復習をすること。

相談援助の理論と方法 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を望みます。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワーカーがクライアントに対して行う相談、助言・指導・連絡・調整・その他の援助に関する「理論と方法」について学ぶ、相談援助演習や相談援助実習指導、および相談援助実習に関連する重要な科目の一つである。
特に個人から家族・小集団・組織・地域社会というマイクロからメゾ、マクロまでをクライアントシステムとして捉え、理解することを目的とする。
具体的には「相談援助の対象の理解」、「ケース（ケア）マネジメント」、「コーディネーションとネットワーク」、「実践モデルとアプローチ」、「スーパービジョンとコンサルテーション」等についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

中央法規「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 第3版」社会福祉士養成講座編集委員会編
ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編集部編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内にて適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 相談援助の対象の理解
- 第2回 ケア（ケース）マネジメント（1） ケアマネジメントの概念と援助過程
- 第3回 ケア（ケース）マネジメント（2）ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴
- 第4回 ケア（ケース）マネジメント（3）ケアマネジメントの特徴
- 第5回 グループを活用した相談援助
- 第6回 コーディネーションとネットワーク
- 第7回 社会資源の活用・調整・開発
- 第8回 さまざまな実践モデル・アプローチ（1）
- 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ（2）
- 第10回 さまざまな実践モデル・アプローチ（3）
- 第11回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第12回 ケースカンファレンスの技術
- 第13回 相談援助における個人情報保護
- 第14回 ケースカンファレンス（事例検討）（1）
- 第15回 ケースカンファレンス（事例検討）（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70%
講義に対する取り組み・・・20%
課題・・・10%

相談援助の理論と方法 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目単独での学びだけでなく、他の科目との関連性にも留意しながら学習すること
テキストを中心に、多くの相談援助技術に関する書籍にも目を通すこと

履修上の注意 /Remarks

評価は3分の2以上の出席がある者を対象とする
講義開始後30分以内は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとする
また中途の退室も減点の対象とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法 3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相談援助に関する基礎的・専門的知識と技術を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	初任者段階での相談援助の知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	生活問題に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間の暮らしと社会問題の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 3

SOW264M

授業の概要 /Course Description

- 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - ソーシャルワーク・アプローチ（実践モデル）の多様性について学ぶ。
 - 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - 少子高齢化の加速、人口減少社会への突入といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
- 次の6つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワークです。
 - 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行い、地域福祉実践の今日的な位置・役割や課題についての認識を深める。
 - 住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - 地域福祉を進める援助技術の全体像について理解を深める。
 - 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等の資料を必要に応じて（抜粋し）配布・紹介します。
参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保絃章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧岡田知弘「『自治体消滅』論を超えて」、⑨コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」⑩森山彰・小池信行「地域後見の実現」⑪NPO法人ノンラベル・田井みゆき「パスポートは特性理解」。

相談援助の理論と方法 3 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 個別支援と地域支援(1)点から線へ、そして面への展開を考える
- 2回 個別支援と地域支援(2)地域福祉ソーシャルワーカーが行う個別支援の基本を考える
- 3回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(1)基本的視座と機能を考える
- 4回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(2)コミュニティアセスメントと社会資源開発を考える
- 5回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(3)地域づくりによる介護予防を考える
- 6回 地域福祉ソーシャルワーカー実践事例の解説【無縁社会の克服と社会的孤立の解消】
- 7回 地域包括支援体制の確立と中間支援組織のあり方を考える・・・地域福祉活動計画から
- 8回 地域福祉の推進主体(1)主体形成を考える
- 9回 地域福祉の推進主体(2)個人情報の共有を考える
- 10回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜を知る
- 11回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の発展と類型を知る
- 12回 コミュニティ・オーガニゼーション(1)原理・原則と理論の問題点、過程を考える
- 13回 コミュニティ・オーガニゼーション(2)合意戦術と専門ワーカーの役割を考える
- 14回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)社会福祉の3元構造論と自治型地域福祉論に学ぶ
- 15回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)住民主体の地域福祉の推進に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。
事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること(特に、黒板に板書した内容)。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。努力します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動(主権者運動・当事者運動)、住民自治、地域分権、主体形成
- 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション、エンパワーメント
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立
統合化、社会変革と政策提言
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基本的考え方等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	ネットワーキング等の具体的な支援技術、問題解決へのコーディネート力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	多面的な視野から地域福祉問題の本質を見抜き、その解決策を提案する力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	生涯にわたり、地域福祉活動に積極的に取り組む姿勢を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法 1

SOW210M

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程 1【セツルメント運動、シーポーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程 2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 日常の授業への取り組み20% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基礎的・専門的な理解ができる。
技能	専門分野のスキル	●	地域福祉の援助方法について理解ができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域福祉の諸課題を分析し、解決のための方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切な方法で表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域福祉の諸課題を自らの生活に引き付けて理解し、継続して学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法2

SOW211M

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的な福祉サービスだけでは要支援者を支援することは困難となっています。授業では、パワーポイント・DVD・配布資料を使用して、地域福祉に関わる機関、団体、人材状況などを把握し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、講義の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。
栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードできます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 第 1 回 オリエンテーション 【傾聴】 【自己覚知】
- 第 2 回 地域福祉の推進機関 【社会福祉協議会】 【地域包括支援センター】 【共同募金会】
- 第 3 回 地域福祉の人材1 【自治会】 【民生委員】 【福祉委員】
- 第 4 回 地域福祉の人材2 【ソーシャルワーカー】 【NPO】 【ボランティア】
- 第 5 回 孤立死防止対策 【孤立死】 【ネットワーク】
- 第 6 回 認知症支援 【認知症サポーター】
- 第 7 回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり 【災害ボランティア】 【生活支援相談員】
- 第 8 回 権利擁護 【日常生活自立支援事業】 【成年後見制度】
- 第 9 回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討 【相談援助】 【他職種連携】
- 第 10 回 集合住宅及び集落における支え合い 【住民参加型サービス】 【住民主体】 【介護予防】
- 第 11 回 ソーシャルワークの方法 【タスクゴール・プロセスゴール・リレーションシップゴール】
- 第 12 回 事例検討①
- 第 13 回 事例検討②
- 第 14 回 地域福祉計画の実際 【地域福祉計画】 【地域福祉活動計画】
- 第 15 回 福祉教育の考え方と推進方法 【社会福祉推進校】 【体験学習】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、 期末試験(レポート)... 70%

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：キーワードについて理解を深めておいてください

事後学習：興味関心を持った授業内容について参考書、福祉関係雑誌、新聞などでさらに調べてみてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉に関わる機関、団体、人材、地域行事などを調べておくと、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーカー

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスのあり方は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、社会保障費の増加や社会福祉従事者の増加は、日本が築いてきた社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の問題等、規制改革とともに新たな福祉経営がもたらされる時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に信頼が築ける施設経営が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の地域福祉及び福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利理解
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、事後学習としてテキストの振り返りが大切です。

福祉サービスの組織と経営【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。
担当教員は福祉施設の施設長(社会福祉士・主任介護支援専門員)ですが、その立場から経営論を市民、地域、行政、関連事業者のニーズを踏まえて論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題（20点）+ 期末試験（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険（年金、医療、介護、雇用）について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

社会保障【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論 1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度 1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2017年版
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2017年版
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、戦後の障がい者福祉施策を俯瞰しながら地域生活、施設利用などでの問題を取り上げ、以下の点について吟味する。

- ①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|----------------------------|
| 1回 | 受講上の諸注意と総論 | |
| 2回 | 障害者施策の現状と課題① | 【自立とは何か】 |
| 3回 | 障害者施策の現状と課題② | 【障害者総合支援法の概要と課題】 |
| 4回 | 障害者施策の現状と課題③ | 【地域生活】 |
| 5回 | 障害者施策の現状と課題④ | 【ケアマネジメント】 |
| 6回 | 権利擁護システム① | 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】 |
| 7回 | 権利擁護システム② | 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】 |
| 8回 | 障害者福祉実践の到達点と課題① | 【就労支援】 |
| 9回 | 障害者福祉実践の到達点と課題② | 【生活支援】 |
| 10回 | 障害者福祉実践の到達点と課題③ | 【家族支援】 |
| 11回 | 障害者福祉のこれから① | 【障害者介護】 |
| 12回 | 障害者福祉のこれから② | 【施設解体】 |
| 13回 | 障害者福祉のこれから③ | 【地域生活支援】 |
| 14回 | 障害者福祉のこれから④ | 【恋愛・性の支援】 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、障がいのある人の生活実態について理解を深めること。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

履修上の注意 /Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自立、地域生活、施設生活、恋愛と性、生命倫理

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	児童や家庭に関わる諸課題を的確に捉え考察し、対応策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	SOW223M
-----------------------	---------

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実感が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童福祉に関する法律、施設・機関 【児童福祉六法】【児童相談所】【福祉事務所】【児童家庭支援センター】
- 第3回 ひとり親家庭と母子生活支援施設 【母子及び寡婦福祉法】【父子家庭】【母子自立支援員】
- 第4回 DV防止法 【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第5回 乳児院と児童養護施設 【グループホーム】【ファミリーホーム】
- 第6回 里親制度 【養育里親】【専門里親】【自立援助ホーム】
- 第7回 児童自立支援施設と少年非行 【家庭裁判所】【児童相談所】
- 第8回 少年犯罪と厳罰化 【少年院】【少年法】【少年鑑別所】
- 第9回 児童虐待防止法 【虐待の早期発見】【通告】【マルトリートメント】
- 第10回 障害児の福祉 【重症心身障害】【発達障害】
- 第11回 母子保健 【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】【母体保護法】【出生前診断】
- 第12回 保育所と幼稚園 【幼保二元化】【認定子ども園】【多様な保育ニーズ】【待機児童】【夜間保育所】
- 第13回 児童健全育成と児童厚生施設 【児童遊園】【児童館】【学童保育】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法 【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（授業への参加度、提出物など）... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業中に配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

参考文献『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

担当者名 /Instructor 大西 清文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

- 1) 今日の日本が抱える大きな問題、「貧困」。その当事者である人々が必要としているものは、貧困から脱するための様々な支援施策や支援活動はもとより、その制度や活動に適切につなげてくれる相談者・支援者である。日本では、その人材を養成する仕組みとして、福祉系国家資格の社会福祉士がある。
- 2) 本講座では、社会福祉士カリキュラム「低所得者に対する支援と生活保護制度」に則しながら、低所得者支援、生活保護、困窮者自立支援などの制度を学んでいく。
- 3) 特に、生活保護は、社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットであり、ケースワーカーはもとより、福祉施設職員、病院ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解を求められる制度である。
- 4) さらに実際の現場では、「人と人の関わり」から制度活用が始まるので、困窮者や各支援者等の思いや考えの尊重した上で、援助展開を図らなければならない。そこで本講義では、厚生労働省監修ケース事例や各自が考えた想定事例等を活用し、当事者・支援者の様々な立ち位置の人間の気持ちの思い慮りながら援助展開を検討するグループワーク学習を行い、福祉に携わる人としての気持ちの醸成を図っていく。

教科書 /Textbooks

生活保護のてびき 平成29年度版（第一法規）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士試験対策として
- ・低所得者に対する支援と生活保護制度（久美出版・中央法規・弘文堂・みらい他）
- 貧困問題の理解を深めるために
- ・絆を伝えるソーシャルワーク入門-社会福祉・児童家庭福祉・相談援助のサブテキスト（宮武 正明著 大空社）
 - ・子どもの貧困-貧困の連鎖と学習支援（宮武 正明著 大空社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 学習ガイダンス～自分と貧困・低所得者問題の関係を見つめなおすために
- 2 貧困を考える～低所得者支援に関わる人々の諸相
- 3 公的扶助の歴史（イギリス他）と欧米の福祉国家
- 4 公的扶助の歴史（日本）と今日の行政施策
- 5 生活保護制度の原理・原則～各自治体の「生活保護のしおり」から
- 6 低所得者・貧困層への相談援助活動～困窮者自立支援法に基づく取り組み
- 7 生活保護制度の現状（機関と実施体制・動向と課題等）～厚労省、各自治体の制度・統計資料をみながら
- 8 自立を捉える～個別作成による想定事例の検討から捉える自立障壁と支援の実相
- 9 生活保護基準・種類と費用・被保護者の権利義務・援助活動～厚労省監修のケース事例を通して
- 10 世帯類型(母子世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 11 世帯類型(高齢者世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 12 世帯類型(障害・傷病者世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 13 世帯類型(その他世帯)を通して学ぶ生活保護制度（厚労省監修ケース事例による）
- 14 グループワークによるケース検討①～当事者の課題に焦点を当てた検討
- 15 グループワークによるケース検討②～①の課題に対応する支援の取り組みとまとめ

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート（想定事例制作と検討）40%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 生活保護や低所得者支援に関するニュース報道を読んでおくこと。※世論を知ることが、学習の視点を豊かにします。
他の社会福祉に関する既学習内容を見直しておくこと。※本講義との関連性が高いので理解が深まります。
事後学習 授業で説明した支援ポイントや専門用語の整理と理解。※あとに続く授業と社会福祉士試験に生かします。

履修上の注意 /Remarks

レジメ等の配布資料のバインドを確実に持ち参ってください。参考資料として、必要の都度にご利用します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メッセージを二つ。
一つ目は、身近な感覚が持ちにくい低所得者支援や生活保護制度ですが、実は、皆さんの真上・真後・真横の問題です。
二つ目は、「貧困解決に向けての学び」の土台は、皆さんの貧困問題への感情や感性です。
この二つの上に立って、「低所得者に対する支援と生活保護制度」の学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 保健医療サービスに関する専門知識に加え、生活に関わる福祉の専門知識について、総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 保健医療サービスに関する理論と現場理解を基盤に、課題解決に取り組む力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

保健医療サービス

SOW230M

授業の概要 /Course Description

医療保障には診療報酬などを含む医療保険制度としての政策と医療専門職養成を含む医療保障制度を実施する医療機関や医師、看護師等の専門職の役割などがあります。これらを含む保健医療サービスについて多職種との連携や協働も視野に入れて講義を進める予定。これにより、学生は相談援助に必要な医療保険制度について説明することができる。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「保健医療サービス(第3版)」(社会福祉士シリーズ17)弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の内容、進め方、医療保障の位置づけ
- 第2回 医療保障制度の歴史1(昭和20年まで)
- 第3回 医療保障制度の歴史2(昭和20年以降)
- 第4回 医療保険制度の保険者
- 第5回 保健医療対策の概要
- 第6回 診療報酬制度、高額療養費制度等
- 第7回 専門職の役割1(医師の役割 特別講師を予定)
- 第8回 専門職の役割2(保健師、看護師の役割 特別講師を予定)
- 第9回 医師、保健師、看護師等専門職との連携(特別講師を予定)
- 第10回 専門職の役割3(作業療法士、理学療法士等の役割 特別講師を予定)
- 第11回 専門職の役割4(医療ソーシャルワーカーの役割)
- 第12回 インフォームドコンセントの意義と実際
- 第13回 医療施設の概要
- 第14回 地域の社会資源との連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポートなど 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

保健医療サービス【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	権利擁護の取り組みに関する関心を高め、成年後見制度と日常生活自立支援事業に取り組むための問題解決能力を形成する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業を活用することで、権利擁護が具体化できることに関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

権利擁護と成年後見制度

SOW250M

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

権利擁護と成年後見制度 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート（30%）および筆記試験（70%）を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、権利とは何かについて問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な成年後見制度のあり方と、権利擁護のために働く専門職について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権、権利条約

相談援助演習 1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	相談援助に関する知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	相談内容に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自分の考えをお互いに伝えあう力を養う。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	自分の考えを丁寧な表現で伝える方法を身に付ける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 1

SOW285M

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
特に相談援助の対象となる人々への接近方法について、体験的に考察を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 相談援助の仕事に求められる生活問題認識 - その重層性と社会性について
- 3回 対象者理解の方法について
- 4回 自己覚知方法
- 5回 基本的なコミュニケーション技術の習得①
- 6回 基本的なコミュニケーション技術の習得②
- 7回 基本的な面接技術の習得
- 8回 ソーシャルケースワークとカウンセリング
- 9回 ソーシャルケースワーク<児童相談所>
- 10回 ソーシャルケースワーク<福祉事務所>
- 11回 ハンディキャップオリエンテーリングによる擬似的障害体験と障害理解への接近
- 12回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助
- 13回 高齢者体験
- 14回 食事介助を考える
- 15回 まとめ - 実技的取り組みを理論化するための討議

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・態度 ... 30%、 レポート ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、相談援助に関する問題関心を広げておくこと。
事後学習は講義内容を中心として対象者の生活実態について理解を深め、援助される側の思いや具体的な状況について考察を深めること。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉に関する新聞やテレビなどでの報道にも留意して、対象者の現状を知るための努力をしてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相談援助演習 1 【昼】

キーワード /Keywords

生活困難、生活問題、援助技術

相談援助演習 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	対象者理解を深めるための知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	相談内容に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	対象者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者の考えを理解するためのコミュニケーション力を身に付ける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 2

SOW266M

授業の概要 /Course Description

相談支援に関して学びつつある机上の理論を、擬似的・限定的な制約はあるものの、実技を中心的に取り入れた授業展開によって、学生が持つ相談支援に関するイメージを問い返していく契機とする。ハンディキャップオリエンティングや、ロールプレイなどの体験的学習を通して、“支援”すること、されること、更には受容や共感の意味を問い、対象者理解とともに自己を認識・覚知していけるような取り組みを行っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『社会福祉援助技術とは何か』伊藤淑子著 一橋出版
『ロールプレイとスーパービジョン』氏原寛著 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会福祉方法論の検討
- 3回 社会福祉の方法と援助の技術
- 4回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助①
- 5回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助②
- 6回 ブラインドウォークと車椅子での移動に関する援助③
- 7回 実技的取り組みを理論化するための討議
- 8回 学生同士の食事介助①
- 9回 学生同士の食事介助②
- 10回 実技的取り組みを理論化するための討議
- 11回 ベッド上の体位転換①
- 12回 ベッド上の体位転換②
- 13回 実技的取り組みを理論化するための討議
- 14回 対象者理解について
- 15回 まとめの講義

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 70% 報告・発言・参加態度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料等に目を通し、相談援助に関する問題関心を広げておくこと。
事後学習は講義内容を中心として対象者の生活実態について理解を深め、援助される側の思いや具体的な状況について考察を深めること。

履修上の注意 /Remarks

各回での疑似的体験を自分なりに理論的に整理して次の授業に参加すること

相談援助演習 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対象者理解

相談援助演習 3 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識と技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 相談内容から援助課題を明らかにするために、課題の分析・解決に資する知識と技術を修得する。
	プレゼンテーション力	● 相談内容に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 対象者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者の考えを理解するためのコミュニケーション力を身に付ける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 3

SOW360M

授業の概要 /Course Description

[授業の目的・ねらい]

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入つつ社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[授業全体の内容の概要]

個別指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（面接の技法やロールプレーイング等）を中心として取り組む。特に、多様な面接の技法や相談援助の方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

対象者の生活困難場面に遭遇する相談援助実習では、社会福祉士である相談支援者が行なう様々な援助を目の当たりにする。援助の技法や意味、有効性などを事前に知ること、専門的知識と技術を統一的に把握することを課題とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 面接相談の技法とインテーク面接
- 2 アセスメント、プランニングと支援の実施
- 3 モニタリングと効果測定
- 4 終結とアフターケア
- 5 ワーカー・クライアント関係
- 6 専門職の倫理と倫理綱領
- 7 困難事例① <生活問題の重層性>
- 8 困難事例② <意思決定>
- 9 社会資源とは何か
- 10 社会資源の活用方法
- 11 ロールプレイ① アルコール依存症患者とMSW
- 12 ロールプレイ② 生活保護申請者と生活保護担当ケースワーカー
- 13 ロールプレイ③ 虐待加害者（母親）と児童相談所ケースワーカー
- 14 ロールプレイ④ 障害のある人とピアカウンセラー
- 15 援助技法に関する講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容、参加意欲・態度、レポート提出を総合的に評価する

相談援助演習 3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は面接相談やワーカー・クライアント関係について理解を深めるために事例集などの文献・資料に目を通し、相談援助技術に関する具体的知識を身につけておくこと。

事後学習は演習内容を中心として対象者の生活実態について理解を深め、援助される側の思いや具体的な状況について考察を深めること。

履修上の注意 /Remarks

ロールプレイについては学生間の事前の打ち合わせや学習に重点を置いて取り組むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

面接相談の技法、ワーカー・クライアント関係、ロールプレイ

相談援助演習 4 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉援助技術に関する実践技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導くことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 課題達成に向けた積極的取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 4

SOW361M

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士の相談援助に係る知識や技術を実践的に習得する。児童虐待や家庭内暴力や危機的状況にある相談事例などを活用する。個人や家族への介入、集団や地域への介入方法など具体的な援助場面を想定した実技指導によって、総合的・包括的な援助方法を習得する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

保田井進他編著『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション グループ・プロジェクトの進め方と編成
2回	問題プロフィールにもとづく問題の明確化とアセスメント、介入の場、次元の選択【システムアプローチ】
3回	①援助過程-インテークとケースの課題【生活モデル】
4回～12回	②援助過程、実践の段階 個人への介入【ケースワーク】【ケースワークの原則】 ライフヒストリーと危機への対応【コンピテンス】【ナラティブアプローチ】【危機理論】 家族への介入【ファミリーケースワーク】【家族療法】【エコマップ】 集団への介入【グループワーク】【グループワークの原則】 当事者グループへの支援【セルフヘルプ】【エンパワメント】【アドボカシー】 地域への介入【コミュニティワーク】【ネットワーク】
13回～14回	③援助過程、終結の段階 【ソーシャルサポートネットワーク】 グループレポート提出と発表の準備
15回	振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度 50%、提出課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業中に配布したプリントをもとに授業内容を振り返っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

限定された時間内でのグループ学習になるので、授業中にまとめられない場合は、グループメンバーと自主学習において補っておくこと。

相談援助演習 4 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉援助技術に関する実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導くことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 課題達成に向けた積極的取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 5

SOW480M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について、専門的援助技術として概念化し、理論化して体系だてていくことができる能力を涵養する。相談援助実習を通じた個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように指導する。

教科書 /Textbooks

特になし
レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 実習の振り返りとグループディスカッション
- 3回 実習と関連付けたキーワード、理論についての検討
- 4回～9回 実習の振り返りと報告
- 10回～14回 実習と関連づけたキーワード、理論についての発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度 60%、提出課題 20% 発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、実習と関連付けられる社会福祉の理論やキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で取り上げたキーワードや社会福祉の理論について振り返っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え、問題解決のためのプロセスを検討することができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 実習課題について、積極的に課題設定ができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目的意識的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 1

SOW380M

授業の概要 /Course Description

教科で学んだことが実践の場における実践技法や援助業務として統合されていくかを課題とし、①事前学習や見学実習を通して、社会福祉士として仕事をするうえで必要な専門知識、専門技術及び関連知識の内容の理解を深める。②専門知識や専門技術を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を習得できるようにする。③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。④具体的な体験や援助活動を専門的技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。⑤関連分野の専門職との連携の在り方及び具体的内容を理解する。

教科書 /Textbooks

「社会福祉実習の手引き」(人間関係学科用として独自に作成)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、2回 オリエンテーション
- 3、4回 実習前の準備・計画
- 5、6回 実習対象となる社会福祉施設に関する学習
- 7、8回 実習(学習)課題の設定
- 9、10回 見学実習(1日・8時間)
- 11、12回 見学実習(1日・8時間)
- 13、14回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点①
- 15、16回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点②
- 17、18回 実習生調書の作成
- 19、20回 実習計画の作成
- 21、22回 実習先に関する学習・報告
- 23、24回 実習先に関する学習・報告
- 25、26回 見学実習報告
- 27、28回 実習課題の明確化
- 29、30回 実習書類整備、確認および社会福祉施設・機関での打ち合わせの確認

成績評価の方法 /Assessment Method

現場実習に向けた各回の取組内容 ... 60% 、 レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は各種社会福祉施設・機関の体系や現状について法制度、政府資料等を中心に調べておくこと。事後学習は「社会福祉実習の手引き」を精読し、実習内容について理解を深めること。

相談援助実習指導 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習に取り組むための諸手続きを含めて、毎回、具体的な事項を伝えていくので、出席は重視する。また見学実習は福岡県介護福祉士会の企画を利用するなどして、実際に施設へ訪問するので、受入施設の指示に沿って取り組むこととなる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 2 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	相談援助に関する実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	実習課題について、積極的に課題達成に向けた取り組みができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 2

SOW381M

授業の概要 /Course Description

社会福祉援助技術現場実習 2 は、社会福祉行政機関や社会福祉施設等で行う実習である。実習の目的は社会福祉行政機関や社会福祉施設における全般的な業務を理解することである。配属実習の振り返りを通して、相談援助に関する知識と技術について習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理など、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

特になし。
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士国家試験問題過去問、専門科目編』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回	オリエンテーション、実習施設の種類に応じたグループ分け
2 回	社会福祉士の活動と社会福祉士の活動分野
3 回	社会福祉士の倫理綱領
4 回	社会福祉士国家試験問題
5 回～11 回	実習の振り返りと発表
12 回	実習の評価と全体の総括
13 回～14 回	社会福祉士の仕事と専門性(外部講師)
15 回	社会福祉士国家試験受験対策等

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 60% レポート... 20% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、事前に指示した内容について調べておくこと。
事後学習としては、授業の内容について振り返りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

福祉専門職としての資質や実習の心構えを確認するという意味で、出席状況や授業中の態度を重視します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 6単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識および実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導き出すことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実習課題について、積極的に課題達成に向けた取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して課題解決のための行動を起こすことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習

SOW382M

授業の概要 /Course Description

[相談援助実習の目的・ねらい]

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[相談援助実習全体の内容の概要]

①利用者、援助者、関係者間の基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係およびに援助関係を学ぶ。また、②権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価方法を会得する。

[相談援助修了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉現場での実習は、理論と思考を現実的に吟味できる唯一の機会である。社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解。組織の一員としての役割と責任への理解。そして何よりも対象者への責務を実感として肌身に感じ、これまでの学習の到達度と、今後の学習課題を確認することを課題とする。

教科書 /Textbooks

「実習の手引き」（人間関係学科用に独自に作成）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

[実習における学習視点と目標]

- 1 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2 利用者理解と福祉的ニーズの把握及び支援計画の作成
- 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- 6 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- 8 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- 9 問題解決や疾病・障害の受容などによって利用者が変わりうるという発達の理解
- 10 記録や書類の作成・整理などの土台の上に素晴らしい相談援助が築かれるという認識の確立

成績評価の方法 /Assessment Method

実習意欲・態度、遅刻・欠席の有無、日誌の記述内容、実習評価、その他提出物の状況などを総合して評価する

相談援助実習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、各自が実習に取り組む施設・機関の状況について詳細に把握すること。事後学習としては実習体験をもとに相談援助とは何か、専門職の役割、施設・機関の役割と意義について考察する。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設・機関や社会福祉サービスの利用者に関する情報を集めること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンパワーメント、職業倫理、社会資源、社会福祉士、相互連携、アウトリーチ、ネットワークキング

心理学研究法 【昼】

担当者名 /Instructor 原口 雅浩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 様々な心理学領域における方法論の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理学の研究法についての実践的技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理学における様々な研究法を実践の場で活用できる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	● 他者と協力してどのような研究手法が適切か検討することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学研究法

PSY243M

授業の概要 /Course Description

心理学が実験科学として確立するためには科学的方法論を獲得する必要がある。
本講義では人間のこころを科学的に研究するさまざまな心理学領域における方法論を学び、心理学的な知識について理解を深めることを目標とする。
さらに、簡単な実験、観察、調査・検査、面接を行い、そのデータの分析を行う。

教科書 /Textbooks

高野 陽太郎・岡隆（編）『心理学研究法-心を見つめる科学のまなざし』 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西口利文・松浦 均（編）『心理学実験法・レポートの書き方』 ナカニシヤ出版
小塩真司・西口利文（編）『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版
松浦 均・西口利文（編）『観察法・調査的面接法の進め方』 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 心理学研究法とはなにか【心理学研究法】
- 2回 実験と観察、実証の手続き【実験】，【観察】，【実証】
- 3回 独立変数の操作【独立変数】，【純化・多重操作】
- 4回 独立変数の操作2【インバクト】，【妥当性】
- 5回 従属変数の測定【従属変数】
- 6回 剰余変数の統制1【剰余変数】，【無作為配分】
- 7回 観察法【時間見本法】
- 8回 観察法【事象見本法】
- 9回 検査法【尺度】
- 10回 検査法【信頼性】
- 11回 検査法【妥当性】
- 12回 調査法【抽出】
- 13回 面接法【調査的面接】
- 14回 面接法【テキストマイニング】
- 15回 まとめ【心理学研究法】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小課題：60%
学期末のレポート：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：実験・検査・観察・面接のデータの入力・分析
事後：分散分析の課題を課すので、それをやってくる

心理学研究法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

心理学実験および心理統計を受講しておくとう理解しやすい。
実験・検査・観察・面接の簡単な実習を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実験・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間関係の諸問題を分析・検討するための心理学研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間関係の諸問題を心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習Ⅱ

PSY281M

授業の概要 /Course Description

心理学の研究法である実験・調査・観察の具体的方法を学ぶ。
心理学の研究法である心理査定、面接法等の具体的方法を学ぶ。
到達目標は以下の通りである。
・心理学研究法に関する専門的知識を修得し、実際に使用することができる。
・心理学研究法によって、心理現象を分析・検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(実験実習の進め方、認定心理士について)
- 2回 対人認知-性格特性リストから判断される他者の特性【t検定】
- 3回 自己意識-20答法の分類【 χ^2 検定】
- 4回 同調行動-他者の判断が錯視図形の知覚に与える影響【相関係数】
- 5回 集団間行動-内集団バイアスの実験【t検定】【分散分析】
- 6回 質問紙法の実践(1)-質問項目の選定【妥当性】
- 7回 質問紙法の実践(2)-データの集計と分析【信頼性】【 α 係数】
- 8回 質問紙法による心理査定。【YG性格検査】【STAI】
- 9回 投影法による心理査定。【P-Fスタディ】
- 10回 知能検査による心理査定。【知能指数】【知能偏差値】
- 11回 箱庭療法による心理面接。【ラポール】【クライエント】【カウンセラー】
- 12回 催眠法による心理面接。【後倒法】【変性意識状態】
- 13回 心理面接における行動観察。【ノンバーバル行動】【行動評定】
- 14回~15回 まとめ(実験実習を体験しての集団討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、実験実習の結果をレポートとしてまとめる。

履修上の注意 /Remarks

前もって「心理学実験実習Ⅰ」並びに「心理統計」を受講しておくことが望ましいです。
授業終了後は、指定された課題(レポート作成)に取り組むことを通して、実施した実験実習の内容についての理解を深めること。

心理学実験実習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育制度論

EDU227M

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育制度論 【昼】

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育課程についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理解
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 人の国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育課程論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育原理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教職論

EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

教職論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どものコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 道徳教育実践の主体としての教師 - 道徳は教えられるか?
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の花」となる生活を創造する
12. 「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、期末試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習・社会教育に関する専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として発見できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習・社会教育の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習学

EDU220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

生涯学習学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

主体形成論【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の主体形成についての専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として解決できる方策を分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	主体形成の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

主体形成論

EDU221M

授業の概要 /Course Description

急速な社会変化、そして生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。

本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。

こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1~4巻、山田定市監修、北樹出版
- 末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- 1回 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み
- 2回 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える
- 3回 消費者学習と主体形成
- 4回 自然環境と主体形成
- 5回 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習
- 6回 持続可能な社会と主体形成
- 7回 ジェンダーと主体形成
- 8回 男女共同参画と男女平等
- 9回 人権と主体形成
- 10回 平和と主体形成
- 11回 子どもと主体形成
- 12回 子育てと主体形成
- 13回 NPOと主体形成
- 14回 地域づくりと主体形成
- 15回 エンパワーメントの支援

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

主体形成論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1学期科目の生涯学習学とあわせて受講すると内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	●	教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	●	多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

教育相談 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題（外部講師 北九州ダルク施設長）
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの“view”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の“view”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生徒指導の目的、生徒指導の3機能、生徒指導の三つの局面などに関する基本的な知見を獲得している。
技能	専門分野のスキル	● 様々な課題を持つ生徒の感情やニーズを適切に捉えた対話や指導に必要な基本的なスキルを修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● いじめ、学級崩壊など、学校現場で表出されてくる問題事象を総合的に分析し、その取り組みの方針を立案する力の基礎を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの人権を尊重する態度を基盤にして、生徒に積極的に関わり、信頼関係を築いていこうとする意欲を持っている。
	生涯学習力	● 学校現場で日々生じてくる生徒との関わりや問題から学びと気づきを得、自分自身の実践力を高め続ける努力を行っている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生徒・進路指導論

EDU261M

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

生徒・進路指導論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
 なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
 授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
 できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

次世代育成論 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	次世代育成について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	次世代育成の課題について解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	次世代育成について主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

次世代育成論

EDU226M

授業の概要 /Course Description

本講義では、子どもに対する教育活動を中心に、次の2つのことを柱にして授業を進めます。

①少子化社会や次世代育成について

②それぞれの発達段階における子どもたちの自立のプロセスを支援する地域活動、地域教育のあり方について実践事例・報告を手がかりにしながらか検討する。

こうしたことを踏まえて、子ども自身の活動や、子どもに関わる大人や地域・社会の課題や可能性について考えます。学外講師を招いて、実際の活動の状況や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 少子化の現状と次世代育成の課題
- 2回 小学校に見る子どもの現状と課題
- 3回 中学校に見る子どもの現状と課題
- 4回 今日の子育ての危機と子育て支援、子育て共同、子育てネットワークの課題
- 5回 諸外国における少子化対策
- 6回 共同保育所にみる子どもの成長と関わり
- 7回 障がいを持つ親子の居場所づくりの実践
- 8回 プレーパーク(冒険遊び場)
- 9回 子ども劇場、親子劇場
- 10回 子育て支援の現状と課題
- 11回 地域と子ども・子育て—NPO活動
- 12回 子ども会やPTA
- 13回 メディアと子ども
- 14回 諸外国の子ども活動の取り組み
- 15回 子ども活動と子どもの権利の保障

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

毎回取り上げるテーマが異なるので、子どもや子育ての実情について理解を深めながら、関連する情報の整理を行い授業時のレポートに反映させて下さい。

次世代育成論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会教育計画論【昼】

担当者名 /Instructor 太田 華奈 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会教育計画についての専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 社会の課題に対して、社会教育の課題として分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 社会教育計画の視点から主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会教育計画論

EDU222M

授業の概要 /Course Description

社会教育計画のあり方について学習し、探求していくことをねらいとしています。

社会教育はカリキュラムが一律にあるものではありません。そのため社会教育主事等職員には、住民の課題やニーズ、地域の個性、地域や社会の課題等との関係から、社会教育のあり方を考えていくことが求められます。これらを踏まえて社会教育計画を立案していくためには、社会教育の理念と役割、学習者の支援、住民の生活実態、ニーズ、地域の歴史や個性、地域課題を把握しようとするこの意味について学習し、考えることが大切です。

そのために次の3点に取り組みます。①自治体の社会教育計画を読み込み、考察し、議論し、発表します。②社会教育計画についての基本的な知識を獲得します。③学習で獲得した知識を活用し、グループで話し合いながら、考え、社会教育計画を作成します。

教科書 /Textbooks

特にありません。必要に応じて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 辻浩・片岡了編『自治の力を育む社会教育計画論』（国土社，2014年）
- 末本誠・松田武雄編著『新版 生涯学習と地域社会教育』（春風社，2010年）
- 小林文人・藤岡貞彦編著『生涯学習計画と社会教育の条件整備』（エイデル研究所，1990年）
- 酒匂一雄・千野陽一ほか『生涯学習の方法と計画』（国土社，1994年）
- ・ 社会教育推進全国協議会『第8版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所，2011年）

社会教育計画論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会教育計画論とは何か。社会教育計画論を読む(1)
【グループワーク】
- 第3回 社会教育計画論を読む(2)
【グループレポート発表】
- 第4回 社会教育計画の土台となる思想(1)
【社会教育の理念、社会教育法、社会教育の歴史、社会教育の役割、住民と地域のための社会教育計画】
- 第5回 社会教育計画の土台となる思想(2) 社会教育行政、協働、社会教育の権利
【社会教育行政の役割、協働、社会教育の権利】
- 第6回 社会教育計画のために(1)
【社会教育施設計画、施設の整備と運営】
- 第7回 社会教育計画のために(2)
【社会教育職員の配置、役割、力量形成】
- 第8回 社会教育計画のために(3)
【住民の学習ニーズの把握、実態調査、学習課題、地域課題】
- 第9回 社会教育計画のために(4)
【社会教育事業計画、学習プログラム、予算】
- 第10回 社会教育計画の課題
【社会教育計画の諸課題について、生涯学習計画と社会教育計画】
- 第11回 社会教育計画の作成(1)
【グループワーク。これまでの授業を踏まえ、社会教育事業を計画立案する】
- 第12回 社会教育計画の作成(2)
【グループワーク。これまでの授業を踏まえ、社会教育事業を計画立案する】
- 第13回 社会教育計画の発表(1)
【グループで立案した社会教育計画を発表】
- 第14回 社会教育計画の発表(2)
【グループで立案した社会教育計画を発表】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、グループレポート・発表(2回)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 日々の暮らしの中で疑問に思ったこと、考えたこと等書き留めておくことをお勧めします。
- ・ インターネット等を使って、さまざま自治体の社会計画論、生涯計画論を読んでみてください。
- ・ 授業で取り上げた内容やテーマについて、身近な人たちと議論をしてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習編成論【昼】

担当者名 長尾 秀吉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習の編成について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	生涯学習の課題に対して学習を編成することで解決策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習の編成について主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習編成論

EDU223M

授業の概要 /Course Description

人が何かを学ぶ姿を想起するとき、多くは学校や塾で学習者が指導者に受動的に学ぶ姿を思い浮かべる。だが、これは学習の一形態に過ぎない。人は生活の中で抱えている課題を解決するために、主体的に他者とつながり、相互に学び合っている。子育てに悩む親同士の学び、学校をよくするための学び、持続的な発展と自然環境保全にむけた学び、障害のある人もない人も安心して過ごせる社会をつくる学び、平和に向けた学びなどである。そこでは、学びに参加する誰もが学習の主体であり、学習内容や方法を自分あるいは自分たちでコントロールしている。

生涯学習は、主体性（自己決定）と相互学習を基本原理としており、社会変革をもたらすような非常にダイナミックな学習が繰り返されている。この授業では、こうした生涯学習の過程で人はどう育ち、また学習の成果として人はどのような社会をつくりだすことができるのか、またその学習の編成のポイントとは何かについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・末本誠・松田武雄編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社 2014年 ¥2476 + 税(○)
- ・鈴木敏正『生涯学習の教育学』北樹出版 2014年 ¥2900 + 税
- 長澤成次編『教師教育テキストシリーズ-社会教育-』（学文社、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション	【生涯学習とは何か】
第2回	生涯学習のとらえ方①	【自己管理学習】
第3回	生涯学習のとらえ方②	【意味パースペクティブの変容】
第4回	生涯学習のとらえ方③	【自己決定学習】
第5回	生涯学習のとらえ方④	【自己教育】
第6回	振り返り確認テスト	【1～5回目までの内容確認】
第7回	社会教育とは何か	【日本の社会教育とその特徴】
第8回	社会教育の制度	【社会教育法にもとづく社会教育職員・施設の役割】
第9回	生涯学習と社会教育	【日本における生涯学習の展開と社会教育】
第10回	振り返り確認テスト	【6～9回目までの内容確認】
第11回	子どもと生涯学習	【学校外における子どもの学習】
第12回	高齢者と生涯学習	【文化活動からはじまる地域づくり】
第13回	環境保全と生涯学習	【環境を守り、暮らしを守る】
第14回	社会教育職員の仕事	【学習を編成する視点とは】
第15回	振り返り確認テスト	【1～14回の振り返り】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（80％）、日常の授業への取組（20％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・参考書以外に生涯学習編成の理解に役立つ「山田洋次監督・『学校』シリーズⅠ～Ⅳ」（映画）、「高畑勲・宮崎駿『柳川堀割物語』の視聴を勧める
- ・毎回配布されるプリントを保存し、日常的に復習を行い、確認テストや期末試験に臨むこと

生涯学習編成論【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会活動や地域づくりに関する新聞記事や文献を読むことが望ましい
社会教育施設の講座に体験的に参加し、生涯学習のイメージを広げることが望ましい

キーワード /Keywords

自己教育、学習権

現代社会と社会教育 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 保夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会と社会教育について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	現代社会の課題について社会教育の課題として発見できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	現代社会と社会教育について、主体的に学習することができる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と社会教育

EDU224M

授業の概要 /Course Description

現代社会には、少子高齢化、経済格差の拡大、非正規雇用の増大、社会保障費の急増、教育、人権、環境、国防と平和憲法、国際貢献をはじめとする、さまざまな課題が山積している。

これらの課題を克服し、暮らしやすく生甲斐のある社会を永続的に構築していくために、社会教育はどのように関わり、いかなる役割を担うべきかについて学習し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『市民政治再考』（高島通敏著 岩波ブックレット 2004年 ¥480）
- 『新版 生涯学習と地域社会教育』（末本 誠・松田 武雄 編著 春風社 2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I. 現代社会の現状と課題（1回～5回）
 - 1回 少子高齢化 【人口、少子化、高齢化～社会構造の変化】
 - 2回 格差社会 【経済・社会・教育～格差の拡大再生産】
 - 3回 社会保障費 【年金・生活保護・医療費の急増～財源問題】
 - 4回 男女共同参画【ジェンダー・労働格差・子育て～役割分担】
 - 5回 国際貢献 【環境・原子力発電・自然エネルギー・国連・テロ対策・国防と平和憲法】
- II. 市民（個人）の主体性の確立（6回～10回）
 - 6回 日本国憲法の基本理念
 - 7回 基本的人権
 - 8回 市民社会論
 - 9回 討議デモクラシー
 - 10回 市民力の養成【知識・判断力・実践力……自己実現派市民の育成】
- III. 社会教育の役割（11回～15回）
 - 11回 公民館・市民センターの活動
 - 12回 図書館の役割
 - 13回 地域・コミュニティの活動
 - 14回 生涯学習の重要性
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 小テスト・・・20% レポート・・・30%

現代社会と社会教育 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業にあたっては、新聞(政治・経済・社会面)等をよく読んで、現代社会の問題点を認識すること。
- ・ 授業の理解に有益な読書、情報収集を行うこと。
- ・ 授業終了後には、その回の要点を整理し、自分なりの意見も加えて記録していくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 民主主義 少子高齢化 格差社会 社会保障 男女共同参画 国防と平和憲法 国際貢献 市民の主体性 地域コミュニティ活動 生涯学習と社会教育

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

道德教育指導論【昼】

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	● 教育方法についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育方法についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育方法学

EDU260M

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい教育の方法と技術 2012 篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著) ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回：教育と学習・理論と方法・実践
第3回：授業の歴史（欧米）
第4回：授業の歴史（日本）
第5回：学習の理論・協同的な学び
第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第9回：情報機器・メディア活用の授業
第10回：「学力」について考える
第11回：授業の研究1
第12回：授業の研究2
第13回：教師の専門性・専門職性
第14回：教材研究・教材開発
第15回：まとめ
定期試験
(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいため、事前にテキストを読んでおくこと。

教育方法学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人権教育についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人権教育についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人権教育論

EDU228M

授業の概要 /Course Description

- 人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
- 教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研ぎ、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書 /Textbooks

- 「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造

第1回 「体罰」と人権

- 教育現場の体罰の実態。
- 体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。

第2回 「いじめ問題」と人権①

- 「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、教育内容の創造の道筋を考える。

第3回 「いじめ問題」と人権②

- 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
- いじめ認知調査「レジリエンス」（自己回復力）

第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」

- 「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
- ①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
- 「人権が尊重される授業づくり」「自尊心と学習理解力・人権意識の相関関係」
- 「全国学力テストの結果の分析と課題」

第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。

- 「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」

第6回 ③教育環境、雰囲気づくり

- 「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」

第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。

- 「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
- 「金子みすずの詩と東京大学入試問題」

第8回 個別の人権課題に学ぶ①

- 発達障害と子どもの人権

第9回 個別の人権課題に学ぶ②

- 「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業

第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ

- 一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
- ②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
- 「腑分け」の主人公

第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり（成立）について学ぶ

- 明治時代～大正時代～昭和時代
- 「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」

第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」

- 「竹田の子守唄と少女たちの叫び」

第13回 ○「結婚差別」（2人の若者の遺書）

- 「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。

第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」

- 「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」

第15回 ○同和問題解決への国の施策

- 「同和対策審議会・答申～同和対策事業特別措置法」
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」について
- 法律制定の経緯と意義。
- 部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎時間の「受講票」「定期的な小テスト（レポート）」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
- 「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
- 評価の割合は「テスト」（60%）、「受講票」（20%）、「小テスト（レポート）」（20%）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- この授業科目の単位（2単位、週90分授業）を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
- 基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
- テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
- 「小テスト、レポート（100字以内）」は、事前に予告します。
- 「レポート用紙」は、事前に配布します。
- 自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

人権教育論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 学習指導要領「特別活動」の目標と内容についての基本的な理解を獲得している。
技能	専門分野のスキル	● 学級活動や学校行事を進めていくうえでの基本的な指導方法について獲得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 学級や子ども集団の中にある課題を分析しつつ、その課題の達成に向けての指導方針を立案する力の基礎を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実際の学級担任として、あるいは学校行事の担当者として生徒に積極的に関わっていく意欲と態度をもっている。
	生涯学習力	● 特別活動の実践のPDCAサイクルを理解し、日々、実践の質を高めていく自己教育力の基礎を獲得している。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

特別活動論

EDU263M

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」（平成20年9月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

特別活動論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想【イデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想【信と知】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想【旅と Cogito】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想【オランダの自由】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	博物館に関する課題を発見し、適切な方法を用いて分析し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	博物館への関心を高める。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

博物館概論

MUS200M

授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 『月刊 博物館研究』 (日本博物館協会)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』 (芙蓉書房出版)
- ・ 大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』 (学文社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の手順と内容について)
- 2回 博物館の定義 (意義と理念)
- 3回 博物館の歴史
- 4回 博物館の種別について
- 5回 博物館における収集
- 6回 博物館資料の取り扱いについて
- 7回 学芸員の役割
- 8回 博物館における展示について① (展示の種別)
- 9回 博物館における展示について② (展示の企画・運営)
- 10回 博物館における展示について③ (展示の技法)
- 11回 博物館資料の活用と保存環境
- 12回 博物館と文化遺産
- 13回 博物館における教育プログラム
- 14回 博物館を取り巻く諸問題について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
- ・ 授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

博物館概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
- ・ 授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。
- ・ 新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

スポーツ産業論【昼】

担当者名 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツと社会の関連について基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を社会学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ産業論

HSS222M

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

教科書 /Textbooks

特になし

※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子著「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)

川西正己著「事業計画書の作り方」(明日香出版社 2004)

細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

スポーツ産業論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

特全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツ心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を心理学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ心理学

HSS221M

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について心理学的な観点から理解を深め、スポーツ指導やスポーツ実践に活かせるようになることを目的とする。スポーツコーチングの心理、メンタルトレーニング、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、スポーツとメンタルヘルスなどの内容について、講義と簡単な実習などにより説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	スポーツ心理学とは	
2回	コーチングの心理1	【スポーツスキルの分類】【スキルの指導】
3回	コーチングの心理2	【スキルの獲得】【運動の心理的メカニズム】
4回	コーチングの心理3	【運動と注意集中】【運動の記憶】
5回	コーチングの心理4	【合理的な練習方法】【学習の過程】【練習の計画】
6回	メンタルトレーニング1	【イメージトレーニング】【リラクゼーション】【あがりの対処】
7回	メンタルトレーニング2	【心理的スキルの評価】【集中力】【目標設定】
8回	スポーツの社会心理1	【スポーツと攻撃性】【他者の存在とスポーツ行動】【みるスポーツの心理】
9回	スポーツの社会心理2	【スポーツ集団の特徴】【チームワーク】【リーダーシップの機能・役割】
10回	スポーツの社会心理3	【スポーツの楽しさ】【コミットメント】【バーンアウト】
11回	スポーツの動機づけ1	【動機づけ理論】【内発的動機づけ】【運動嫌い】
12回	スポーツの動機づけ2	【動機づけの高め方】【目標設定の理論】【目標志向性】
13回	スポーツと心1	【パーソナリティ】【心の発達段階】【自己概念】【ボディイメージ】
14回	スポーツと心2	【メンタルヘルス】【運動の心理的効果】【心理的障害】
15回	まとめ(スポーツ心理学の指導・実践への応用)	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関する情報を収集して予習しておくこと
資料などを見直し、授業内容の復習をすること

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツ心理学 【昼】

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境（熱中症の予防）
- 13回 運動への行動変容（1）【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容（2）【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストなど）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【昼】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、スポーツ指導法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントやレジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】
- 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
- 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
- 5回 運動神経について【運動センス】
- 6回 “ 【遺伝】
- 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
- 8回 “ 【運動軸】、【調整能力】
- 9回 “ 【思春期】、【成熟期】
- 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】、【スポーツ障害】
- 11回 筋線維の種類と特性
- 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
- 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
- 14回 スポーツ指導【コーチング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に次回の内容(キーワード)を知らせるので、情報収集を行うこと。
授業の理解に有益な読書やスポーツ報道(大会)などを通して、より理解を深めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

身体スポーツ論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。

現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード

【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】

【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価 身体組成・体力の測定
- 12回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 13回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面
- 14回 発育発達期におけるトレーニング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

まず最初に、社会心理学の古典的文献を含めて基礎的ないくつかの論文を講読する。それらの演習を進める中で、理論研究と現実社会における様々な問題との関連を理解することをねらいとする。

到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む(日本語)
 - 3回 先行研究を読む(日本語)
 - 4回 先行研究を読む(日本語)
 - 5回 先行研究を読む(日本語)
 - 6回 先行研究を読む(英語)
 - 7回 先行研究を読む(英語)
 - 8回 先行研究を読む(英語)
 - 9回 先行研究を読む(英語)
 - 10回 現実社会の問題との関連を議論
 - 11回 現実社会の問題との関連を議論
 - 12回 資料収集と経過発表
 - 13回 資料収集と経過発表
 - 14回 データ分析の練習
 - 15回 データ分析の練習
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。

日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくとい。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

主として青年期の心理的特徴や人間関係に関する心理学的研究の文献を講読しながら臨床心理学の理論や知識に関する理解を深めるとともに、心理学的研究の進め方を学ぶ。その後、小グループに分かれてグループ研究（研究テーマの設定、先行研究の購読、研究計画の立案）を進める。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。なお、2学期開始直前の4年生と合同のゼミ合宿で、グループ研究のデザイン検討会を行う予定である。

到達目標は以下の通りである。

- ・文献を分析的に読み、課題を明確化したり、結論を導き出すことができる。
- ・文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・他者と協力して、研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

心理学研究、心理臨床学研究、青年心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究等の学会誌から各自が興味を持った論文を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション（演習の進め方、発表の順番決め）
2回～8回	文献購読1（毎回一人が論文をまとめてレジュメを作成・発表）
9回～14回	文研講読2（各グループで論文をまとめてレジュメを作成・発表）
15回	グループ研究検討会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で取り上げられる論文を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者は自分が選んだ論文に関してB4サイズ2枚程度でレジュメを作成すること。また、発表担当でない者は、事前に論文を読んで疑問点や批判点を明確にしておくこと。
授業終了後に、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習（人間環境学演習）では、演習A-1、A-2、B-1、B-2を通して、環境とその変動、それらの人間との関わりについて学び研究します。環境とその変動についての研究は「環境変遷学」、環境変動と文明との関わりは「環境考古学」あるいは「環境歴史学」とよばれます。環境は、いつも同じではなく変動しています。その変動の中で人類の祖先は誕生し、文明を持つに至りました。そのため、文明は発達過程において環境とその変動の影響を受けていると考えられています。人間環境学演習は、環境がどのように変化してきたか、また、それが人間にどのように影響を与えたかを深く学び研究することを目的としています。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。
環境および人間との関係性についての専門的知識を習得する。
環境および人間との関係性についての問題を発見する能力を習得する。
環境および人間との関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。使用する文献等は授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 受講生がテーマを設定して調査・研究し、その内容をゼミで発表して討論します。
- 1回 研究テーマの設定 1 上で述べたこの演習のテーマからトピックを探索する。
 - 2回 文献検索方法の学習
 - 3回 研究テーマの設定 2 テーマを決める。
 - 4回 先行研究の学習 1 文献を読んで討論する。
 - 5回 先行研究の学習 2
 - 6回 先行研究の学習 3
 - 7回 先行研究の学習 4
 - 8回 先行研究の学習 5
 - 9回 先行研究の学習 6
 - 10回 研究テーマの設定 3 研究テーマを再考し、より具体化する。
 - 11回 研究テーマの設定 4
 - 12回 先行研究の学習 7 具体化したテーマについてより深く討論する。
 - 13回 先行研究の学習 8
 - 14回 先行研究の学習 9
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% 発表の内容 ... 50%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションの準備をしてください。授業後は、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとし、ノートともに次回の発表の資料としても使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

授業中の討論には積極的に参加してください。自由で活発な討論が演習を充実させます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行う。グループワークを実施し、学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施する。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的・総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。

3年1学期は社会福祉とその周辺領域の基本的な文献を学習し、個人と集団、社会のあり方について理解を深める。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 文献学習
- 14回 文献学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度 ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献学習が中心となるので事前学習としては、全員が指定する文献を精読し、担当者は発表用のレジユメを作成すること。事後学習は指定する文献から興味関心を広げ、多様な領域の文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず無遅刻で出席し、担当部分のレポートによる報告をおこなうこと
夏季休暇中（9月下旬）に合宿を行い、卒業論文に接近するための文献・資料について討議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

発達、集団、少年期、青年期、自己肯定感、自立

演習 A - 1 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

- 臨床教育学に関する諸問題について、テキストを講読しつつ考察していく。
主要なテーマとしては愛着障害、DV（ドメスティックバイオレンス）、少年非行、児童虐待、不登校などの問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、具体的な事例も踏まえて考察する。
そのことを通じて、様々な青少年の問題事象や児童虐待の事例を分析していくための基礎的な知見の獲得をめざす。
- 認知行動療法、対人関係療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習する。そのことを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。
- その他、学生の興味・関心に合わせた課題設定を行い、個人発表またはグループでの発表を行う。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

昨年度は、楠著「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」「自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と学級づくり」、岡田尊司著「愛着障害」、伊藤恵美著「事例で学ぶ認知行動療法」（誠信書房）、水島広子「対人関係療法入門」などとテキストとして使用した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 問題意識の交流とゼミ計画の話し合い
- 2回 プレゼンテーションとグループワーク
- 3回 カウンセリングの基礎的な実習 その1
- 4回 カウンセリングの基礎的な実習 その2
- 5回 文献購読 その1
- 6回 文献購読 その2
- 7回 文献購読 その3
- 8回 文献購読 その4
- 9回 文献購読 その5
- 10回 文献購読 その6
- 11回 見学実習(児童相談所その他)
- 12回 文献購読 その7
- 13回 文献購読 その8
- 14回 文献購読 その9
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで授業に参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。
強制ではないが、実践現場でのフィールドワークの場をどこかに持ってもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

それぞれのテーマに基づいて、

1：ガイダンス、2：政策や制度の変容と課題、3：実践や実態の動向と課題、4：論点整理、5：まとめと進めていきます。

第1回～第5回 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深めていきます。

第6回～第10回 子どもから成人にわたる教育の論理（学習過程の独自性）について検討を行う。

第11回～第15回 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。（ゼミ合宿やボランティア参加）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習テーマの取り組みと発表...70% 討論・調査・実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。

事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

概要

教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

目標

これまで獲得した専門的知識や研究法の基礎スキルをもとに

- ①教育の諸課題を多角的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを表現できる。
- ③教育の諸課題を研究する方法をさらに習得し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 文献検討(3)【教育問題】
 - 6回 文献検討(4)【学校問題】
 - 7回 デイバート(1)【子ども・若者問題】
 - 8回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 9回 フィールドワーク(2)【視点をもった観察】
 - 10回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 面接調査(1)【質問事項の精査】
 - 13回 面接調査(2)【聴き取りの手法】
 - 14回 デイバート(2)【教育に関する時事的テーマ】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生の皆さん自身が積極的に関わることで更に豊かな学びとなります。
共に学びあいましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側・観る側などあらゆる人たちのものである。したがって、様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、スポーツ文化としてより理解を深める。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、連絡網の作成
- 2回 遊び・体育・スポーツ競技などについて検討する①
- 3回 遊び・体育・スポーツ競技などについて検討する②
- 4回 文献購読①
- 5回 文献購読②
- 6回 4年生のプロポーザル発表への参加(司会・進行)
- 7回 文献購読③
- 8回 文献購読④
- 9回 グループ研究のテーマと研究内容①
- 10回 グループ研究の資料収集
- 11回 グループ研究発表の資料作り
- 12回 グループ研究発表①
- 13回 グループ研究発表②
- 14回 グループ研究発表③
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…… 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツや身体活動に関心を持ち、新聞・情報誌などに掲載されている興味のある記事・写真などを切り取ったりコピーしたりしておくことを勧めます

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけゼミ生の興味・関心を加味しながら、授業を進めていく予定である

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康に関する諸問題について(1)
- 3回 健康に関する諸問題について(2)
- 4回 健康に関する諸問題について(3)
- 5回 スポーツ実施者の直面する諸問題について(1)
- 6回 スポーツ実施者の直面する諸問題について(2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション(8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関するプレゼンテーション資料を作成し、その諸問題について考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。発表者以外も疑問点などをしっかり質問をする。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の分担発表と討論
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 論文講読の分担発表と討論
- 6回 論文講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 春休みの調査計画
- 15回 卒業論文発表会に参加

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する文献購読を通して、コミュニケーション能力や社会性、母子関係や仲間づくりなど、ひとの発達現象について心理学の視点から理解を深める。同時に、研究論文の書き方、データの収集の方法、統計的分析についても学習を深める。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献講読では発達心理学に関連するものを受講者自身が準備し発表を行う。
また、文献講読の内容を踏まえグループ研究のテーマ検討を行う。
その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

第1回 オリエンテーション
○文献を探す際のキーワード例
母子関係、愛着、共同注意、心の理論、言語発達、育児ストレス、発達障害（自閉性障害、学習障害、精神遅滞、ADHD・・・）、発達援助、など

第2回 文献講読1
第3回 文献講読2
第4回 文献講読3
第5回 文献講読4
第6回 実践活動検討1
第7回 文献講読5
第8回 文献講読6
第9回 文献講読7
第10回 文献講読8
第11回 実践活動検討2
第12回 グループ研究1（研究テーマの検討）
第13回 グループ研究2（研究テーマの検討）
第14回 グループ研究3（研究テーマの検討）
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

各グループで社会心理学的問題の一つずつとりあげ、仮説構成、実験や調査の計画、データ分析、結果と考察の発表、討議を行う予定である。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ分けと研究テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む（日本語）
 - 3回 先行研究を読む（日本語）
 - 4回 先行研究を読む（日本語）
 - 5回 先行研究を読む（英語）
 - 6回 先行研究を読む（英語）
 - 7回 先行研究を読む（英語）
 - 8回 先行研究を読む（英語）
 - 9回 実験・調査の計画・実施
 - 10回 実験・調査の計画・実施
 - 11回 実験・調査の計画・実施
 - 12回 データ分析
 - 13回 データ分析
 - 14回 データ分析
 - 15回 発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくと良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

前半は、臨床心理学の実践について理解を深めるために、専門書購読を行う。後半は、1学期からのグループ研究を進めていく。具体的には、収集されたデータの分析、研究発表資料の作成・発表を行い、心理学研究の進め方を体験的に学び、卒業論文作成のための基礎力をつける。なお、グループ研究の成果は、4年生の卒業論文と合同で1月末頃に開催される発表会の場で公開される。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

到達目標は以下の通りである。

- ・文献を分析的に読み、課題を明確化したり、自分の見解を導き出すことができる。
- ・文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・他者と協力して、研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回 ~ 10回 専門書購読
- 11回 ~ 14回 グループ研究の検討
- 15回 グループ研究発表 (卒業論文発表との合同による)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表・討論への参加度 ... 30% グループ研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で取り上げられる箇所を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、レジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

専門書購読の授業開始前に、発表担当者はレジュメを作成すること。また、それ以外の者も事前に読んでおいて疑問点や批判点を明確にし、「輪読メモ」を作成すること。
授業終了後に、レジュメに目を通しながら内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

大学の学習の中で、最もおもしろくクリエイティブなものは「研究」です。この演習では、演習A - 1に引き続いて人間環境学にかかわる研究テーマを探索する方法を学び、研究のおもしろさを知る糸口をつかむことを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。
環境および人間との関係性についての専門的知識を習得する。
環境および人間との関係性についての問題を発見する能力を習得する。
環境および人間との関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献を探す技術を身につけることも演習の目的の一つです。文献の検索法などを演習の中で指導するので、受講生は必要な文献を自ら探せるようになってほしいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生が選んだテーマについて、自らが探した文献などを基に理解を深めます。さらにそのテーマに関連するフィールドの調査・観察などによって得られたデータと考察を発表し討論します。演習A - 1より深く、オリジナリティーの高い発表が期待されます。

- 1回 研究テーマの設定 1 テーマを考える。
- 2回 研究テーマの設定 2 テーマを決める。
- 3回 先行研究の研究 1 論文を読んで討論する。
- 4回 先行研究の研究 2
- 5回 先行研究の研究 3
- 6回 先行研究の研究 4
- 7回 フィールドの設定 1 テーマに合致した身近なフィールドを探す。
- 8回 フィールドの設定 2 フィールドの決定。
- 9回 フィールドの設定 3 フィールドワークの方法と目的を考える。
- 10回 フィールドワーク 1 フィールドワークの結果の発表と討論。
- 11回 フィールドワーク 2
- 12回 フィールドワーク 3
- 13回 考察 1 フィールドワークの成果を考察する。
- 14回 考察 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% セミ発表の内容 ... 50%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションの準備をしてください。授業後は、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとし、ノートとともに次回の発表の資料としても使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

研究テーマを見つけるためには、その領域についての深い知識とともに、何が問題であるのか、また、解決すべき点は何なのかを自ら見いだす力が必要です。そのような力を身につけるためには、日常的に色々な事象に目を向け、それらを自分の頭で考えて、疑問点を整理してみるとよいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行う。グループワークを実施し、学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施する。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的・総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観および科学的人間観と、援助の際に必要な発達観を身につけていくことを授業のねらいとする。

3年2学期より社会福祉的援助のあり方を中心として、現在の社会福祉問題を研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 個別研究テーマの設定
- 14回 個別研究テーマの設定
- 15回 個別研究テーマの設定

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度 ... 30% 報告内容 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

2学期も文献学習が中心となるが、現代の社会福祉問題に接近することができるような資料も合わせて使用する。そのため事前学習としてはテレビ、新聞等で取り上げられる社会福祉問題やその周辺領域の問題に関して資料収集をすること。事後学習としては社会福祉問題やその周辺領域の問題に関する文献を多く読むこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉の諸問題に関して総論的に学習を進め、4年生からの卒業研究に関するテーマ設定の準備を行う。2学期が終了する春休みには合宿を行い、卒業論文のためのテーマ設定を行う。社会福祉の現場などにもでかけ、フィールドワークをおこないたい。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会問題、生活問題、社会的孤(個)立、自立、連帯

演習 A-2 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

1. 一学期に引き続き、臨床教育学に関する諸問題について、テキストを購読しつつ考察していく。

主要なテーマとしては、愛着障害、DV（ドメスティックバイオレンス）、少年非行・少年犯罪、児童虐待、不登校などの問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、具体的な事例も踏まえて考察する。

そのことを通じて、様々な青少年の問題事象や児童虐待の事例を分析していくための基礎的な知見の獲得をめざす。

2. 認知行動療法、対人関係療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習する。そのことを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。

3. 来年度の卒業論文執筆に向けての論文構想の発表と指導を行う。

また、参加者の希望があれば、保育園、児童相談所の一時保護所、乳児院、少年支援室、グループホームなどの見学実習なども入れる予定である。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読 その1
- 3回 文献購読 その2
- 4回 文献購読 その3
- 5回 文献購読 その4
- 6回 文献購読 その5
- 7回 文献購読 その6
- 8回 文献購読 その7
- 9回 見学実習（少年支援室など）
- 10回 見学実習（乳児院など）
- 11回 卒業論文構想発表1
- 12回 卒業論文構想発表2
- 13回 卒業論文構想発表3
- 14回 卒業論文構想発表4
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
1: ガイダンス、2: 政策や制度の変容と課題、3: 実践や実態の動向と課題、4: 論点整理、5: まとめと進めていきます。

第1回～第5回 地域における教育の構造や、その連関について理解を深めます。

第6回～第10回 NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行います。
第11回～第15回 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討します。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

概要

演習A-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

目標

演習A-1での成果や課題をふまえ

- ①教育の諸課題を多角的に考え、深めることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する方法を吟味し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 4回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 5回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 6回 フィールドワーク(2)【視点をしぼった観察】
 - 7回 フィールドワーク(3)【観察したデータの分析・考察】
 - 8回 卒論中間発表【研究目的・方法の学習】
 - 9回 文献検討(3)【教育問題(諸外国)】
 - 10回 文献検討(4)【学校問題(諸外国)】
 - 11回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 12回 ディベート【教育に関する現代的テーマ】
 - 13回 課題意識検討会【研究テーマへの接近】
 - 14回 卒論発表会【研究成果のわかちあい】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
「自分のテーマ」を見つけ、そのテーマに関する資料等をもとにプレゼンテーションを行うので、
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身が深めたい研究テーマは何か、じっくりと考えていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

今やスポーツはプレイする人だけのものではなく、大会やイベントを支える側・観る側などあらゆる人たちのものである。したがって、様々な角度からスポーツを捉え、スポーツに関わる諸問題や影響などについて討論し、スポーツ文化としてより理解を深める。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 各自で関心のある領域・テーマを見つける①
- 2回 各自で関心のある領域・テーマを見つける②
- 3回 先行研究の購読①
- 4回 先行研究の購読②
- 5回 先行研究の購読③
- 6回 先行研究の購読④
- 7回 4年生の合同卒論中間発表の資料を検討
- 8回 4年生の合同卒論中間発表に参加(司会・質疑)
- 9回 幼稚園児への運動プログラムの担当割り・計画・立案
- 10回 幼稚園児への運動プログラムを発表
- 11回 準備・作業
- 12回 (実践) 幼稚園児への運動プログラム提供
- 13回 反省会
- 14回 4年生の合同卒論発表会の参加(司会・質疑)
- 15回 ふりかえりと4年生への準備

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

卒論の領域やテーマを意識しながら、4年生の中間発表や卒論発表に参加して自分の卒論への意識を高める資料収集に取り組む

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 科学研究の方法論(1)
- 3回 科学研究の方法論(2)
- 4回 文献の探し方(1)
- 5回 文献の探し方(2)
- 6回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 7回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 8回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 9回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 10回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 11回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 12回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 13回 卒業論文のテーマ選定
- 14回 卒業論文の方法論の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関する文献をまとめ、考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。ディスカッションを通して、卒業論文のテーマ選定を考えていく。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の分担発表と討論
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 論文講読の分担発表と討論
- 6回 論文講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 春休みの調査計画
- 15回 卒業論文発表会に参加

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 演習 クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する研究テーマに従い、グループ演習を行う。コミュニケーション発達、母子関係など各グループでテーマを設定し、研究計画作成、データ収集・分析、研究レポート作成と研究実施における一連の手続きの学習を目的とする。また、学期最後には研究成果について発表会を行う。

また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー1
- 第3回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー2
- 第4回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー3
- 第5回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー4
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 グループ研究：データ収集・分析1
- 第8回 グループ研究：データ収集・分析2
- 第9回 グループ研究：データ収集・分析3
- 第10回 グループ研究：データ収集・分析4
- 第11回 実践検討活動2
- 第12回 グループ研究：研究レポート作成1
- 第13回 グループ研究：研究レポート作成2
- 第14回 研究発表会1
- 第15回 研究発表会2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の基礎
 - 2回 研究の基礎
 - 3回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 4回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 15回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業研究に向けて、各自が興味・関心あるテーマを選び、そのテーマに関する国内外の文献研究を進め、討議を通じて問題・仮説の設定を行う。さらに、心理学研究方法を用いてデータの収集、分析を行い、論文にまとめる。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 文献を分析的に読み、課題を明確化したり、研究仮説を導き出すことができる。
- ・ 文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・ 研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～15回 進め方は以下の通り
- 研究テーマの選定
 - 関連する文献の購読、討議
 - 研究計画の立案
 - 研究の実施
 - 研究結果の分析、検討
 - 卒業論文の作成、提出
- * 夏休み期間にゼミ合宿を行う。その際、各自の卒論研究について発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジюмеを作成する。
事後学習として、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジюмеを作成しておくこと。
授業終了後に、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外で個別指導を行う。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 卒論のテーマを通して、心理学における諸現象についてどのような実験や調査によって明らかにすることができるかを理解する。
2. 調査のワーディングや実験の教示を通して、他者への理解の手法を修得する。
3. 心理学的諸問題の検討する上でどのようなアプローチを行えばよいのか理解し、それを応用することができるようになる。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 3回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 4回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 5回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 7回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 8回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 9回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 10回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 11回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 12回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 14回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論
- 15回 卒論の予備調査・予備実験及び進捗報告と問題点についての議論

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の授業の報告までに、予備調査や予備実験ができるように準備しておくこと。
議論の際に指摘された事項等に関して、授業後に解決をはかること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

演習A-2で発見したテーマについて演習B-1、B-2を通して専門的に研究し、最終的に成果を卒業論文としてまとめます。自らが研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会においても広く応用が可能な能力であり、是非とも身につけておくべきものであると考えています。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。
環境および人間との関係性についての問題を発見する能力を習得する。
環境および人間との関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。
習得した知識や方法を以後の社会実践の中でさらに高め、社会に生かせる能力を取得する。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでには、おおむね以下のような過程を経るのが普通です。

(1)問題発見期(テーマを設定する) (2)解決方法開発期(研究方法を開発する) (3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する) (4)データ解析期(データに基づいて問題を考察する) (5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる)。この演習は、上記の過程の(2)から(3)の段階にあたります。

1回 解決方法の開発1 演習A-2で設定した研究テーマの研究方法を開発する。

2回 解決方法の開発2

3回 解決方法の開発3

4回 解決方法の開発4

5回 データを収集し討論する1 フィールドワーク・実験・観察を行う。

6回 データを収集し討論する2

7回 データを収集し討論する3

8回 データを収集し討論する4

9回 データを収集し討論する5

10回 データを収集し討論する6

11回 データを収集し討論する7

12回 中間のまとめ1 得られたデータを整理する

13回 中間のまとめ2

14回 中間のまとめ3

15回 今後の方針の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% セミ発表の内容 ... 50%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションの準備をしてください。授業後は、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとし、ノートともに次回の発表の資料としても使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

自ら行動するなど、研究への積極的な意欲を持つと研究が楽しくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行う。卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～12回 指定された文献について全員がディスカッションペーパーを作成し、議論を実施する。
13回～15回 卒業論文の中間報告(個別報告と全体討論)
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% ディスカッションペーパーの提出50% 議論への参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

学生たちが卒業論文を書くために必要な基礎知識、論文作成の方法について学ぶ。
テーマの選択、研究方法、論文の構成、文献の入手の方法、概念やキーワードの整理など。
卒業論文について、テーマを決定し、研究に取り組む。研究計画を提出し、手順を踏まえながら研究を進めていけるように指導する。
本学期においては、論文の構想、題目の決定、論文の構成まで決められるように集団指導、個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の構想、題目の検討
- 3回 論文の構想、題目の検討
- 4回 論文の構想、題目の検討
- 5回 論文の構想、題目の検討
- 6回 論文の構想、題目の検討
- 7回 論文の構想、題目の検討
- 8回 論文の構成の検討
- 9回 論文の構成の検討
- 10回 論文の構成の検討
- 11回 論文の構成の検討
- 12回 論文の構成の検討
- 13回 論文の構成の検討
- 14回 論文の構成の検討
- 15回 中間発表の準備について

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況60%、課題40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後の学習としては、指示されたところまで各自の学習を進めておくこと。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

常日頃から見童家庭福祉問題への関心を持ち、新聞・雑誌記事など資料収集をしながら、卒業論文の構想を温めておくこと。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

4年生1学期より社会福祉援助のあり方を中心とした現在の社会福祉問題を、具体的テーマの下、研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障がい者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。そのことが、“書かなければならない”卒論から、“自己実現のための”研究の転換へと私たちを導いてくれることと思う。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究対象の検討
- 3回 研究対象の検討
- 4回 研究方法の検討
- 5回 研究方法の検討
- 6回 研究内容の検討
- 7回 研究内容の検討
- 8回 フィールドの検討
- 9回 フィールドの検討
- 10回 フィールドワークの方法の学習
- 11回 フィールドワークの方法の学習
- 12回 フィールドワークの報告と検討
- 13回 フィールドワークの報告と検討
- 14回 フィールドワークの報告と検討
- 15回 個別報告

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（具体的な発言にみられる問題意識のあり方）態度 ... 20% 報告内容 ... 50% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒論テーマを確定するための諸資料の収集を行う。事後学習としては卒論テーマに即して諸資料の整理・分類を行う。

履修上の注意 /Remarks

4年生前期は卒業論文のテーマを個人若しくはグループで設定し、研究計画を考える。卒業論文に必要な諸資料の収集、文献探索、調査の方法についても指導する。夏期休暇中に合宿をおこない、卒業論文の骨子を検討する。
夏期休暇中（9月下旬）に合宿を行い、卒業論文のテーマに即した章立・内容について検討する。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究方法、調査方法

演習B-1 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

3年生での一年間の学習成果を踏まえて、卒業論文の執筆に向けての報告と検討を中心にして進める。
そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論の書き方についてのプレゼンテーション
- 3回 卒論構想発表 1
- 4回 卒論構想発表 2
- 5回 卒論構想発表 3
- 6回 卒論構想発表 4
- 7回 卒論構想発表 5
- 8回 卒論構想発表 6
- 9回 卒論構想発表 7
- 10回 卒論構想発表 8
- 11回 卒論構想発表 9
- 12回 卒論構想発表 10
- 13回 卒論構想発表 11
- 14回 卒論構想発表 12
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 卒論執筆に向けて、関連する文献を収集し、その分野の知見を整理すること。
- 卒論に必要なデータについては早めの収集に心がけること

履修上の注意 /Remarks

卒業論文の完成に向けての文献の探索、研究方法の明確化を積極的に進めてもらいたい。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文は大学で学んだことの集大成であり、大学生活を意味づける上で最も大きな意味を持つものです。
そのような意味づけができるようにがんばってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討と進めます。

- 1回～2回 理論的な考え方について
- 3回～4回 研究とは何か
- 5回～7回 テーマの設定と課題レポート作成計画の提出
- 8回 先行研究についての文献リストの作成
- 9回～10回 先行研究についての考察
- 11回～12回 分析視点と仮説の設定
- 13回～14回 それらの文章化
- 15回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

課題

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ、子ども・若者と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論等を通して、教育学の専門的知識や研究の仕方などを学ぶ。

目標

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ

- ①教育の諸課題を総合的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する効果的な方法を選択し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 テーマ学習【子ども・若者】
- 3回 研究計画の検討(1)【研究目的・課題】
- 4回 研究計画の検討(2)【研究方法】
- 5回 研究論文に関わる文献の検討(1)【文献リスト】
- 6回 研究論文に関わる文献の検討(2)【先行研究の整理】
- 7回 研究論文に関わる文献の検討(3)【先行研究の吟味】
- 8回 研究論文に関わる文献の検討(4)【先行研究の批評】
- 9回 研究論文に関わる文献の検討(5)【課題の確定】
- 10回 フィールドワークの報告【観察分析の分かち合い】
- 11回 質問紙調査(1)【ワーディング】
- 12回 質問紙調査(2)【予備調査】
- 13回 研究計画の検討(3)【論文の構成】
- 14回 デイバート【教育に関する時事的テーマ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40%

課題... 60%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに幅広く関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマを決め、必要な情報や資料を収集していく段階に来ました。
参加者が互いに刺激しあう演習にしていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

3年次で学んだことを生かして、各自関心のある領域から研究テーマ・研究方法を決め、卒業論文に向けての準備を行う

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論テーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論に向けての取り組み方・書き方など
- 2回 卒論のテーマ・研究目的・研究方法・仮説の検討①
- 3回 卒論のテーマ・研究目的・研究方法・仮説の検討②
- 4回 卒論のテーマ・研究目的・研究方法・仮説の検討③
- 5回 プロポーザル発表に向けての資料作り
- 6回 合同のプロポーザル発表
- 7回 発表会のふりかえり
- 8回 研究方法の検討(アンケート作成・実験方法などに向けて)①
- 9回 研究方法の検討(アンケート作成・実験方法などに向けて)②
- 10回 研究方法の検討(アンケート作成・実験方法などに向けて)③
- 11回 研究内容の個別指導①
- 12回 研究内容の個別指導②
- 13回 研究方法の作業①
- 14回 研究方法の作業②
- 15回 研究方法の作業③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒論の内容に関して、情報・文献収集したものを持ってくる。

履修上の注意 /Remarks

アンケート作成や実験を行う場合は、できるだけ夏季休暇に済ませる

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文作成について、テーマの選定、方法論について考え、実際に調査・測定を実施する

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成について(1)
- 3回 卒業論文作成について(2)
- 4回 卒業論文のテーマ決定
- 5回 卒業論文の予備調査
- 6回 卒業論文の方法論決定
- 7回 卒業論文の調査
- 8回 卒業論文の調査
- 9回 卒業論文プロポーザル発表
- 10回 データ処理方法について(1)
- 11回 データ処理方法について(2)
- 12回 データ処理方法について(3)
- 13回 図表の書き方(1)
- 14回 図表の書き方(1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文のテーマに関する内容について文献を読んだり考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

卒業論文のテーマ決定を行い、なるべく早く調査・測定を実施します。それと同時に、文献研究も同時に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献・論文講読を重ねながら、実際にフィールド調査、あるいは文献史料による調査を行い、卒業論文の基礎的調査をまとめ上げ、その結果から、卒論完成に向けた仮説を想定することが目標である。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の分担発表と討論
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 現地調査
- 6回 現地調査
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 現地調査
- 11回 現地調査
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 夏休みの調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成と並行して、テーマ設定、関連文献の講読、研究計画について議論を行う。
また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学生の卒業論文のテーマに沿って、各自の研究テーマや研究計画の検討、先行研究レビューの発表を行う。
その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文テーマ検討1
- 第3回 論文テーマ検討2
- 第4回 先行研究・文献レビュー1
- 第5回 先行研究・文献レビュー2
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 研究計画検討1
- 第8回 研究計画検討2
- 第9回 研究計画検討3
- 第10回 研究計画検討4
- 第11回 実践活動検討2
- 第12回 卒業論文経過発表1
- 第13回 卒業論文経過発表2
- 第14回 卒業論文経過発表3
- 第15回 卒業論文経過発表4

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の練習
 - 2回 研究発表の練習
 - 3回 中間発表
 - 4回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 研究発表の練習
 - 15回 最終発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続いて、卒業研究の作成を行う。
到達目標は以下の通りである。
・ 文献を分析的に読み、課題を明確化したり、研究仮説を導き出すことができる。
・ 文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
・ 研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 進め方は以下の通り
研究テーマの選定
関連する文献の購読、討議
研究計画の立案
研究の実施
研究結果の分析、検討
卒業論文の作成、提出
15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジюмеを作成する。
事後学習として、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジюмеを作成しておくこと。
授業終了後に、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に必要な方法論を学ぶ。卒論テーマの決め方，文献収集の仕方，実験や調査の準備・実施，データの分析方法について，個別の卒論テーマに沿って学習をする。授業時間以外に個別指導を行う。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 心理学における諸現象についてどのような実験や調査によって明らかにすることができるかを理解する。
2. 実験や調査で行った客観的事実や論文で主張したい事柄を論文として表現することができるようになる。
3. 心理学的諸問題の検討する上でどのようなアプローチを行えばよいのか理解し、それを応用することができるようになる。

教科書 /Textbooks

テキストは使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は，各自の卒論テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 3回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 4回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 5回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 6回 卒業論文中間発表会の発表の仕方及び資料作成の指導
- 7回 卒業論文中間発表会
- 8回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 9回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 10回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 11回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 12回 受講生による卒論の進捗報告と問題点についての議論
- 13回 卒業論文の原稿作成及び提出に関する指導
- 14回 卒業論文発表会での発表の仕方および要綱集の執筆指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒論の進捗に関して，授業前までに問題点や疑問点を事前に整理し，議論できるようにしておくこと。議論の際に指摘された事項等に関して，授業後に解決をはかること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

演習B-1の最後で再検討した研究方針に基づいて、さらに深く研究を進め論文としてまとめます。

自らが研究テーマを発見、研究方法を開発したのち、データを収集して成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会において広く応用が可能な能力であり、大学在学中に是非とも身につけておくべきものであると考えます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。

環境および人間との関係性についての問題を発見する能力を習得する。

環境および人間との関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。

習得した知識や方法を、以後の社会実践の中でさらに高め、社会に生かせる能力を取得する。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」(菊田千春ほか著 東洋経済新報社 1,575円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下のようになります。

(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(データに基づいて問題を考察する)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる) この演習は、この過程のうち(3)から(5)の過程になります。

1回 データを収集する1

2回 データを収集する2

3回 データを収集する3

4回 データを収集する4

5回 データを収集する5

6回 データを収集する6

7回 中間のまとめ

8回 中間のまとめ

9回 今後の方針の検討

10回 データを収集する7

11回 データを収集する8

12回 総括1 全体の考察とまとめと論文作成

13回 総括2

14回 総括3

15回 卒論発表会へ向けたプレゼンテーションの作成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションの準備をしてください。授業後は、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとし、ノートともに次回の発表の資料としても使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

研究への積極的な姿勢を持つことが最大の準備で、それが研究を楽しくします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは、主として文化社会学、社会意識論に関する論文を読み、討論を行う。卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～12回 指定された文献について全員が各自でのディスカッションペーパーをまとめ。それをもとに議論する。
13回～15回 卒業論文の中間報告(個別報告と全体討論)
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% ディスカッションペーパーの提出50% 議論への積極的参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-2 【昼】

担当者名 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

個別指導を中心に行い、卒論を完成できるように指導する。中間発表や卒論発表の準備を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 中間発表の準備
- 3回 中間発表
- 4回 論文の検討
- 5回 論文の検討
- 6回 論文の検討
- 7回 論文の検討
- 8回 論文の検討
- 9回 論文の検討
- 10回 論文の検討
- 11回 論文の検討
- 12回 論文の発表の準備
- 13回 論文発表の準備
- 14回 論文発表の準備
- 15回 論文発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況80%、発表20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後の学習として、指示されたところまで学習を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

4年生2学期より社会福祉援助のあり方や、その他社会福祉領域を中心としてゼミ生各人が立てた研究計画の下、卒業論文を作成する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障害者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求の内容を学び取っていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・個別研究テーマの確認
- 2回 論文に関する個別指導
- 3回 論文に関する個別指導
- 4回 論文に関する個別指導
- 5回 論文に関する個別指導
- 6回 論文に関する個別指導
- 7回 論文に関する個別指導
- 8回 論文に関する個別指導
- 9回 論文に関する個別指導
- 10回 論文に関する個別指導
- 11回 論文に関する個別指導
- 12回 論文に関する個別指導
- 13回 論文に関する個別指導
- 14回 論文に関する個別指導
- 15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度(論文に関する学習・調査・研究への取り組み) ... 30% 報告 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒業論文の検討を具体的に行うので、進捗状況や論文内容に関するレジュメを作成する。事後学習としては授業中の検討を元に、資料収集や追加的な調査、論文内容の見直し等を行う。

履修上の注意 /Remarks

4年生2学期は個人若しくはグループで設定した卒業論文のテーマを、具体的にまとめていく。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に実施した合宿での卒業論文の骨子を具体化し、論文を作成する。2月には最後の合宿として卒業論文の詳細な報告を行う。

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1月の卒業論文指導に向けて、前半は構想発表、後半は個人指導を中心に進める。そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。参考文献は個々の学生に合わせて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の卒論テーマに合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 卒論構想発表 1
- 3回 卒論構想発表 2
- 4回 卒論構想発表 3
- 5回 卒論構想発表 4
- 6回 卒論構想発表 5
- 7回 卒論構想発表 6
- 8回 個別指導
- 9回 個別指導
- 10回 個別指導
- 11回 中間発表会
- 12回 中間発表会
- 13回 個別指導
- 14回 個別指導
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70点 卒論発表会 30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4年間の学びの集大成である卒業論文の完成に向けて、早い段階から執筆作業を始めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について、資料や情報の整理、調査研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、卒論作成につなげます。現代社会における人間の自己教育の到達点、諸活動の課題・可能性について教育的に解明することを課題とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討、(3回目：総括討議)と進めます。
1回～2回 実証研究とは何か
3回～4回 テーマの設定と関連活動の情報の収集・整理
5回～7回 課題レポート調査計画の提出
8回 調査活動の実施
9回～10回 調査結果の分析
11回 補足資料、補足調査の実施
12回～13回 それらの文章化
14回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評
15回 調査協力者への報告、提案
授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

概要

これまでの演習での成果や課題をふまえ、子ども・青年と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論を通して、さらなる教育学の専門的知識を習得し、研究の進め方・まとめ方などを学ぶ。

目標

これまで獲得した専門的知識や研究方法をもとに

- ①教育の諸課題を総合的に考え、深めることができる。
- ②教育の諸課題について、自らの考えをより効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討するより効果的な方法を選択・吟味し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究論文完成に向けて【成果に学ぶ】
- 3回 研究論文に関わる発表・討論1【本論・事例研究】
- 4回 研究論文に関わる発表・討論2【本論・質問紙調査】
- 5回 研究論文に関わる発表・討論3【本論・面接調査】
- 6回 研究論文に関わる発表・討論4【本論・テキスト分析】
- 7回 中間まとめ
- 8回 研究論文・中間発表【研究目的・方法、論文構成】
- 9回 研究論文に関わる発表1【論文の仕上げ：キーワード】
- 10回 研究論文に関わる発表2【論文の仕上げ：リライト】
- 11回 研究論文に関わる発表3【論文の仕上げ：最終チェック】
- 12回 研究論文の検討【論文の検討・相互批評】
- 13回 課題意識の検討【研究テーマ接近への支援】
- 14回 研究論文成果の発表【研究成果のわかちあい】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習B-1に続いて、定期的な報告の機会を活用して研究を進め、研究論文をまとめる。
授業に当たり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での研究の集大成として卒業論文をまとめあげ、また、それぞれの知的成果をわかちあう時です。
存分に学びましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自の卒論テーマに沿って、卒業論文の作成に必要な方法を学習する。データの収集やグラフ・表・図形などを作成しながら論文をまとめていく

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料収集と経過報告
- 2回 卒業論文終了までの計画表を発表
- 3回 論文に向けての個別指導①
- 4回 論文に向けての個別指導②
- 5回 論文に向けての個別指導③
- 6回 卒論中間発表に向けての資料作り①
- 7回 卒論中間発表に向けての資料作り②
- 8回 合同の中間発表
- 9回 論文に向けての個別指導①
- 10回 論文に向けての個別指導②
- 11回 論文に向けての個別指導③
- 12回 論文に向けての個別指導④
- 13回 卒業論文提出
- 14回 合同の卒業論文発表会
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、進捗状況を報告すること。

履修上の注意 /Remarks

各自のペースで卒論を仕上げていく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文完成に向けて、データ整理、結果の解釈について考え、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文のデータ整理 (1)
- 3回 卒業論文のデータ整理 (2)
- 4回 卒業論文のデータ整理 (3)
- 5回 卒業論文のデータ整理 (4)
- 6回 結果の解釈 (1)
- 7回 結果の解釈 (2)
- 8回 統計的解釈 (1)
- 9回 統計的解釈 (2)
- 10回 卒業論文中間発表
- 11回 卒業論文作成 (1)
- 12回 卒業論文作成 (2)
- 13回 卒業論文作成 (3)
- 14回 卒業論文作成 (4)
- 15回 卒業論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20% 卒業論文 ... 50% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文の結果に関して、文献を読んだりして考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

卒業論文で行った、調査結果を元に、パソコンを使って、見やすい表、わかりやすいグラフの作り方などについて考えていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

環境社会学は、様々な環境と、その環境を創る（または環境によって創られる）社会構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって環境学と社会学の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。このような文献・論文講読を重ねながら、最終的なフィールド調査を行うとともに、各自が導いた論旨に関する先行研究を整理して、論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の分担発表と討論
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 現地調査
- 5回 現地調査
- 6回 調査研究の分担発表と討論
- 7回 調査研究の分担発表と討論
- 8回 卒業論文執筆指導
- 9回 卒業論文執筆指導
- 10回 現地調査
- 11回 卒業論文執筆指導
- 12回 卒業論文執筆指導
- 13回 論文発表準備作業
- 14回 論文発表練習
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成と並行して、自身の研究のデータ分析、結果の解釈、論理的考察などについて心理学の立場から議論を深める。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究データ分析 1
- 第3回 研究データ分析 2
- 第4回 研究データ分析 3
- 第5回 研究データ分析 4
- 第6回 実践活動検討 1
- 第7回 卒業論文中間発表 1
- 第8回 卒業論文中間発表 2
- 第9回 卒業論文作成 1
- 第10回 卒業論文作成 2
- 第11回 実践活動検討 2
- 第12回 卒業論文作成 3
- 第13回 卒業論文作成 4
- 第14回 卒業論文研究発表 1
- 第15回 卒業論文研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 濱野 健 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と社会と自然の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間関係学基礎演習Ⅰ	SEM111M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

- ①人間関係学科の学生らしい「多角的な視点」を身につけてもらうこと。
そのため、この授業では、人間関係に関わるある1つのテーマを設定し、いろいろな学問分野からそれを眺めてみたときに、それぞれ違ったものが見えてくることを体験してもらいます。
- ②「大学4年間の見通し」を立ててもらおうこと。
学科の先輩たちを授業に招き、大学での勉強や生活の全般にわたり体験談を聞き、相談にのってもらおう機会を設けます。

この学科の学位授与方針に基づく到達目標は、以下のとおりです。
人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
自らの考えを適切に表現できる。
人間と社会と自然の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
他者と協力して課題に取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。資料を配布する場合があります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、各教員から紹介する場合があります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 先輩との交流
- 3回 図書館ツアーとレクリエーション
- 4回 図書館ツアーとレクリエーション
- 5回 グループワーク1(2週間、同じ教員)
- 6回 グループワーク1(2週間、同じ教員)
- 7回 グループワーク2(2週間、同じ教員)
- 8回 グループワーク2(2週間、同じ教員)
- 9回 まとめ
- 10回 グループワーク3(2週間、同じ教員)
- 11回 グループワーク3(2週間、同じ教員)
- 12回 グループワーク4(2週間、同じ教員)
- 13回 グループワーク4(2週間、同じ教員)
- 14回 まとめと発表
- 15回 まとめと発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・100%(※欠席はマイナス評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後課題の提出をもとめることがあります(成績評価に影響します)。

人間関係学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業内容に合わせて、頻繁に教室等が変更されるので注意すること。
オリエンテーションには必ず出席し、授業の進め方をよく把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回るときに各教員から一言、メッセージを伝えます。

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習II 【昼】

担当者名 野井 英明 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と社会と自然の関係を分析・検討するための基礎的な研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	自らの考えやグループでの意見を適切にまとめ表現できる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間と社会と自然の関係を多角的に捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間関係学基礎演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では人間関係学科の実験実習の入門演習及び上級生のゼミ参加などを行う。
2年次の実験実習科目の選択、3・4年のゼミ選択に関しては、実際にある程度これらの授業を体験した上で判断することが望ましい。また、2年次以降の科目の履修においても、実践的な実習をした上で学ぶことが効果的である。そこで、この授業では、入門的な実験演習を4つの領域において学び、さらに3・4年生のゼミ、卒業論文発表会、実験実習の成果発表会などに参加することによって、人間関係学科の基礎的な学習を行う

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回～3回 人間関係に関わる実習や観察を行い、レポートを書く。
- 4回～5回 人間に関わる自然・森林・環境に関する実習や観察を行う。
- 6回～7回 心理学に関する基礎的な実験・調査を行い、レポートを書く。
- 8回～9回 量的・質的データから、意味を、差異を、変化を、歴史を了解する。
- 10～11回 スポーツやレクリエーションに関わる実習を行い、レポートを書く。
- 12～13回 ゼミ、発表会などへの参加
- 14回 実験実習の履修の仕方の説明
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、5つの領域の実験実習で出された課題、ゼミ・発表会参加のレポートなどによって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で事前に指示された注意事項に基づいて準備する。授業後は、レポート作成等各回で指定された事項を実行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学概論

PSY100M

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回不応の成り立ちについて【防衛機制】【不応】
- 第13回不応の理解と援助【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第14回カウンセリングについて【心理療法】【カウンセラー】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理学概論 【昼】

キーワード /Keywords

基礎心理学【昼】

担当者名 /Instructor 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 科学の一分野としての心理学についての基礎を正しく理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 心理学的方法に基づいて人間の行動や心の働きについて学んでいける。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎心理学

PSY101M

授業の概要 /Course Description

◆この講義では心理学の基礎を学ぶことによって、人間のこころ（心）の基本的な働きを科学的に理解することを主目標としています。初めて心理学を学ぶ学生は、この授業を受けることによって、正しい心理学の概念やイメージを作り上げることができます。心理学の基礎を正しく理解することができれば、今後、いろいろな心理学の専門分野を深く学んでいくときにひじょうに役立ちますし、大学院に進学して心理学の特定分野を専門的に研究するときにも大いに役立ちます。この授業全体を通した基礎心理学の授業テーマは『心理学イメージの“リセット（再構築）』』です。

◆この授業には、次のような3つの“ねらい”（学習の目あて）があります。

- (1) 心理学は科学（サイエンス）の一分野であることを理解し、説明することができるようになること。
- (2) 心理学では、人間の行動を“観察”（主には実験的観察）したり、心の働きを“理論化”するという科学的方法が用いられているということを理解し、例をあげて説明することができるようになること。
- (3) 心（心理）は、脳の働きであるが、心理学的方法によってその働きを知ることができることを理解し、説明することができるようになること、の三つです。

◆授業で取り上げるトピックは、心理学の歴史、感覚、知覚、認知、学習、記憶、感情（情動）、脳と心です。

◆毎回、教室でできる簡単な「心理学実験」を行いながら、心理学的観察と結果とその理論的説明を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

テキスト（教科書）は使用しません。毎回、ハンドアウト（プリント資料）を配布します。それぞれのトピックで、適切な参考文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 梅本堯夫・大山正編著（1982）『心理学への招待』サイエンス
- ・ 大山正他編（1977）『心理学のあゆみ』有斐閣新書
- ・ 長谷川寿一他（著）『はじめて出会う心理学』有斐閣、2009年 2,000円
- ・ 金見暁嗣（編）『サイコロジー事始め』有斐閣、2003年 2,000円
- ・ オリバー・サックス 『火星の人類学者- 脳神経科医と7人の奇妙な患者』早川書房 1997年
- ・ アイリック・ニュート 『世界のたね- 真理を追い求める科学の物語』NHK出版
- ・ グレゴリー・R.L. 『脳と視覚- グレゴリーの視覚心理学』ブレーン出版

基礎心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(大学での学び、授業の進め方・ルール、実証科学、心理学と占いの違い)
- 2回 「科学史の中で心理学はどのように誕生したか(1)」(科学革命、機械論的生物学、心理物理学、実験生理学、科学的心理学の誕生)
- 3回 「科学史の中で心理学はどのように誕生したか(2)」(情報理論、コンピュータ科学 ⇒ 認知心理学)
- 4回 「心理学はどんな問題を研究しているか」(心理学の分野、研究課題、最先端の心理学)
- 5回 「視力はどのようにして測定されているか」(感覚・知覚・認知と脳の情報処理過程、視力とは)
- 6回 「知覚」(ビデオ学習、ものを見る脳のメカニズム)
- 7回 「3D映画の仕組みは？」(知覚、両眼立体視、3D映画)
- 8回 「錯視をどのようにして科学的に調べるのか」(認知、錯視、サイクロピアン・ビジョン)
- 9回 1～7回のまとめと中間テスト
- 10回 「動物・ヒトはどのようにして新しい行動を学ぶのか」(古典的条件づけ、強化、消去、汎化、道具的条件づけ)
- 11回 「記憶」(ビデオ学習、記憶を支える脳のメカニズム)
- 12回 「記憶はどのような仕組みからできているのか」(記憶の階層構造、感覚記憶、短期記憶、長期記憶)
- 13回 「ヒトはどのようにしてことばを習得するのか」(言語の心理学、動物のコミュニケーション、言語の創造性)
- 14回 「感情や表情はどのようにして生まれるのか」(感情体験、感情と表情、感情の理論、感情の脳内基盤)
- 15回 「脳と心：心の脳科学入門」(脳とは何ものか、神経細胞、活動電位、伝達物質、シナプス、脳と心)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①中間試験30%、②期末試験30%、③ビデオレポート&授業課題40%
以上を総合して、評価します。毎回の授業で行う授業課題での学習を重視しています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習は、このシラバスを見ながら、次回授業のテーマを調べ、テーマに即した参考書を読んでおくこと。
事後学習は、その日の授業のテーマ、学習のポイントなどを復習したり、授業課題を見直したりすること。

履修上の注意 /Remarks

- 毎回、必ずコメントカードを配り、「授業評価」「今日の授業で学んだ最も重要なこと」「質問」「感想」などを書いてもらいます。質問の重要なものは、次の授業でとり上げて回答します。質問も含めて、コメントカードの内容が優れている場合には、ボーナスポイントを総合点に加点(1回につき5点)します。
- 授業マナーは、かならず守ってください。(授業中、私語はしない。携帯電話、中途退室、遅刻など)
- 図書館で少なくとも1冊は心理学関係の専門書を読むこと。授業ではプリント資料を配布するので、講義中に講義を聞きながらメモを取っておくと同時に、次回の講義の前に必ずプリントやメモに再度目を通して復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

話を聞きながら、重要なポイントをメモしたり、自分の考え・疑問をメモしたり、あるいは教師に質問したりしながら、自分で学ぶという技術はひじょうに重要です。これを大学における『学習スキル』と言います。大学では、どの授業でも学習スキルを身に着け、それをだんだんと磨いていくように、自分なりの方法で努力してください。

キーワード /Keywords

脳と心、科学と占い、実験観察、心理学的研究法、心理学史、基礎心理学

社会学概論 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会学を学ぶ上での基礎的な思考の枠組みを理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの社会事象について、客観的な視点からの理解や把握を可能にする。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会学概論

SOC100M

授業の概要 /Course Description

社会科学の方法論を理解する。社会学の古典を精読することで、社会学の基礎的な思考方法や方法論について学ぶ。社会事象を社会的に考察するための基礎的な知識を習得する。次年度以降の専門科目のための基礎的な理論を習得する。

教科書 /Textbooks

E. デュルケム『自殺論』（中公文庫）、
M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「社会学がわかる」コーナーに配架された基礎文献等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 イントロダクション
- 2回 社会学とは何か【社会学】
- 3回 近代社会とは何か【モダニティ】
- 4回 社会学の方法①【方法論的集団主義】
- 5回 自殺論 1【意味的行為の理解の仕方】
- 6回 自殺論 2【自己本位的自殺】
- 7回 自殺論 3【アノミー的自殺】
- 8回 社会学の方法②【方法論的個人主義】
- 9回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 1【近代批判としてのマックス・ウェーバー】
- 10回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 2【キリスト教と禁欲：ルターとカルバン】
- 11回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 3【予定説の意味と現代社会】
- 12回 社会の維持と社会の変動【構造-機能主義】
- 13回 社会分析の方法【機能分析】
- 14回 意味と社会【意味論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの指定された範囲には事前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1

SOW100M

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
- 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
- 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
- 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイスティック】
- 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
- 9回 社会福祉の歴史（イギリス） 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 10回 社会福祉の歴史（日本） 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】 【賀川豊彦】
- 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
- 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
- 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジュメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉とは何か①【オリエンテーションと社会福祉への理解】
- 2回 社会福祉とは何か②【社会福祉の政策・支援・対象】
- 3回 児童福祉政策の主要な論点と課題①【児童虐待の現状と考え方】
- 4回 児童福祉政策の主要な論点と課題②【児童福祉法と児童虐待防止法】
- 5回 児童福祉政策の主要な論点と課題③【児童相談所の役割と機能】
- 6回 児童福祉政策の主要な論点と課題④【子ども・家族・社会のあり方と虐待防止のための課題】③【】
- 7回 障がい福祉政策の主要な論点と課題①【障がいのある人と近・現代社会】
- 8回 障がい福祉政策の主要な論点と課題②【障がいのある人と社会思想】
- 9回 障がい福祉政策の主要な論点と課題③【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 10回 障がい福祉政策の主要な論点と課題④【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 11回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題①【高齢者の福祉とは何か】
- 12回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題②【介護保険法の成立と課題】
- 13回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題③【介護保険制度のしくみと課題】
- 14回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題④【介護保険制度に位置づく専門職者の役割と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、国民の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

講義の都度に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会と福祉 2 【昼】

キーワード /Keywords

権利と義務、自立、生活問題

人間環境概論 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然の関係や問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境概論

ENV100M

授業の概要 /Course Description

環境問題は早急な対応が必要な世界共通の課題です。その解決のためには、環境の正しい理解が必要であることはいうまでもありませんが、（環境問題を引き起こした）人間と環境の関係について考えをめぐらせる必要があることは、顧みられないことが多いと思われます。この授業では、環境問題とともに、環境（自然）と人間との関わりについて理解することを目的としています。

この授業の学位授与方針に基づく到達目標は、以下の通りです。
人間と自然環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。
人間と自然の関係や問題に関心を持ち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜プリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 只木良也「森と人間の文化史」（NHKブックス）
- 樋口忠彦「日本の景観」（ちくま学芸文庫）
- 有岡利幸「里山III」（法政大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球環境の概観 【地球史の中で考える環境問題】
- 2回 環境問題のしくみ1 【代表的な環境問題：地球温暖化とオゾン層の破壊】
- 3回 環境問題のしくみ2 【環境問題は自然界のバランスの破壊である】
- 4回 私たちの住んでいる場所・今という時 【自然の猛威と災害】 【現在は歴史の流れの一部である】
- 5回 環境と文明1 【文明は環境変動の中で生まれては消滅してきた】
- 6回 環境と文明2 【パラダイムの変遷】
- 7回 1～6回のまとめ
- 8回 森林の多面的機能
- 9回 農山村と環境1 【地形と村落景観】
- 10回 農山村と環境2 【山村問題と住民生活】
- 11回 森林資源と利用1 【森林伐採と林業史】
- 12回 森林資源と利用2 【木造住宅と木の文化】
- 13回 森林資源と利用3 【世界の林産物と日本】
- 14回 竹林と地域社会
- 15回 8～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井（1回～7回）小テストまたはレポート...50%
岩松（8～15回）レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連するテレビ番組やニュースなどを見ると、この授業を受ける意欲が高まると思います。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

人間環境概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球環境 文明 環境変動 農村 森林

人類学概論【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人類学に関する専門的な知識の獲得。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化相対主義と人類の生物的普遍性について理解する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人類学概論

ANT100M

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解するには、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

人間と自然と社会の相互作用に関する専門的な知識を身につけると同時に、主体的に学ぶ方法論を実践することがこの講義の達成目標となる。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「人間らしさとはなにが？ 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言！ 生活世界の深層へ / から」松田 素二
- 「熊から王へ」中沢新一
- 「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝
- 「身体の零度」三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

人類学概論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する	...	20%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える	...	20%
講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する	...	20%
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出	...	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板を設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。インタラクティブな学びを意識すること。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができている人が受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

教育学概論【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人間関係の諸問題について教育的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育学概論

EDU100M

授業の概要 /Course Description

教育学概論では、学校や市民生活における課題のとらえ方、その克服の視点・方法・実践について基礎的な理解について考えていく。講義においては、以下の柱を中心として学習を進めていく。

- ①教育に関する基礎的な概念を通して「教育とは何か」ということの検討
 - ②今日の青少年の人格発達の危機をめぐる諸問題とその克服に向けての教育指導の課題の検討
 - ③現代社会における生涯学習・生涯教育の意義と課題の検討
 - ④人間形成と教育、子どもの教育環境についての検討
- こうした検討を踏まえて、人間形成と教育の違い、教育の意義や課題について理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、4名の教員によって行われます。

- 1回 教育とは何か-教育学の視座-
- 2回 臨床教育学の視点から1 -児童虐待やネグレクトなど乳幼児期問題
- 3回 臨床教育学の視点から2 -いじめ・不登校など学童期問題
- 4回 臨床教育学の視点から3 -思春期問題
- 5回 臨床教育学の視点から4 -若者・成人の課題
- 6回 主体形成のプロセスと援助1 -家庭と子ども
- 7回 主体形成のプロセスと援助2 -子どもの遊び
- 8回 主体形成のプロセスと援助3 -被災と子ども
- 9回 主体形成のプロセスと援助4 -子ども自身が学ぶ
- 10回 主体形成のプロセスと援助5 -デンマークの教育と日本
- 11回 教育行政学の視点から1 -学ぶことと子どもの権利
- 12回 教育行政学の視点から2 -学校と子どもの権利
- 13回 教育行政学の視点から3 -父母・住民の権利
- 14回 教育行政学の視点から4 -生涯学習する権利とその保障
- 15回 まとめ -教育学の視角と意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
(試験は、3人それぞれの担当者から各25点で出題、その合計点で評価します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、指示に従い、テーマについて予習する。
事後は、講義内容を踏まえて、自分の見解を整理する。

教育学概論【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回の内容を復習し、担当教員ごとに講義の内容について、自分なりの意見を整理していくと効果的な履修になると同時に、試験への準備になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	これからの健康やスポーツ活動において、必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自分自身の健康やライフスタイルに問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯スポーツ学概論

HSS100M

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。それは、学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことの楽しさや健康思考への認識の高まりといえるのではないだろうか。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ(全9巻) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アスリートからの視点
- 2回 スポーツの発祥
- 3回 生涯スポーツについて(1) 【自己実現】 【体育とスポーツ】
- 4回 生涯スポーツについて(2) 【Q.O.L】 【楽しむスポーツ】
- 5回 スポーツマンシップについて
- 6回 ドーピングと薬物について
- 7回 種目の特性(野球とサッカー)
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 加齢と運動
- 11回 余暇と生活
- 12回 女性の運動・スポーツ
- 13回 スポーツの楽しみ方
- 14回 障がい者のスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯スポーツ学概論 【昼】

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、QOL

心理学実験実習I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 近藤 倫明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	心理学的な諸現象の実験的手法および分析の技法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	心理学実験で行った客観的事実及び主張を読み手にわかるように表現する。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	心理学実験における実証的なアプローチを実社会において応用する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して心理学実験を円滑に進めることができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習 I

PSY280M

授業の概要 /Course Description

心理学の基礎実験を計画、実施し、そのデータ整理、レポート作成の一連の流れを実験者、実験参加者として実際に体験し、心理学における「こころ」を測定するための方法を実践的な実験を通して学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を学ぶ。
2. 心理学実験において誤差を少なくするためにどのようなことをすべきか、誤差を考慮したデータ処理としてどのようなことをすべきかの技法を身につける。
3. 実験で行った客観的事実及び自分の主張をレポートして読み手にわかるように表現することができるようになる。
4. 心理学実験における実証的な検証が実社会とどのように結びつくかを学ぶ。
5. 心理学実験において実験が円滑に実施できるように、実験参加者に対してどのような配慮をすべきかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市川伸一 『心理測定法への招待』サイエンス社
- フィンドレイ 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房
- 利島保 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』筑摩書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【実験】
 - 第2回 触2点閾の測定 【触覚】【弁別閾】
 - 第3回 盲点の大きさの測定(1) 実験の実施 【盲点】
 - 第4回 盲点の大きさの測定(2) 盲点の大きさの推定
 - 第5回 長さの弁別閾の実験(1) 集団による実験 【弁別閾】【ウェーバーの法則】【心理測定関数】
 - 第6回 長さの弁別閾の実験(2) 個人実験と2つの実験の比較
 - 第7回 心理尺度の構成(1) 一対比較法による実験 【心理尺度】【一対比較】
 - 第8回 心理尺度の構成(2) サーストンの比較判断の法則による尺度化 【間隔尺度】
 - 第9回 幾何学的錯視の測定(1) 内向・外向図形による実験 【ミューラーリヤー錯視】
 - 第10回 幾何学的錯視の測定(2) 内向単独効果の実験 【遠近法説】
 - 第11回 フィッツの法則の実験(1) 実験実施 【Fittsの法則】
 - 第12回 フィッツの法則の実験(2) フィッツの法則の検証 【回帰分析】【インタフェース】【速さと正確さのトレードオフ】
 - 第13回 無意味綴りの記憶 【学習曲線】【系列位置曲線】【リハーサル】
 - 第14回 心理学実験における倫理 【人権】
 - 第15回 授業全体のまとめ
- (実験の順序は変更する場合がある。4年生の卒業研究実験等に参加する場合がある。)

心理学実験実習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート100%

実験テーマごとに課されるレポートを必ず提出すること。提出されたレポートは添削をして学生に返却する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実験後、科学的論文としてのレポート作成。

履修上の注意 /Remarks

「心理統計」の授業を受講しておくことが望ましい。

図書館で少なくとも1冊は心理学実験関係の専門書を読むこと。実験を行うので動きやすい服装などに気をつける。データ処理には電卓を使用。

図表を描く定規など必要なものを準備すること。

授業後、授業中にできなかった図表の作成およびレポートの完成をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師
門馬 一平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力 (学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査に関する基本的な作法を学ぶ。
技能	専門分野のスキル	● フィールドワークに関する実践的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 研究成果を人に伝えるための技能を習得する。
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)	● 現場での調査実践を通して、課題解決のための力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 現場での調査実践を通して、対人的なコミュニケーション技能を身につける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (フィールドワーク)	ANT280M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

フィールドワークをの入門として、知らない人に会ってはなしをしたり、自分が知りたいことを教えてもらうためのノウハウを学ぶ。
まず、自分がいままですと持っている疑問や、興味のあることを明らかにして、何を調べるかを考える。
つぎに、調べたいことを知るためにはどんな方法があるのかをみなで議論しながら検討する。
それから、実際に外に出て町をみたり人に会ったりする。
さらに、自分が聞いてきた話にどんな意味があるのか、そこにどんな発見があるのかを分析する。
そして、長年の謎を解きおもしろさを見つけ出す。
さいごに、そのおもしろさを人に伝える。プレゼンテーション力を磨く。
実践的に学んでいく

教科書 /Textbooks

興味や調査対象に応じて個別に提示する

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィールドワークは楽しい (岩波ジュニア新書) 岩波書店 / 岩波書店
フィールドワークへの挑戦 (実践) 人類学入門 菅原和孝 / 世界思想社
躍動するフィールドワーク研究と実践をつなぐ 井上真 / 世界思想社
京大式フィールドワーク入門 京都大学/京都大学東南アジア研究所 / NTT出版
高齢化社会における介護者と被介護者の研究地域看護学によるフィールドワークと考察 芝山江美子 / 新風舎
学生のためのフィールドワーク入門 アジア農村研究会 / めこん
老いと障害の質的社会学-フィールドワークから
山田富秋 / 世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習期間を三段階のフェーズにわけ少しずつスキルを高めていく。
■調査計画(planning):1-2
自分の知りたいことをみつける。
■予備調査(field-work) 手法検討(discussion):3-4
人の話をどうやって聞くのか。他者との接点をどう築いていくのか
■本調査(field-work) 資料検討(discussion):5-7
得られた資料の傾向や関連性を考える。ほかにどんな資料が必要か
■資料分析(desk work)考察検討(discussion):8-9
資料から導き出されるもの、発見されたものの意味を考える
■補足調査(field-work):10
考察に基づき不足する資料を補う
■提示検討(discussion):11-14
発見したもの、考察したものを提示し、内容を検討する。どうやって人に伝えるかを考える
■発表会(presentation):15
調査によって明らかにされたことを人にわかるように伝える 資料と結果をレポートにまとめる

社会調査実習（フィールドワーク）【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

調査計画での議論... 40 %
調査研究... 20 %
考察検討... 20 %
発表... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、5つくらいの研究テーマ、自分が調べてみたいものを考えておく。

履修上の注意 /Remarks

指示を待つのではなく自分で状況を判断するトレーニングをおこなう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークの楽しさを知るための実習でもある。いろいろなことをおもしろがってほしい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学

社会調査実習 (サーベイ) 【昼】

担当者名 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 (ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査の目的や、そのために妥当な各種の方法論を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 計量的な手段を用いて、社会調査を計画・実施することができるようになる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自身の研究調査の目的と、その成果を公的な場で適切に報告するためのスキルや、そのための具体的な技法を身につける。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 研究課題に対して、課外での対人調査活動を実施する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● グループワークと対人調査を通して、他人との関わりの中で自身の研究目的や、その意義を高め合う。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (サーベイ)

SOC280M

授業の概要 /Course Description

社会調査とは何かについて学習した後、主に量的調査(アンケート調査)の基本を学ぶ。班別に学内外で実際に調査を行い、調査報告書を作り、調査結果の発表をする。とりわけこの実習では、社会学、社会福祉学、教育学など分野での量的調査を実践的に学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか(編)『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査とは何か・オリエンテーション(サーベイとフィールドワーク)
- 2回 調査の手順概説・例示
- 3回 調査テーマのためのブレン・ストーミング
- 4回 調査テーマ決定、班分け
- 5回 質問紙の設計
- 6回 質問紙の制作、印刷
- 7回 プリテストと調査票修正
- 8回 本調査実施準備と実施
- 9回 集計方法の概説
- 10回 集計の実施
- 11回 集計結果の確認
- 12回 報告書作成についての講義
- 13回 報告書作成
- 14回 報告書の点検、製本
- 15回 発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% 報告書 50% 発表 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

先行研究を調べるなど、調査実施において必要となる準備や手続きを課する。

履修上の注意 /Remarks

前期開講科目「社会調査の基礎」の履修をしておくことが望ましい。
欠席は、班の他のメンバーに迷惑がかかる他、報告書が作れなくなるので、極力避けること。
学外で実習は開講時間外になることもある(週末等もあり得る)も理解した上で履修すること。
先週までの実習の進捗状況を確認した上で出席すること。

社会調査実習（サーベイ）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三年次のゼミ選択を意識した上で選択してください。

キーワード /Keywords

人間環境実験・実習【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 (ペア) / 授業形態 /Class Format 実験・実習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と自然との関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境実験・実習

ENV280M

授業の概要 /Course Description

この科目では、フィールドや室内での実習と観察を通して環境と人間の関わりを考えるとともに、その研究手法について学びます。この科目には、「自然の中にいる楽しさを知る」、「自然と人間の関わりを考える」、「自然と人間の歴史を考える」という3つのテーマがあり、それらに基づいて、フィールドワークや実習が設定されています。

人間関係学科の各領域では、フィールドワークや実験が研究の基礎的手法となっているものが多くあります。この科目はそのような手法を学ぶ科目の一つです。「百聞は一見に如かず」という諺の通り、学習の中でも自分の手と目と耳で経験することはとても大切です。

この授業の学位授与方針における主な到達目標は、以下の通りです。

- 人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
- 人間と自然との関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。
- 人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。
別途配布の「手引き書」に従って進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション スケジュールと安全学習
- 2～5回 ☆貫・曾根地区の自然と文化（地形と文化と歴史をフィールドで考える）
- 6回 人間と環境の関係を遺跡から考える（遺跡見学）
- 7回 植生がどう変わってきたかを調べる（花粉分析）
- 8～11回 ☆森林を豊かに保つ営み（森林観察と人工林施業体験）
- 12回～15回 ☆求菩提山の景観と信仰（山や森への神聖感と自然の内在的価値をフィールドで考える）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80 % 授業態度...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布する「手引き書」をよく読んで、内容を理解しておきましょう。実習ごとにレポートの提出が必要です。実習後は、実習中のメモを整理して、実習内容について他者に的確に伝わる文章でレポートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

実習が中心の科目ですから積極的に参加することが望まれます。
野外での活動が多くあります。授業計画・内容の欄で、☆のついたテーマは、時間割上の時限ではなく土曜日、日曜日または祝日に集中的に実施します。予定している授業計画・内容は、天候やフィールドの状況等の事情により変更されることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科, 高西 敏正 / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 施設見学や地域スポーツ活動を通して、基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● グループ活動・スポーツ活動において、社会実践の技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 課題を多角的に考えながら、実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と協力して、目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯教育・生涯スポーツ実習

EDU280M

授業の概要 /Course Description

子どもから高齢者を対象とする生涯教育や生涯スポーツに関わる活動のニーズの把握、事業・指導計画、生涯学習施設の経営など、生涯学習社会の構築に関わる専門的能力の育成(専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上、技術の習得)及び学習者とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

そのため、生涯教育・生涯スポーツに関わる施設や職員、市民活動などについて見学や体験、実習を行いながら、学習を支援する視点や技能を高めていきます。また活動についての聞き取りやアンケートなどを行いながら、支援者や学習者・参加者の視点や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

適時、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム・スポーツ
- 3回 障がい者スポーツプログラム(1) 講義1
- 4回 障がい者スポーツプログラム(2) 実習2「車椅子バスケット」
- 5回 北方小学校運動プログラム(1) プログラム考案
- 6回 北方小学校運動プログラム(2) プログラム実行
- 7回 北方小学校へ運動プログラム実施(3) プログラム指導
- 8回 高齢者との交流プログラム(周望学舎)
- 9回 生涯教育の現状
- 10回 施設見学(子育て交流ふれあいプラザ)
- 11回 生涯教育支援の技法(1) ワークショップ1(コミュニケーションワークショップ)
- 12回 生涯教育支援の技法(2) ワークショップ2
- 13回 生涯教育支援の技法(3) ファシリテーション
- 14回 生涯教育・生涯スポーツの意義や課題についての考察
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...70% 課題レポート...30%

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

スポーツ・レクリエーションなどの活動時には、運動ができる服装と体育館シューズが必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部の方々と積極的に関わりを持つように心がけましょう

キーワード /Keywords

国際関係の理論 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

国際関係の理論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係の争点【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性について理解している。
技能	専門分野のスキル	● 国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジュメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』有信堂高文社、2015年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
 - 第2回 「アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【中国の台頭】【リバランス戦略】
 - 第3回 「アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【防衛装備移転三原則】【集団的自衛権】
 - 第4回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】【恐怖からの自由】【欠乏からの自由】
 - 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【コンゴ紛争】【ルワンダ内戦】【内政不干渉原則】
 - 第6回 「保護する責任」(2)【介入と国家主権に関する国際委員会】
 - 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】【ディアスポラ】
 - 第8回 「アフリカ情勢」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
 - 第9回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
 - 第10回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
 - 第11回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
 - 第12回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
 - 第13回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
 - 第14回 「フェアトレード」【フェアトレードタウン】【倫理的消費】
 - 第15回 まとめ
- ※順番は入れ替わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・40% (10回×4%) 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジュメを前週の金曜日を目処にイントラ上にアップします。受講生は事前に目を通しておくように。また、事後学習として、講義の要点について提出を求めます(10回、Moodleを活用する予定)。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

国際関係の争点【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会

HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半は一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』（吉川弘文館1982年）
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館1986年）
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』（東京大学出版会1995年）
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』（平凡社1987年）
- 高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書1992年）
- 網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社1978年）
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

日本の歴史と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の注意を行うので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようになっています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

博物館経営論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全10巻(雄山閣)
網干善教編『博物館学概論』(関西大学出版)
『月刊 博物館学研究』(日本博物館協会)
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』(学苑社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての博物館
- 2回 「博物館法」の理念と事業
- 3回 博物館の世代と推移(機能と変遷)
- 4回 博物館の設置及び経営方針の策定
- 5回 博物館運営状況の点検と評価
- 6回 博物館資料の収集と保管
- 7回 博物館資料の展示と調査研究
- 8回 利用者への学習機会と情報の提供
- 9回 学校・家庭及び社会との連携
- 10回 博物館の組織(職員配置と研修)
- 11回 施設及び設備と危機管理
- 12回 事業計画と予算編成
- 13回 博物館経費の運用
- 14回 費用対効果の点検(コストの効率化)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついで、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意 /Remarks

講義のポイントをしっかりとメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード /Keywords

地域貢献とコスト意識。

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。

具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『月刊 文化財』(文化庁)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版)
- ・ 大塚哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 博物館資料と博物館法について
- 2回 博物館資料の分類
- 3回 博物館資料の収集の方法と理念
- 4回 博物館資料の整理と分類
- 5回 博物館資料の調査・研究
- 6回 博物館資料の取り扱い
- 7回 博物館資料としての古文書
- 8回 博物館資料としての絵画
- 9回 博物館資料としての近代文化遺産
- 10回 博物館資料と教育普及事業
- 11回 美術館資料の展示について
- 12回 博物館資料の保存・修復について
- 13回 博物館資料の諸権利について
- 14回 博物館資料の再評価と可能性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
- ・ 授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくこと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
- ・ 新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても物を大切にすることを身につけてほしい。

博物館資料論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論【昼】

担当者名 渡抜 由季 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

資料を適切な環境で保存・管理することは博物館の重要な使命である。
本講義では、博物館資料の保存に必要なとされる技法・材料と環境因子、資料の調査方法等について講義する。
また、博物館における資料の保存環境について実例も紹介し、理解しやすい授業をめざす。
到達目標として、保存環境・展示環境を科学的・人文的に捉え、適切な判断できる能力が学芸員に求められている。
ここでは資料保存に関する基礎的能力を養う。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『博物館資料保存論』石崎 武志(著)、講談社、2012年
- 『文化財の保存環境』独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所(編)、中央公論美術出版、2011年
- 『人文系 博物館資料保存論』青木豊(編)、雄山閣、2013年
- 『博物館資料の臨床保存学』神庭信幸(著)、武蔵野美術大学出版局、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマと内容

- ①ガイダンス(博物館における資料保存の意義)
- ②文化財保護の歴史と展開(文化財保護法と文化財公開施設の計画に関する指針)
- ③収蔵、展示などの保存環境資料の保存環境(ゾーニング、構造、メンテナンス、危機管理)
- ④資料保存の諸条件とその影響(材料と環境因子(温湿度、光、振動、大気等)の関係)
- ⑤生物被害とIPM(生物被害の概要、対応策の変遷)
- ⑥伝統的保存方法(曝涼、虫干し等の伝統的な保存展示運用、正倉院の保存環境)
- ⑦資料の保全(材料調査、構造調査、環境調査)
- ⑧資料の状態調査・現状把握(絵画の状態調査)
- ⑨資料の修復・修理(絵画の修復・修理)
- ⑩資料の梱包と輸送(絵画の梱包と輸送)
- ⑪屋外彫刻の保全(屋外環境の問題点と対応策)
- ⑫現代美術の保存と修復(生物の展示、タイムベースドメディアと媒体の保存と記録等)
- ⑬災害予防と対策(自然災害-東日本大震災の文化財レスキューの事例を中心に、免震台)
- ⑭文化財の保存と活用(博物館と地域の関わり、ボランティア等)
- ⑮まとめ(レポート)

成績評価の方法 /Assessment Method

3分の2以上の出席は必須。小テスト4回(80%)とレポート(20%)を合わせて評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員が作成した資料を配付しますが、新聞雑誌、図書、ウェブ等を通して情報収集してください。また、資料保存という視点で実際に美術館・博物館に足を運んでみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館展示論 【昼】

担当者名 門田・北九州市立文学館・北九州市漫画ミュージアム
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。

第4回～第11回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアムと北九州文学館の学芸員をお招きして学内で行います。ただし第7回の授業は、漫画ミュージアムへの学芸見学の予定です。(詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明します。)

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)
- ・表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが出会うとき』(臨川書店、2009年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「展示」の意味について
- 第2回 人文系博物館の展示と自然系博物館の展示
- 第3回 美術館・博物館の展示の企画
- 第4回 美術展示とマンガ展示の差異
- 第5回 マンガ資料の特性とその学術的意義
- 第6回 地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
- 第7回 展示設計と企画展マネジメント
- 第8回 マンガ展示は誰のために
- 第9回 文学館の展示概論
- 第10回 文学館の展示パネル・キャプション
- 第11回 文学館の図録
- 第12回 美術館・博物館の展示作業
- 第13回 美術館・博物館の展示と解説
- 第14回 美術館・博物館の在り方(評価と社会性について)
- 第15回 まとめ

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10% 課題レポート 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょうか？また多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるのでしょうか？

この講義では、美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。より広い視点でこれからの美術館・博物館の教育的役割を考えるため、美術館・博物館以外の文化施設、芸術祭、NPOなどによる取り組みも紹介したいと思います。

受講者は、期間中、美術館・博物館が行う教育プログラムについて調査を行い、最後に北九州の状況を踏まえた教育プログラムを作成することを求められます。本講義を通し、これからの美術館・博物館の役割についてより具体的に考えることができればと思います。

教科書 /Textbooks

ありません。レジュメ、資料を必要に応じて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション (講義の軸となる考え方と事例の紹介)
2. 博物館教育の原理 (歴史的・理論的背景)
3. 今日の博物館教育 (国内外における近年の動向)
4. 事例 博物館と教育 (生涯学習・学校教育との連動)
5. 事例 博物館と市民1 (人生と文化)
6. 事例 博物館と市民2 (社会の多様化と博物館)
7. 事例 博物館と地域社会1 (伝統を記録する)
8. 事例 博物館と地域社会2 (地域の記憶と向き合う)
9. 事例 博物館と産業 (観光と文化産業)
10. 実地研修
11. プレゼンテーション1 (実地研修レポート)
12. 教育プログラム演習 (企画をたてるまで)
13. 教育プログラム演習 (企画のつくり方)
14. プレゼンテーション2 (教育プログラム企画)
15. これからの博物館教育 (フィードバックとまとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：10% 実地研修レポート：20% 教育プログラム企画書：20% プレゼンテーション：20% 授業への取り組み：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 日頃から積極的に博物館・美術館を訪れ、ワークショップなどにも参加してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 対話・演習による授業のため、出席と参加態度、議論への貢献を求めます。
- ・ 実地研修は講師が候補を提示し、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。費用は受講者負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけでなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

博物館 美術館 キュレーター エデュケーター 教育普及 アウトリーチ ワークショップ キュレーション

博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 /Instructor 那須 孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館の仕組みや芸術と日常との接点について洞察しながら、現代社会における博物館メディアの現状と今後を考える。同時に、事例として世界最初の万博である1851年のロンドン万博の頃から現代までの約150年間をめぐる国内外の芸術表現、思想を幅広く概観することで、社会や日常生活へ反映されていく情報メディアの実態を探る。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
森山朋絵監修『映像体験ミュージアム』工作舎

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 メディアとは何か ~メディア社会の博物館
- 2回 メディアとは何か ~美術館学芸員の視点から
- 3回 芸術・メディア・社会(1) 1960年代の芸術動向を事例に
- 4回 芸術・メディア・社会(2) 芸術メディアの社会性(レポート作成)
- 5回 「原安三郎コレクション 広重ビッド展」視察(北九州市立美術館分館で現地研修)
- 6回 視覚メディアの歴史(1) 人類は視覚メディアをどのように捉えてきたのか
- 7回 視覚メディアの歴史(2) 現代へつながる視覚メディアの技術(レポート作成)
- 8回 芸術・メディア・社会(3) 19世紀における絵画と写真の関係
- 9回 芸術・メディア・社会(4) 20世紀における視覚表現の多様性1
- 10回 「ヴラマンク展」視察(北九州市立美術館分館で現地研修)
- 11回 芸術・メディア・社会(4) 20世紀における視覚表現の多様性2(レポート作成)
- 12回 社会へのメッセージ(2) 現代におけるメディアの活用事例
- 13回 社会へのメッセージ(3) 現代におけるメディアの多様性を考察する
- 14回 メディアとしての博物館 ~博物館の役割をメディアの観点から考察
- 15回 著作物とメディア ~アーティストとアート作品の関係

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50パーセント
定期試験 30パーセント
日常の授業への取り組み 20パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する予習はとくに求めないが、授業のあとは、内容に関連するニュースや歴史などのメモをとるよう心掛けること。
また、そうした社会動向に対して自身の意見をまとめるよう心掛けること。

履修上の注意 /Remarks

北九州市立美術館分館での学外授業を2回予定。
授業開始までに各自前回の復習を行っておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

映像資料を交えながら講義するほか、学外授業も行う。また、テーマごとにレポート作成を行う。
講義を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、自主的に深く洞察する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

博物館 展覧会 視覚メディア オリジナリティ アーカイブ 社会と法律

博物館実習I【昼】

担当者名 野井・門田 他
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」では、実際の博物館相当施設での館園実習の事前教育として、北九州市内の博物館相当施設の見学実習と学内での実務実習を行います。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。

- 第1回 事前学習
- 第2回 見学実習もしくは実務実習①
- 第3回 見学実習もしくは実務実習②
- 第4回 見学実習もしくは実務実習③
- 第5回 見学実習もしくは実務実習④
- 第6回 見学実習もしくは実務実習⑤
- 第7回 見学実習もしくは実務実習⑥
- 第8回 見学実習もしくは実務実習⑦
- 第9回 見学実習もしくは実務実習⑧
- 第10回 見学実習もしくは実務実習⑨
- 第11回 実習II報告会(予定)
- 第12回 見学実習もしくは実務実習⑩
- 第13回 見学実習もしくは実務実習⑪
- 第14回 見学実習もしくは実務実習⑫
- 第15回 事後学習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度と実習日誌で100%評価する。
施設見学を欠席した場合は各自で見学して実習日誌に記入すること。
理由如何を問わず3回以上欠席は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には、次に行く博物館について、インターネット等で調べておきましょう。授業後は、説明内容、見学内容について、授業中に作成したメモに基づいて、博物館実習日誌に消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)を用いて記録してください。

履修上の注意 /Remarks

博物館実習Iは博物館実習IIと2学期連続して取らなければならない。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。
事後学習学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されない所以要注意。
また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II【昼】

担当者名
/Instructor

野井・門田 他

履修年次 4年次
/Year単位
/Credits

1単位

学期
/Semester1学期(ペア) 授業形態
/Class Format

実習

クラス 4年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館園実習です。博物館相当施設において30時間以上(5日間以上)の実習を行います。その内容は施設によって違います。

実習は本学が博物館・美術館に依頼して実施されますが、担当学芸員はじめ館員の方すべてが、業務の傍らで時間を割いて機会を作ってください。初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。

ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)

「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。

第2回以降は各施設の指定する実習期間と12月に予定している実習報告会とする。

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分5~10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。

「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

- イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
- ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
- ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日誌に記載された担当学芸員の評価と実習報告会での報告内容により100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実習を行う博物館についてインターネットなどで、調べておきましょう。また、当該館が扱う分野(たとえば、歴史、自然史)についての基礎的知識を学んでおきましょう。毎日の実習内容を、当日のメモをもとに十分に練られた文書を作成したうえで、博物館実習日誌に記録してください。

履修上の注意 /Remarks

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。
各自で損害賠償保健に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣・2015年）
※基本的に配布するレジユメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
笹倉秀夫『法学講義』（東京大学出版会・2014年）(図書館蔵書：○)
※このほか、講義中に板書・レジユメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か（1）【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か（2）【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か（3）【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法（1）【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法（2）【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法（3）【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法（1）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法（2）【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法（1）【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法（2）【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進捗等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこようようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

政治学 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、①「政治」が必要であること理由、②戦後日本における政治過程、③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など、政治学の基盤となる理論や概念について概説します。また本講義では、現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し、その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木寺元編(2016)『政治学入門』弘文堂。
砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社。
伊藤光利編(2009)『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』有斐閣。
加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦(2012)『現代政治学(第4版)』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【政治と政治学】【規範】【実証】
2. 政治と権力(1) 【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3. 政治と権力(2) 【権力】【権威】
4. 日本の政治(1) 【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
5. 日本の政治(2) 【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
6. 日本の政治(3) 【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
7. 政治制度 【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
8. 政党制度 【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
9. 議員と官僚 【官僚主導】【政治主導】【本人—代理人理論】
10. 地方政治(1) 【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
11. 地方政治(2) 【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
12. 市民と政治(1) 【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
13. 市民と政治(2) 【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
14. 国際政治 【リアリズム】【コンストラクティビズム】【紛争発生】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：80%
- ・ 講義への参加の積極性（リアクションペーパー）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください。また、各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているため、それら文献を読むなどの復習をしてください。

政治学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上、授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので、積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが、本講義では、むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています。政治学の知見の習得を通じて、さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

社会科教育法C 【昼】

担当者名 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司 編 学文社 2007）
他に授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
- 第 2 回 社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
- 第 3 回 地理的分野の目標とその取り扱い
- 第 4 回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 5 回 公的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 6 回 社会科の授業づくり 教材研究
- 第 7 回 社会科の授業づくり グループワークについて
- 第 8 回 社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第 9 回 社会科の授業づくり 体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて
- 第 10 回 社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第 11 回 単元計画と学習指導案 1 指導案の作成と留意点
- 第 12 回 単元計画と学習指導案 2 年間計画と指導案作成
- 第 13 回 政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第 14 回 社会科教師に求められる資質・能力
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加） 30%
ミニレポート（毎授業後に提出） 40%
学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 学習指導要領解説について読み込んでおく。発表資料の作成。

事後学習 学習指導要領解説について読み込みながら、関連する事例や実践について検討する

履修上の注意 /Remarks

- ・ グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
 - ・ 発表や簡単なレポート課題の提出があります。
- 授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科学教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科学教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。(4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版(平成25年)定価167円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 学習指導案の作成
- 第 3回 模擬授業(地理的分野①)【世界地理・総論】
- 第 4回 模擬授業(地理的分野②)【世界地理・各論】
- 第 5回 模擬授業(地理的分野③)【日本地理・総論】
- 第 6回 模擬授業(地理的分野④)【世界地理・各論】
- 第 7回 模擬授業(歴史的分野①)【原始・古代】
- 第 8回 模擬授業(歴史的分野②)【古代・中世】
- 第 9回 模擬授業(歴史的分野③)【中世・近世】
- 第 10回 模擬授業(歴史的分野④)【近世・近現代】
- 第 11回 模擬授業(公民的分野①)【憲法】
- 第 12回 模擬授業(公民的分野②)【政治】
- 第 13回 模擬授業(公民的分野③)【経済】
- 第 14回 模擬授業(公民的分野④)【現代社会】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版 320円＋税
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円＋税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり アクティブラーニングについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【昼】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 授業の際に配布するレジュメ・資料等
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版（平成22年）定価336円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 谷田部玲生ほか『高等学校 現代社会』第一学習社（平成26年）定価610円
- ・ 伊東光晴ほか『高校 現代社会』実教出版（平成25年）定価610円
- ・ 三浦軍三ほか『高等学校 政治・経済』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 宮本憲一ほか『高校 政治・経済』実教出版（平成26年）定価450円
- ・ 越智貢ほか『高等学校 倫理』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 矢内光一ほか『高校 倫理』実教出版（平成25年）定価450円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6回 学習指導案の作成
- 第 7回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第 12回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第 13回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第 14回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 15回 まとめ（主権者教育など）

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【昼】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習 2 と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習 2 と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習 3 のみ受講の場合は教育実習 2 で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習 2 の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門
			IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【機械化の進行】
- 7回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 11回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 12回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 13回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 14回 古代世界の公共空間（1）【ギリシャ概説】
- 15回 古代世界の公共空間（2）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障と防衛(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障と防衛(2)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面(エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面(国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題40%、期末テスト60%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は参考書入手し、授業に備えること。
- ・ 2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方 【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1 【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2 【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回目：生きている地球3 【プレートテクトニクスとプルームテクトニクス】
- 5回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球地球史を記録する地層と化石1 【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球地球史を記録する地層と化石2 【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
- 8回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
- 9回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
- 10, 11回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
 - 10回目：カンブリア爆発の特徴と原因
 - 11回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
- 12回目：繰り返す大量絶滅1 【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
- 13回目：繰り返す大量絶滅2 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
- 14回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
- 15回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に關係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき關係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小小木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 実存の思想(6)【補足】
- 8回 確認テスト
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【フロイト以後】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末テスト...50%
(※第8回に予定している確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則として、このテストを受験していない者には単位を認めない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布した講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）の当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書く留めた穴埋め箇所を中心に復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落したら、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		市民活動論 RDE001F	

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の＜萌芽＞② - 市民
 - 7回 市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の＜再生＞② - 市民
 - 9回 市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の＜広がり＞② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回「財・サービスの提供機関」としての企業① 【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
- 第3回「財・サービスの提供機関」としての企業② 【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
- 第4回「株式会社」としての企業① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第5回「株式会社」としての企業② 【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
- 第6回「大企業」としての企業① 【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
- 第7回「大企業」としての企業② 【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
- 第8回2-7回のまとめ
- 第9回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象(1) 【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第10回「家」としての日本企業② 人事における日本企業特有の現象(2) 【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
- 第11回「家」としての日本企業③ 株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第12回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第13回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第14回「社会的器官」としての日本企業 【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 中間テスト・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナルリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウェイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 北 現代アメリカ合衆国の社会(1) 【人種】
- 第7回 北 現代アメリカ合衆国の社会(2) 【移民】
- 第8回 白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長・SNA・投資】
- 第9回 松田 総合商社と海外プロジェクト 【プロジェクトファイナンス・世界銀行】
- 第10回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第11回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第12回 尹 在日外国人と多文化共生 【在日コリアン】【ニューカマー】
- 第13回 尹 在日外国人と多文化共生 【ヘイトスピーチ】【多文化共生】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従って学習を進める。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第6回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第7回 子ども食堂「もがるか」の運営と取り巻く人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第8回 フードバンク運動参加の学生の取組みと討論	【学生】	担当：原田・三宅
第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回 グループワーク「会社を作る」を通してのガバナンスの理解	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念を考える		担当：三宅・伊野・申
第15回まとめ～ガバナンスに関してのグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、マスメディアに見られる「ガバナンス」に関する情報を収集しておき、自らのガバナンス概念を考えておく。事後学習は、授業で習ったそれぞれの「ガバナンス」概念・説をノートに整理しておく。最後のグループワークで活かす。

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 民主主義 フードバンク 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 赤司 友徳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、通信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、多彩な経歴を持つ人物である。後藤は入念な調査と分析に基づく、経費積算、計画立案を行うという科学的視点を重視し、「科学的政治家」などと評された。本講義では、後藤の「科学」に着目し、彼が関わった行政・政治・外交の重要な局面において、その科学的視点がどのように活かされたのかを読み解く。またそれらの歴史的転換点において、後藤と関わった著名人の史料もあわせて読みながら、史料に基づいた歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年（復刻版）
 - 北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
 - 鶴見祐輔『決定版 正伝・後藤新平』全8巻、藤原書店、2004～2007年
- この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 愛知県病院長兼医学校長時代：自由党異変【板垣退助】、健康警察医官設置之建白書
- 第3回 内務省衛生局長時代：『国家衛生原理』、万国衛生会議、【北里柴三郎】
- 第4回 内務省衛生局長時代（1）：「医師免許規則改正法案」、伝染病研究所設置問題【北里柴三郎、福沢諭吉】
- 第5回 内務省衛生局長時代（2）：『陸軍検疫部報告書』【児玉源太郎】
- 第6回 内務省衛生局長時代（3）：「台湾阿片二関スル意見」【伊藤博文】【桂太郎】
- 第7回 台湾民政長官時代：台湾公債事業【児玉源太郎】【新渡戸稲造】
- 第8回 南満州鉄道総裁時代：「満州経営作梗概」、【原敬】
- 第9回 国務大臣時代（1）：【桂太郎】【西園寺公望】【山本権兵衛】
- 第10回 国務大臣時代（2）：【水野錬太郎】、シベリア出兵
- 第11回 第一次世界大戦後の欧米遍歴時代：【新渡戸稲造】【原敬】
- 第12回 東京市長時代：「大調査機関設置構想」【原敬】、東京市政調査会【安田善次郎】
- 第13回 在野時代：対ソツフェ交渉
- 第14回 国務大臣時代（3）：関東大震災と帝都復興
- 第15回 まとめ

※【 】の人名は、後藤新平以外に取り上げる史料の作成者

歴史の読み方I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%) と平常点 (授業への参加態度、コメント等で20%) で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業の終わりに、次回使用する史料を配付するので、よく読んで予習をしておくこと。また授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の世界。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と世界。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1960年代の世界。
- 第10回：1960年代のミャンマー。
- 第11回：1980年代の世界。
- 第12回：1980年代のミャンマー。
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみることに（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
 21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
 イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。
 こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くか決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
 口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks
必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 (講義) 運動と身体の健康
 - 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
 - 4回 (実習) 運動強度測定
 - 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
 - 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
 - 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
 - 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
 - 9回 運動の効果(身体的側面)
 - 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
 - 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
 - 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
 - 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
 - 14回 これからのスポーツ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また講義の場合には、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。実技のときには、その内容を無理のない程度で、自宅で試してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となってほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義【心理学】【学際性】
- 2 回 幼児、児童の心身の発達と教育【表象世界】【しつけ】【不適応】
- 3 回 児童期の発達【学級崩壊】
- 4 回 学習過程【条件づけ】、【強化】、【般化】、【モデリング】、【洞察等】
- 5 回 動機づけ【内発的動機づけ、帰属】
- 6 回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 7 回 家庭における教育【教育への動機】
- 8 回 学校組織と教師【組織としての学校の特殊性】【職業としての教師の特殊性】
- 9 回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 10 回 教室内過程【生徒間関係】
- 11 回 教育評価【測定】
- 12 回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 13 回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 14 回 現代の教育問題について
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%
※小テストは3～4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前の予習としては、教育心理学に関する内容を特定のテーマに偏ること無く、図書館等で参考になる本を自主的に読むなどしておくことが望ましい。講義後の復習としては、学修したキーワードに関して深く掘り下げるための本を読んでほしい。その際、教育心理学のみならず、発達心理学、社会心理学、学習心理学などの本も参考になるので幅広い分野の本を手にとって欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教育心理学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学 (英語) 【夜】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化現象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 文化社会学	SOC211M
(比文) 比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

The course involves a series of topics on culture and society. Introducing a wide range of contemporary essential debates in culture in everyday life, we will discuss how one's cultural practice construct our social world, in relation to politics and economy. Most classes will consist of lectures (60 min) and a group discussion (30 min) about the topic. Students taking this course will improve a skill of critical analysis about culture in society.

教科書 /Textbooks

Selected readings will be provided, one week prior to the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week01: orientation
week02: culture- key ideas
week03: culture and class- cultural capital
week04: culture as politics- introduction to cultural studies
week05: gender and sexuality
week06: race and ethnicity
week07: consumption (mid-term essay due)
week08: popular culture and digital media
week09: family
week10: tourism
week11: cultural nationalism
week12: migration and diaspora
week13: multiculturalism
week14: individual presentation (assignment 3.)
week15: recapitulation (final essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

To secure a credit, students must complete all assignments (2, 3 and 4).
1. class participation (20%)
2. mid-term short essay (due date: week 7) (20%)
3. short individual presentation (week 14, 10min) (20%)
4. final essay (due date: week 15) (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read through the provided readings carefully prior to the class and prepare for the discussion. All students will be requested to demonstrate your own opinion about the topic in the class. All assignments must be handed-in by due date. Penalty will be applied to late submission.

履修上の注意 /Remarks

文化社会学（英語）【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are expected to be willing to take the class, and to engage with other classmates. Any questions, opinions and suggestions are always welcome in the lecture. Alternatively, email to the instructor (hamano@kitakyu-u.ac.jp) or visit to the office in person (2-315, by appointment).

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要が学ぶ内容の主な柱となる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・人体の部位の名称について 水分と脱水 血液の成分 心臓の構造について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・運動支持器の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・内分泌器・神経系・感覚器・皮膚・生殖器・その他の構造と機能について学ぶ
6. 国際生活機能 (ICF) の基本的な考え方と概要・・・国際障害分類 (ICDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷について学ぶ
7. 健康の捉え方・・・健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義について学ぶ
8. 疾病の概要①・・・生活習慣病の病態・診断治療法について学ぶ
9. 疾病の概要②・・・神経精神疾患・先天性精神疾患の病態・診断・治療法について学ぶ
10. 疾病の概要③・・・悪性腫瘍・難病の病態、その他高齢者に多い疾患 終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
11. 障害の概要①・・・視覚障害・聴覚障害、平行機能障害、肢体不自由について学ぶ
12. 障害の概要②・・・内部障害・発達障害・認知症について学ぶ
13. 障害の概要③・・・高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
14. 障害の概要④・・・精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 その他について学ぶ
15. リハビリテーションの概要・・・リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題レポート 20% 出席・授業参加度 10%の割合で評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ねテキストに則して進めるので、テキストの該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

社会調査の基礎【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人と環境の相互作用に関する専門知識に加え、相談援助の対象と実践モデルについて理解する。
技能	専門分野のスキル	● 地域で相談援助活動を行っていく上で必要とされる、具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から状況を判断し、個々人が抱える問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 1

SOW262M

授業の概要 /Course Description

「相談援助の理論と方法I」では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び相談援助における援助関係構築に関する理論を学習し、相談援助とは何かを深める。その学習をもとに実践する場合の展開過程を丁寧に辿り、各段階の目的や内容を理解する。さらに相談援助を実践するために重要な視点や必要な技術について理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「新 社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法I 第3版」
中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて 授業の中で紹介する。
その他 適宜 資料プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「相談援助の理論と方法I」で何を学ぶのか。全体の講義の概要。
- 第2回 相談援助とは 「ソーシャルワークの定義と枠組み・対象の理解」
- 第3回 相談援助の構造と機能 「ソーシャルワーカーの役割」
- 第4回 人と環境の相互作用 「システム理論とソーシャルワーク」
- 第5回 ジェネラリスト・ソーシャルワークについて
- 第6回 相談援助における援助関係 「援助関係の構造や援助者の自己覚知について」
- 第7回 相談援助の展開過程I 「ケース発見から問題把握・ニーズ確定まで」
- 第8回 相談援助の展開過程II 「アセスメントからプランニングまで」
- 第9回 相談援助の展開過程III 「プランニングから支援の実施へ」
- 第10回 相談援助の展開過程IV 「モニタリングから地域の課題表出へ」
- 第11回 相談援助のための面接技術について 「面接技法の意義と目的」
- 第12回 相談援助面接の実際
- 第13回 相談援助のためのアセスメント技術について 「アセスメントの方法と留意点」
- 第14回 相談援助における記録の技術について 「記録の意義と倫理」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テレビや新聞などのメディアや書籍で扱われている、貧困や労働、高齢者や障害者に関すること等様々な社会問題に関心を持って情報を収集すること。関連する制度について調べる。

相談援助の理論と方法 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワーカーがクライアントに対して行う相談、助言・指導・連絡・調整・その他の援助に関する「理論と方法」について学ぶ、相談援助演習や相談援助実習指導、および相談援助実習に関連する重要な科目の一つである。
特に個人から家族・小集団・組織・地域社会というマイクロからメゾ、マクロまでをクライアントシステムとして捉え、理解することを目的とする。
具体的には「相談援助の対象の理解」、「ケース（ケア）マネジメント」、「コーディネーションとネットワーク」、「実践モデルとアプローチ」、「スーパービジョンとコンサルテーション」等についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

中央法規「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 第3版」社会福祉士養成講座編集委員会編
ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房編集部編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内にて適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 相談援助の対象の理解
- 第2回 ケア（ケース）マネジメント（1） ケアマネジメントの概念と援助過程
- 第3回 ケア（ケース）マネジメント（2）ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴
- 第4回 ケア（ケース）マネジメント（3）ケアマネジメントの特徴
- 第5回 グループを活用した相談援助
- 第6回 コーディネーションとネットワーク
- 第7回 社会資源の活用・調整・開発
- 第8回 さまざまな実践モデル・アプローチ（1）
- 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ（2）
- 第10回 さまざまな実践モデル・アプローチ（3）
- 第11回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第12回 ケースカンファレンスの技術
- 第13回 相談援助における個人情報保護
- 第14回 ケースカンファレンス（事例検討）（1）
- 第15回 ケースカンファレンス（事例検討）（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70%
講義に対する取り組み・・・20%
課題・・・10%

相談援助の理論と方法 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本科目単独での学びだけでなく、他の科目との関連性にも留意しながら学習すること
テキストを中心に、多くの相談援助技術に関する書籍にも目を通すこと

履修上の注意 /Remarks

評価は3分の2以上の出席がある者を対象とする
講義開始後30分以内は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとする
また中途の退室も減点の対象とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域福祉に関する基本的考え方等について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● ネットワーキング等の具体的な支援技術、問題解決へのコーディネート力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から地域福祉問題の本質を見抜き、その解決策を提案する力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域福祉活動に積極的に取り組む姿勢を獲得する。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法 1

SOW210M

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程 1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程 2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 日常の授業への取り組み20% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

履修上の注意 /Remarks

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスのあり方は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、社会保障費の増加や社会福祉従事者の増加は、日本が築いてきた社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の問題等、規制改革とともに新たな福祉経営がもたらされる時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に信頼が築ける施設経営が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の地域福祉及び福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利理解
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、事後学習としてテキストの振り返りが大切です。

福祉サービスの組織と経営【夜】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。
担当教員は福祉施設の施設長(社会福祉士・主任介護支援専門員)ですが、その立場から経営論を市民、地域、行政、関連事業者のニーズを踏まえて論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題(20点) + 期末試験(80点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

社会保障【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び昨年4月に施行された「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への「合理的配慮」の意義と目的を理解する。その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第5版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守ること① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守ること② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め教科書に目を通し疑問点を整理しておくこと。授業終了後には配布したプリントを復習しファイル化して反復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

テレビ・ラジオ、新聞等のメディアや書籍に取り上げられる障害者に関する情報を意識的に収集すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

近年の貧困と格差の拡大傾向を背景として、生活保護費保護者数は史上最高数に達し、また、ワーキングプアー、ネットカフェ難民、孤立・孤独死、DVなど、貧困に伴う問題状況も多様化し、生活保護と他の所得保障制度との連携や被保護世帯に対する社会福祉的援助の強化が求められています。

この講義では、低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得すること、低所得者に関する諸問題を的確にとらえ、支援策を導く能力を習得すること、および、低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に関する関心を深め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として、講義を行います

具体的には以下の学習到達目標に従って講義を行います。

1. 低所得者層の生活実態と福祉需要について説明できること
2. 福祉需要を有する者に対する相談援助において必要となる生活保護制度について説明できること
3. 生活保護と関連する他の低所得者支援制度について説明できること
4. 低所得者に対する自立支援の意義と課題について説明できること
5. 公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向について説明できること

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田正美監修・著 「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第3版】」 MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ￥2,600
 岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアーなど、現代の貧困に迫るものです。）
 小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（立案者による生活保護法の逐条解説です）

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15回の講義について、以下の計画に従って授業を行います。

- 第1回 貧困の概念 → 絶対的貧困と相対的貧困、相対的貧困率
- 第2回 現代の貧困問題 → 貧困に伴う問題、低所得層の福祉需要
- 第3回 福祉国家と生存権 → 福祉国家の意義と変容、社会的包摂
- 第4回 公的扶助の意義と役割 → 社会保険の定型性と公的扶助の補足性
- 第5回 貧困対策の歴史 → 救貧制度の歴史、生活保護法の成立
- 第6回 生活保護制度（Ⅰ）法の目的、保護の原理・原則、受給資格と保護内容
- 第7回 生活保護制度（Ⅱ）保護の行政組織
- 第8回 生活保護制度（Ⅲ）保護の実施
- 第9回 生活保護制度（Ⅳ）被保護者の権利・義務と費用
- 第10回 生活保護制度（Ⅴ）権利救済と援助活動
- 第11回 生活保護制度（Ⅵ）被保護者の動向と公的扶助の課題
- 第12回 海外の公的扶助制度改革の動向
- 第13回 社会保険と社会手当の動向 → 母子世帯と児童扶養手当制度
- 第14回 第二のセーフティネット → 求職者支援制度、生活困窮者自立支援制度、ホームレス自立支援法
- 第15回 住宅保障と生活福祉資金貸付制度

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（30%）、定期試験（70%）により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、その知識の正確さないし説明の適切性について筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 以下の点に留意して履修してください。
- ・ 疑問点は積極的に質問するよう心がけること
 - ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、予習および事後の学習に心がけること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ、拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択して自分なりの問題関心を持って授業に臨んでほしいと思います。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

相対的貧困、絶対的貧困、「見えない貧困」、「貧困の連鎖」、社会的排除
エリザベス救貧法、恤救規則、社会保険の定型性、公的扶助の補足性、生存権
生活保護基準、資産調査、福祉事務所、自立支援プログラム、第二のセーフティネット
生活困窮者自立支援

環境経済学【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネツツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

環境経済学 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育制度論

EDU227M

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原理解(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育制度論 【夜】

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育課程についての基本的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理解
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 人の移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育課程論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育原理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教職論

EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

教職論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どものコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 道徳教育実践の主体としての教師 - 道徳は教えられるか?
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の花」となる生活を創造する
12. 「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、期末試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	● 教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	● 多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

教育相談【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの“view”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の“view”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 生徒指導の目的、生徒指導の3機能、生徒指導の三つの局面などに関する基本的な知見を獲得している。
技能	専門分野のスキル	● 様々な課題を持つ生徒の感情やニーズを適切に捉えた対話や指導に必要な基本的なスキルを修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● いじめ、学級崩壊など、学校現場で表出されてくる問題事象を総合的に分析し、その取り組みの方針を立案する力の基礎を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの人権を尊重する態度を基盤にして、生徒に積極的に関わり、信頼関係を築いていこうとする意欲を持っている。
	生涯学習力	● 学校現場で日々生じてくる生徒との関わりや問題から学びと気づきを得、自分自身の実践力を高め続ける努力を行っている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生徒・進路指導論

EDU261M

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

生徒・進路指導論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
 なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
 授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
 できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育学 【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教員免許の取得に必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 教育の方法と技術についての実践的活用能力を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育の方法と技術についての諸問題を捉え、分析・検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育の方法と技術について実践的指導力を身につける。
	生涯学習力	● 教育の方法と技術の実践的活用能力の資質を主体的に高めることができる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育学

EDU265M

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

教育工学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究，模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

道德教育指導論【夜】

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	● 教育方法についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育方法についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育方法学

EDU260M

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい教育の方法と技術 2012 篠原 正典(著), 宮寺 晃夫(著) ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
 第3回：授業の歴史（欧米）
 第4回：授業の歴史（日本）
 第5回：学習の理論・協同的な学び
 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
 第9回：情報機器・メディア活用の授業
 第10回：「学力」について考える
 第11回：授業の研究1
 第12回：授業の研究2
 第13回：教師の専門性・専門職性
 第14回：教材研究・教材開発
 第15回：まとめ
 定期試験
 （2～4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5～10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11～14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
 発表・レジュメ作成・・・ 20%
 最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

教育方法学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人権教育についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人権教育についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人権教育論

EDU228M

授業の概要 /Course Description

- 人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
- 教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研ぎ、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書 /Textbooks

- 「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造

第1回 「体罰」と人権

- 教育現場の体罰の実態。
- 体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。

第2回 「いじめ問題」と人権①

- 「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、教育内容の創造の道筋を考える。

第3回 「いじめ問題」と人権②

- 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
- いじめ認知調査「レジリエンス」(自己回復力)

第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」

- 「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
- ①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
- 「人権が尊重される授業づくり」「自尊心と学習理解力・人権意識の相関関係」
- 「全国学力テストの結果の分析と課題」

第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。

- 「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」

第6回 ③教育環境、雰囲気づくり

- 「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」

第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。

- 「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
- 「金子みすずの詩と東京大学入試問題」

第8回 個別の人権課題に学ぶ①

- 発達障害と子どもの人権

第9回 個別の人権課題に学ぶ②

- 「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業

第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ

- 一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
- ②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
- 「腑分け」の主人公

第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり(成立)について学ぶ

- 明治時代～大正時代～昭和時代
- 「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」

第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」

- 「竹田の子守唄と少女たちの叫び」

第13回 ○「結婚差別」(2人の若者の遺書)

- 「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。

第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」

- 「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」

第15回 ○同和問題解決への国の施策

- 「同和対策審議会・答申～同和対策事業特別措置法」
- 「部落差別の解消の推進に関する法律」について
- 法律制定の経緯と意義。
- 部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎時間の「受講票」「定期的な小テスト(レポート)」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
- 「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
- 評価の割合は「テスト」(60%)、「受講票」(20%)、「小テスト(レポート)」(20%)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- この授業科目の単位(2単位、週90分授業)を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
- 基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
- テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
- 「小テスト、レポート(100字以内)」は、事前に予告します。
- 「レポート用紙」は、事前に配布します。
- 自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人権教育論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 学習指導要領「特別活動」の目標と内容についての基本的な理解を獲得している。
技能	専門分野のスキル	● 学級活動や学校行事を進めていくうえでの基本的な指導方法について獲得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 学級や子ども集団の中にある課題を分析しつつ、その課題の達成に向けての指導方針を立案する力の基礎を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実際の学級担任として、あるいは学校行事の担当者として生徒に積極的に関わっていく意欲と態度をもっている。
	生涯学習力	● 特別活動の実践のPDCAサイクルを理解し、日々、実践の質を高めていく自己教育力の基礎を獲得している。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

特別活動論

EDU263M

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」（平成20年9月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

特別活動論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域で行うスポーツ活動についての基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	地域で行うスポーツ活動を通じて専門分野の基礎的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ活動においての諸問題を的確に捉え、運営や企画がスムーズに行えるよう導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域のスポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティスポーツ論

HSS220M

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 11回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 12回 地域スポーツの将来像
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会(まとめ)
- 15回 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(ミニレポートを含む)・・・60%、小テスト・・・20%、期末レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

コミュニティスポーツ論 【夜】

キーワード /Keywords

身体適応論 【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境（熱中症の予防）
- 13回 運動への行動変容（1）【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容（2）【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストなど）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【夜】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【夜】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価 身体組成・体力の測定
- 12回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 13回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面
- 14回 発育発達期におけるトレーニング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

トレーニング論【夜】

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1	SOW100M
-----------	---------

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
- 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
- 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
- 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイスティック】
- 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
- 9回 社会福祉の歴史（イギリス） 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 10回 社会福祉の歴史（日本） 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
- 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】 【賀川豊彦】
- 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
- 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
- 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業内容のキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で配布した学習用問題プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジユメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

見島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓 / 編集『現代社会と福祉』東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2016』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 4回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 5回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 6回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 7回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 8回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 9回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 10回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 11回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 12回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法】
- 13回 福祉サービスと援助活動【地域福祉への展開】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出（20点）+ 期末テスト（80点）= 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：テキストや講義時に紹介する参考書を読んでおくこと。
- 事後学習：講義時に配布する資料等を基に、学んだ内容を復習すること。

現代社会と福祉 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉 1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

経済地理学I【夜】

担当者名 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10%
期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済活動が実際の空間・地域でどのように行われるのか、理論と現実を結び付けて解説していきます。

経済地理学I 【夜】

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
 2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学II【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

法学総論【夜】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
 山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成29年版』（有斐閣・2016年）
 ※基本的に配布するレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
 笹倉秀夫『法学講義』（東京大学出版会・2014年）(図書館蔵書：○)
 ※このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か（1）【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か（2）【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か（3）【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法（1）【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法（2）【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法（3）【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法（1）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法（2）【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法（1）【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法（2）【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進捗等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

社会科学教育法 A 【夜】

担当者名 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科学、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省) 167円+税
- ・他にも講義内で資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科学の理論と実践』 学文社 2007 1900円+税
- ・他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：地理的分野の目標とその取り扱い
 - 第4回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第5回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第6回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第7回：社会科学の授業づくり グループワークについて
 - 第8回：社会科学の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 「地誌作成」について
 - 第10回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第11回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第12回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第13回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第14回：社会科学教師に求められる資質・能力
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
最終試験・課題レポート・・・30%
学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワークの準備
- 事後学習：学習指導要領に関する理解と確認、講義後に指示を行う

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Aの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成をめざす。また教育方法論や授業理論について学習する。現代社会の諸問題を取り上げ、教材開発につなげる。

本授業は、全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、社会科を担当する教員として、学習指導要領、教材開発、授業形式、授業内容に関する知識などを習得した上で受講者は模擬授業を行い、受講者全員で検討していく。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 学習指導要領における中学社会科と社会の諸問題
- 第 3回 教育方法論・教材開発
- 第 4回 個が育つ教育・個性をみるために
- 第 5回 授業研究・教員評価について
- 第 6回 学習指導案の作成作業 教師による影響の注意
- 第 7回 模擬授業
- 第 8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第 9回 体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて、模擬授業
- 第 10回 グローバル化について、模擬授業
- 第 11回 環境問題について、模擬授業
- 第 12回 情報化社会について、模擬授業
- 第 13回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第 14回 規範意識について、模擬授業
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%、各授業でのミニレポート 40%、模擬授業時に作成する学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 模擬授業のための教材開発・教材研究・指導案の作成

事後学習 模擬授業の評価・実践した模擬授業について仮定の試験問題作成を行う

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数、参加状況によって、予定が変更されることがある。
積極的な参加が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習 2 と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習 2 と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習 3 のみ受講の場合は教育実習 2 で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習 2 の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理、プレゼンテーション方法の説明
- 2回 子どもたちから学び、一緒に成長できる教師であるために(実践報告とグループ討論)
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのロールプレイ実習
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
- 7回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題(グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習(中・高)【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力